

National Institute of Technology(KOSEN), Fukushima College

独立行政法人国立高等専門学校機構

福島工業高等専門学校要覧



2022

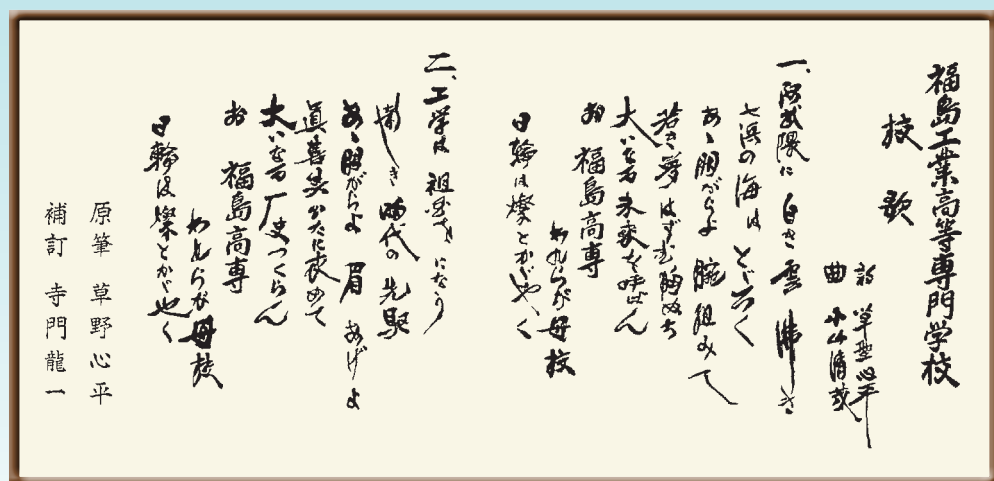
機械システム工学科／電気電子システム工学科／化学・バイオ工学科／都市システム工学科／ビジネスコミュニケーション学科
専攻科：産業技術システム工学専攻／ビジネスコミュニケーション学専攻

目次	Contents
教育理念 学習・教育目標 ポリシー等	2 Educational Philosophy, Educational Goals, Admission Policies
沿革	6 School History
歴代校長	7 Former Presidents
名誉教授	7 Professors Emeritus
組織	8 Organization
教職員数	8 Number of Staff
役職員	8 Executive Officials
組織図	9 Organizational Diagram
委員会等	9 Committees
学科紹介	10 Departments and Program
一般教科	10 Department of General Education
機械システム工学科	12 Department of Mechanical System Engineering
電気電子システム工学科	14 Department of Electrical and Electronic System Engineering
化学・バイオ工学科	16 Department of Applied Chemistry and Biochemistry
都市システム工学科	18 Department of Civil and Environmental Engineering
ビジネスコミュニケーション学科	20 Department of Business Communication
教育課程	22 Curricula
専攻科紹介	29 Programs for Advanced Courses
産業技術システム工学専攻	31 Industrial Technology System Engineering Course
ビジネスコミュニケーション学専攻	35 Business Communicology Course
持続可能な社会の発展に向けた取組	39 Projects for Sustainable Developments:SDGs Promotion Projects
廃炉に向けた人材育成の取組	41 Human Resources Development on Decommissioning Projects
原子力規制人材育成事業	42 Human Resources Development on Nuclear Regulation
福島イノベーション・コースト構想への対応	43 Contribution to the Fukushima Innovation Coast Framework
除去土壌の再生利用等に関わる地域の若者を中心とした理解醸成事業	44 Young Student's Contribution to Public Relations for Reuse of Very Low-level Contaminated Soil Generated by Decontamination of Fukushima
図書館	45 Library
情報処理教育センター	46 Information Processing Education Center
地域環境テクノセンター	47 Center for Environmental Technology and Community Liaison (CETCL)
国際化・SDGs推進センター	49 Center for International Relations and SDGs Promotion
モノづくり教育研究支援センター	51 Manufacturing Support Center for Education and Research
学生学習支援センター	52 Student Learning Support Center
学生保健センター	53 Student Health Care Center
福利厚生施設「磐陽会館」	53 Ban'yo Student Hall and Health Center
学寮「磐陽寮」	54 Ban'yo Student Dormitory
学生	55 Student Body
学生定員及び現員	55 The Number of Students
出身地別学生数	55 The Number of Students by Home District
入学志願者状況	56 The Number of Applicants for Admission
奨学生数	56 The Number of Scholarship Students
卒業生の進路	57 Career Path of the Graduates, Class of 2021
就職者の産業別分野	57 Employment by Industry
大学等編入学状況	58 Students Continuing Education at National, Public, and Private Universities
専攻科修士の進路	59 Place of employment / Graduate school :Advanced Course graduates
収入支出決算額	60 Finances
科学研究費助成事業及び外部資金の受入状況	60 Grant-in-Aid for Scientific Research and Acceptance of External Funds
土地・建物	60 School Grounds, Buildings and Facilities
建物配置図	61 Campus Map





校長
山下 治



— スローガン —

持続可能な社会発展を目指し、グローバルに活躍する次世代技術者を育成する



教育理念

1. 広く豊かな教養と人間力の育成
2. 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3. 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

学習・教育目標

- (A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- (B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- (C) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- (D) イノベーションに即応するために、情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
- (E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
- (F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

福島高専ディプロマポリシー（卒業・修了認定方針）

本校では、以下の「養成する人材像」に示す人材を育成する教育内容を学習し、「卒業時・修了時に身につけるべき資質能力」を身に付け、所定の単位を修得し、卒業・修了要件を満たした学生に対して卒業・修了を認定します。

○養成する人材像

＜準学士課程（本科）、専攻科課程＞

●工学系学科と専攻

- ①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
- ②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
- ③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
- ④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

●ビジネス系学科と専攻

- ①自己実現ができるビジネス・スペシャリスト
- ②グローバルなコミュニケーション能力を有するビジネス・スペシャリスト
- ③論理的思考に優れたビジネス・スペシャリスト
- ④長期的な視野をもち、持続可能な社会の実現に貢献するビジネス・スペシャリスト

準学士課程(本科)の各学科で養成する人材像

学 科	養 成 す る 人 材 像
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	機械工学の専門知識を持って他分野の技術も取り入れることで、高度化するシステムに対処し、常に発展する新しいモノづくりを担うことができる機械技術者を育成する
電 気 電 子 シ ス テ ム 工 学 科	電気・電子・情報の技術を応用することでシステムを構築し、産業界の多様な問題を解決できるクリエイティブな技術者を育成する
化 学 ・ バ イ オ 工 学 科	持続可能な社会を実現するために、物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学、化学工学などの専門分野の基礎知識を身につけ、化学製品、材料、食品など物質生産の分野において幅広く活躍できる化学技術者を育成する
都 市 シ ス テ ム 工 学 科	持続可能な建設技術を基礎に、社会基盤施設の維持・管理分野や自然災害に対する防災・減災分野で活躍できるシビルエンジニアを育成する
ビ ジ ネ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	社会に対して広く関心を持ち、進展するグローバル化に対応できるリテラシー（語学や情報など）を身につけるとともに、環境問題に配慮し持続可能な社会に貢献できる人材を育成する

専攻科課程の各専攻で養成する人材像

産業技術システム工学専攻

本科の機械システム工学科、電気電子システム工学科、化学・バイオ工学科、都市システム工学科のそれぞれの専門分野の基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深める。また復興人材育成特別プログラムにより地域復興に活躍できる人材を育成する。本専攻は次の4つのコースから成る。

コ ー ス	養 成 す る 人 材 像
生 産 ・ 情 報 シ ス テ ム 工 学 コ ー ス	機械系・電気系の材料工学分野及び機械加工系、電子・情報工学系を融合した教育・研究を行う。機械設計関連、システム制御関連、電子物性関連及び情報関連分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を学び生産・情報分野で活躍できる人材を育成する。 このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムのロボット技術、メカトロニクス、防災通信等と密接に関係しており、これらの分野で地域の復興に活躍できる人材も育成する。
エ ネ ル ギ ー シ ス テ ム 工 学 コ ー ス	機械系・電気系のエネルギー関連分野の教育・研究を行う。エネルギー分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を学び、機械・電気関連のエネルギー分野で活躍できる人材を育成する。 このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムの再生可能エネルギー分野、原子力安全工学分野にも密接に関係しており、エネルギー関連産業で活躍できる人材も育成する。
化 学 ・ バ イ オ 工 学 コ ー ス	応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野の教育・研究を行う。化学・バイオ工学科（準学士課程）専門分野の基礎学力をさらに充実させたいうで、その専門性を高める。さらに、現代の応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野における先端技術やその動向に柔軟に対応できる人材を育成する。 このコースの教育研究は、復興人材育成特別プログラムの放射線計測関連分野に関係しており、廃炉技術の重要な一分野である放射線及び放射性物質の取扱いの分野で活躍できる人材も育成する。
社 会 環 境 シ ス テ ム 工 学 コ ー ス	建設・環境系の教育・研究を行う。土木工学と環境工学に関する専門知識を修得し、さらに関連科目の履修を通して複眼的視野を深める。これらを通して日々進化する先端技術に柔軟に対応しつつ、環境に配慮することのできる建設技術を身につけた人材を育成する。 このコースの教育研究は、復興人材育成特別プログラムの減災工学分野に関係しており、まちを災害から守る技術分野や災害復興に取り組む分野で活躍できる人材も育成する。

ビジネスコミュニケーション学専攻

準学士課程のビジネスコミュニケーション学科の専門的な基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深めることで、地域社会の発展に貢献するとともに、グローバルに活躍できる人材を育成する。本専攻は次の1つのコースから成る。

コ ー ス	養 成 す る 人 材 像
ビ ジ ネ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 コ ー ス	準学士課程のビジネスコミュニケーション学科で習得した社会学系知識の応用力を育み、さらに専門性を深める科目を履修する。くわえて、工学系とビジネス系のシナジー効果を期待できる科目を履修することにより、工学の基礎知識と国際社会で通用するビジネスコミュニケーション能力を併せ持つ人材を育成する。 このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムの各分野に関係しており、社会の持続可能性に配慮しながら地域社会の発展に貢献するとともに、たしかなコミュニケーション能力と国際感覚をもち、地域社会と国際社会の垣根をこえてグローバルに活躍できる人材も育成する。

卒業時(修了時)に身に付けるべき学力や資質・能力

準学士課程 (本科)

1. 豊かな教養と国際的な感覚を有し、継続的な自己学習ができる人間性
2. 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力
3. モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力
4. 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力
5. 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献できる能力

専攻科課程

1. 地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力
2. 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
3. モノづくりやデザイン能力を有し、工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力
4. 国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力
5. 福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力

福島高専アドミッションポリシー（入学者受入方針）

アドミッションポリシー（入学者受入方針）は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った人を入学させるための方針で、次のように定められています。

準学士課程（本科）

求める学生像

●全学科

1. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人（知識・技能）
2. 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人（思考力・判断力・表現力）
3. あらゆる物事に興味を持ち、深く探究する人（思考力・判断力・表現力）
4. 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人（主体性・協働）
5. しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人（主体性・協働）

●機械システム工学科

- ① ロボット技術や機械の仕組みに興味があり、アイデアを形にしたい人
- ② 環境にやさしいエネルギー技術に関心のある人
- ③ モノづくりの知識と技術を身に付けて、将来、地域の発展に貢献したい人

●電気電子システム工学科

- ① ロボット制御技術、エネルギー技術、情報通信技術に興味があり、将来、その技術者として社会に貢献したい人
- ② 電気回路やコンピュータ、センサなどを駆使して、様々なシステムをつくりあげたい人
- ③ 電気・電子・情報について学んだ知識を応用して、自分のアイデアを形にしたい人
- ④ 電気電子技術をベースとして、農林水産業、サービス業など様々な業種に関心を持ち、これらの産業を活性化したいと考えている人

●化学・バイオ工学科

- ① 化学やバイオテクノロジーの知識と技術を身につけて、将来、その技術者として地域・社会に貢献したい人
- ② 地球に優しい化学技術や新素材をつくり、環境問題の解決、持続可能な社会の構築を目指したい人
- ③ 学んだ化学バイオ技術を、農林水産資源の生産・管理や有効活用に役立てたいと考える人

●都市システム工学科

- ① 自然環境と調和した建設技術に興味を持っている人
- ② 道路・橋・港など建設構造物の維持管理に興味を持っている人
- ③ 災害に負けない安全なまちづくりに貢献したい人

●ビジネスコミュニケーション学科

- ① 社会・経済のしくみや動きに広く関心のある人
- ② 外国語によるコミュニケーション能力を高めて、グローバルに活躍したい人
- ③ 情報リテラシーを身につけて、高度情報化社会で活躍したい人
- ④ 地球環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献したい人

入学者選抜の基本方針

福島高専では以下の点を重視して、入学者の選抜を行います。

1. 中学校で学習する国語・社会・数学・理科・英語の学習内容を十分に理解していることを学力検査で評価します。
2. 中学校での成績評価が良好なことを調査書および推薦書で評価します。
3. 課題達成型推薦入試においては、モノづくりや課外活動などの課題に取り組み、顕著な結果を残していることを活動報告書で評価します。

専攻科課程

求める学生像

●全専攻

1. 専門の知識と基礎技術を有し、より高度な実践的かつ創造的技術を修得する意欲のある人（知識・技能）
2. 工学と経営の融合した分野に強い興味を持っている人（思考力・判断力・表現力）
3. 職業人としての倫理観を身につけ、専門分野で地域及び社会の発展に貢献したい人（主体性・協働）

●産業技術システム工学専攻

<生産・情報システム工学コース>

- ① 機械・電気の専門的な基礎力を有し、機械・情報を活用した創造的なモノづくりに興味を持っている人
- ② 生産・情報分野の技術者としての素養を身につけ、豊かな社会の発展に貢献することに意欲を持っている人

<エネルギーシステム工学コース>

- ① 機械・電気の専門的な基礎力を有し、エネルギー分野に興味を持っている人
- ② エネルギー分野の技術者としての素養を身につけ、豊かな社会の発展に貢献することに意欲を持っている人

<化学・バイオ工学コース>

- ① 応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野の学修と研究に打ち込み、先端技術に柔軟に対応できる知識とスキルを修得したい人
- ② 工学を修める者としての確かな倫理観を持ち、工学の発展及び地域・社会の環境改善に貢献したい人

<社会環境システム工学コース>

- ① 建設・環境工学の研究に打ち込み、先端技術に柔軟に対応する知識とスキルを修得したい人
- ② 確かな倫理観を持ち、工学の発展及び地域・社会の環境改善に貢献したい人

●ビジネスコミュニケーション学専攻

<ビジネスコミュニケーション学コース>

- ① 現代社会への幅広い関心を持ち、社会科学の研究と、語学や情報、環境問題などの関連分野の学習に打ち込む意欲を持っている人
- ② たしかなコミュニケーション能力と情報リテラシーを身につけ、地域社会と国際社会の垣根をこえてグローバルに活躍する意欲のある人

入学者選抜の基本方針

高等専門学校卒業程度の、各専門で必要な基礎的素養（工学系では、数学、各専門分野の基礎的知識・能力、ビジネス系では経営学分野の基礎的知識・能力）を有していることを評価します。評価方法は、推薦による選抜では推薦書・調査書・志望調査書、学力試験による選抜では調査書・志望調査書・学力試験、社会人特別選抜では調査書・志望調査書および面接とします。

また、外国語による国際的コミュニケーション基礎能力を有していることを、英語の資格に関する証明書で評価します。

沿革

昭和37年 4月	国立学校設置法の一部を改正する法律の施行により、平工業高等専門学校が設置され、機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科をもって発足した。 初代校長に、福島県教育長佐藤光が任命された。 開校式並びに第1回入学式を挙行し、121名に対し入学を許可した。 仮校舎（元県立平盲ろう学校・平市才樋小路20）で授業を開始した。 本校舎並びに寄宿舎の一部（第1期工事）が竣工した。 現在地に移転した。
昭和38年 3月	初めて学生祭を開催した。
昭和38年 4月	電気工学科実験棟・機械工学科実験棟並びに寄宿舎の一部（第2期工事）が竣工した。
昭和39年 3月	学校所在地の呼称を「磐陽台」と名付けた。同時に、寮は「磐陽寮」と命名した。
昭和39年 5月	校旗及び校歌を制定した。
昭和39年 6月	第1回東北地区工業高等専門学校体育大会を本校で開催した。
昭和39年 9月	第1体育館新築工事が竣工した。
昭和40年 3月	工業化学科実験棟・機械工学科実験棟並びに寄宿舎の一部（第3期工事）が竣工した。
昭和40年 4月	事務部に庶務・会計の2課が設置された。
昭和40年 9月	水泳プール新設工事が竣工した。
昭和40年 10月	校舎落成記念式典と第1回高専祭を開催した。
昭和41年 4月	陸上競技場（第一運動場）新設工事が竣工した。
昭和41年 9月	土木工学科が設置された。
昭和41年 10月	武道場新築工事が竣工した。
昭和42年 3月	本校所在地の市名が市町村合併により「いわき市」と改称された。
昭和42年 3月	土木工学科実験棟及び寄宿舎増築工事が竣工した。
昭和42年 3月	第1回卒業証書授与式を挙行し、109名に卒業証書を授与した。
昭和42年 6月	本校の名称を平工業高等専門学校から福島工業高等専門学校に改称した。
昭和42年 7月	第2種電気主任技術者認定学校の指定を受けた。
昭和44年 4月	事務部に学生課が設置された。
昭和44年 9月	佐藤忠良氏制作の「青年の像」が建てられた。
昭和45年 5月	テニスコート・野球場（第二運動場）新設工事が竣工した。
昭和47年 5月	創立10周年記念式典を第一体育館において挙行した。
昭和48年 3月	電子計算機室新築工事が竣工した。
昭和49年 3月	「建学之碑」が建てられた。
昭和52年 11月	創立15周年記念のつどいを第一体育館において挙行した。
昭和53年 1月	第二体育館新築工事が竣工した。
昭和53年 4月	初代校長佐藤光が退任し、第二代校長に文部省管理局教育施設部長柏木健三郎が任命された。
昭和54年 3月	環境科学教育研究センター新築工事が竣工した。
昭和54年 8月	初めて公開講座（環境科学）を開催した。
昭和55年 3月	一般教室増築工事が竣工した。
昭和56年 3月	福利厚生施設「磐陽会館」新築工事が竣工した。
昭和57年 6月	創立20周年記念式典を第一体育館において挙行した。
昭和59年 4月	校長柏木健三郎が退任し、第三代校長に茨城大学教授武田二郎が任命された。
昭和62年 4月	電子計算機室を情報処理教育センターに改名した。
平成元年 4月	校長武田二郎が退任し、第四代校長に茨城大学教授寺門龍一が任命された。
平成4年 10月	創立30周年記念式典をいわき市市民会館で挙行した。
平成6年 4月	コミュニケーション情報学科が設置された。
平成7年 4月	土木工学科が建設環境工学科に改組された。
平成8年 3月	コミュニケーション情報学科棟が竣工した。
平成8年 4月	工業化学科が物質工学科に改組された。
平成9年 4月	校長寺門龍一が退任し、第五代校長に茨城大学教授岩松幸雄が任命された。
平成13年 4月	地域交流センターが設置された。
平成14年 3月	低学年棟新築工事が竣工した。
平成14年 11月	創立40周年記念式典を管理棟大会議室において挙行した。
平成15年 4月	校長岩松幸雄が退任し、第六代校長に茨城大学教授安久正紘が任命された。
平成16年 4月	独立行政法人国立高等専門学校機構が発足した。
平成16年 4月	専攻科が設置され、第1回専攻科入学式を挙行し、28名に対し、入学を許可した。（機械・電気システム工学専攻、物質・環境システム工学専攻、ビジネスコミュニケーション学専攻の3専攻）
平成16年 4月	専攻科棟新築工事が竣工した。
平成18年 1月	第1回専攻科修了証書授与式を挙行し、26名に修了証書を授与した。
平成18年 3月	地域交流センターと環境科学教育センターを統合し、地域環境テクノセンターを設置した。
平成18年 4月	校長安久正紘が退任し、第七代校長に茨城大学教授奈良宏一が任命された。
平成19年 4月	事務部の3課を2課（総務課・学生課）に改組した。
平成19年 11月	「母子想像」が経済産業省の「近代化産業遺産」に認定された。
平成20年 3月	大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価の認定を受けた。
平成21年 4月	技術部をモノづくり教育研究支援センターに改組した。
平成22年 2月	大学評価・学位授与機構による認定専攻科における教育の実施状況等の審査において「適」を受けた。
平成23年 3月	第6回専攻科修了証書授与式及び第45回卒業証書授与式について、東日本大震災の影響により中止とした。
平成24年 10月	創立50周年記念式典及び記念講演会をいわき芸術文化交流館アリオスにおいて、記念祝賀会をいわきワシントンホテル椿山荘において挙行した。
平成26年 4月	校長奈良宏一が退任し、第八代校長に京都大学施設部長中村隆行が任命された。
平成27年 4月	専攻科3専攻（機械・電気システム工学専攻、物質・環境システム工学専攻、ビジネスコミュニケーション学専攻）が2専攻（産業技術システム工学専攻、ビジネスコミュニケーション学専攻）5コースに改組された。
平成27年 4月	学生保健センターが設置された。
平成28年 4月	コミュニケーション情報学科がビジネスコミュニケーション学科に改組された。
平成29年 4月	機械工学科が機械システム工学科、電気工学科が電気電子システム工学科、物質工学科が化学・バイオ工学科、建設環境工学科が都市システム工学科にそれぞれ改組された。
平成29年 4月	グローバル化推進センターが設置された。
平成30年 4月	校長中村隆行が退任し、第九代校長に文部科学省大臣官房文教施設企画部長 山下治が任命された。
令和2年 2月	図書館改修工事が竣工した。（昭和45年11月竣工）
令和2年 3月	第15回専攻科修了証書授与式及び第54回卒業証書授与式について、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。
令和3年 12月	国際寮（曙寮）が竣工した。
令和4年 3月	第17回専攻科修了証書授与式及び第56回卒業証書授与式を挙行した。
令和4年 3月	大学改革支援・学位授与機構が実施した高等専門学校機関別認証評価において大学評価基準に適合しているとの認定を受けた。
令和4年 4月	第61回入学式及び令和4年度編入学式並びに第19回専攻科入学式を各教室においてインターネットを使用して行った。

School History

National Institute of Technology, Fukushima College was founded in April 1962, as **Taira National College of Technology**. The College originally comprised three faculties, the **Department of Mechanical Engineering**, the **Department of Electrical Engineering** and the **Department of Industrial chemistry**. The **Civil Engineering Department** was added in 1966, the same year in which the City of Iwaki was formed through the merger of several existing towns and cities. The name of the school was changed to its current form in the following year.

Although classes were initially held in temporary structures, various permanent building and facilities have been constructed as follows: The main administrative and classroom building in 1963, departmental laboratory buildings between 1964 and 1967, four dormitories between 1963 and 1965, an athletic track and field in 1965, a library in 1970, a **computer center** in 1973, the **Environmental Science Education and Research Center** in 1979, and the **Ban'yo Student Hall and Health Center** in 1981.

In 1969 the Statue of Youth(Seinen no Zo)by the famous sculptor **Churyo Sato** was erected in front of the main administration building as the symbol of the college.

A ceremony commemorating the 30th anniversary of the founding of the school was held in 1992, along with various other events.

In 1994 the range of educational fields offered by the college was broadened when the four existing engineering departments were joined by the **Communication and Information Science Department**.

In November 2002 A ceremony commemorating the 40th anniversary of the College's founding was held in the Conference Room of the Administration Building.

In April 2004 Inauguration of Institute of National Colleges of Technology, Japan

Establishment of Advanced Engineering Courses (Advanced Course in Mechanical and Electrical System Engineering, Advanced Course in Chemical and Environmental System Engineering, and Advanced Course in Business Communication)

In January 2006 Completion of the building for Advanced Courses. Certificates were allotted for the Advanced Course Graduates.

In May 2007 Our curriculum, called "General Engineering" was authorized as a JABEE certificated program.

In April 2009 "Technical Office" was reorganized into "Manufacturing Support Center for Education and Research".

In February 2010 Education in the Advanced Courses was accredited by National Institution for Academic Degree and University Evaluation.

In October 2012 Ceremonies for 50th anniversary of the founding of the school were held, along with various other events.

In April 2014 Kouichi Nara, the principal of the school, retired. Takayuki Nakamura was appointed as the 8th principal of the school.

In April 2018 Takayuki Nakamura, the principal of the school, retired. Osamu Yamashita was appointed as the 9th principal of the school.

歴代校長

Former Presidents

佐藤 光	昭和37年4月1日～ 昭和53年3月31日
SATO Hikaru	
柏木 健三郎	昭和53年4月1日～ 昭和59年3月31日
KASHIWAGI Kenzaburo	
武田 二郎	昭和59年4月1日～ 平成元年3月31日
TAKEDA Jiro	
寺門 龍一	平成元年4月1日～ 平成9年3月31日
TERAKADO Ryuichi	
岩松 幸雄	平成9年4月1日～ 平成15年3月31日
IWAMATSU Sachio	
安久正 紘	平成15年4月1日～ 平成19年3月31日
AGU Masahiro	
奈良 宏一	平成19年4月1日～ 平成26年3月31日
NARA Koichi	
中村 隆行	平成26年4月1日～ 平成30年3月30日
NAKAMURA Takayuki	
山下 治	平成30年4月1日～
YAMASHITA Osamu	

名誉教授

Professors Emeritus

柏木 健三郎	昭和62年4月1日	山野 和一	平成22年4月1日
KASHIWAGI Kenzaburo		YAMANO Kazuichi	
武田 二郎	平成元年4月1日	根本 信行	平成22年4月1日
TAKEDA Jiro		NEMOTO Nobuyuki	
金田 誠	平成4年4月1日	井上 和人	平成22年4月1日
KANEDA Makoto		INOUE Kazuto	
中山 淳一	平成7年4月1日	佐東 信司	平成23年4月1日
NAKAYAMA Jun-ichi		SATO Shinji	
小林 伸吉	平成12年4月1日	森川 治	平成23年4月1日
KOBAYASHI Shinkichi		MORIKAWA Osamu	
坂本 智	平成13年4月1日	渡辺 敏夫	平成25年4月1日
SAKAMOTO Satoru		WATANABE Tdshio	
山形 弘道	平成14年4月1日	西山 公紀	平成25年4月1日
YAMAGATA Hiromichi		NISHIYAMA Kiminori	
岩松 幸雄	平成15年4月1日	秋山 秀博	平成25年4月1日
IWAMATSU Sachio		AKIYAMA Hidehiro	
日下部 剛資	平成15年4月1日	奈良 宏一	平成26年4月1日
KUSAKABE Takashi		NARA Koichi	
渡辺 洋太郎	平成16年4月1日	春日 健	平成26年4月1日
WATANABE Yotaro		KASUGA Takeshi	
官野 一彦	平成16年4月1日	根岸 嘉和	平成27年4月1日
KANNO Kazuhiko		NEGISHI Yoshikazu	
大隈 信行	平成18年4月1日	山ノ内 正司	平成29年4月1日
OKUMA Nobuyuki		YAMANOUCHI Masaji	
亀井 宣男	平成19年4月1日	中村 隆行	平成30年4月1日
KAMEI Nobuo		NAKAMURA Takayuki	
橋本 孝一	平成19年4月1日	鳥居 孝栄	令和3年4月1日
HASHIMOTO Koichi		YORII Katsui	
渡辺 博	平成21年4月1日	青柳 克弘	令和3年4月1日
WATANABE Hiroshi		AOYAGI Katsuhiko	

シンボルツリー「けやき」 School Tree: Zelkova

組織

Organization

●教職員数 Number of Staff

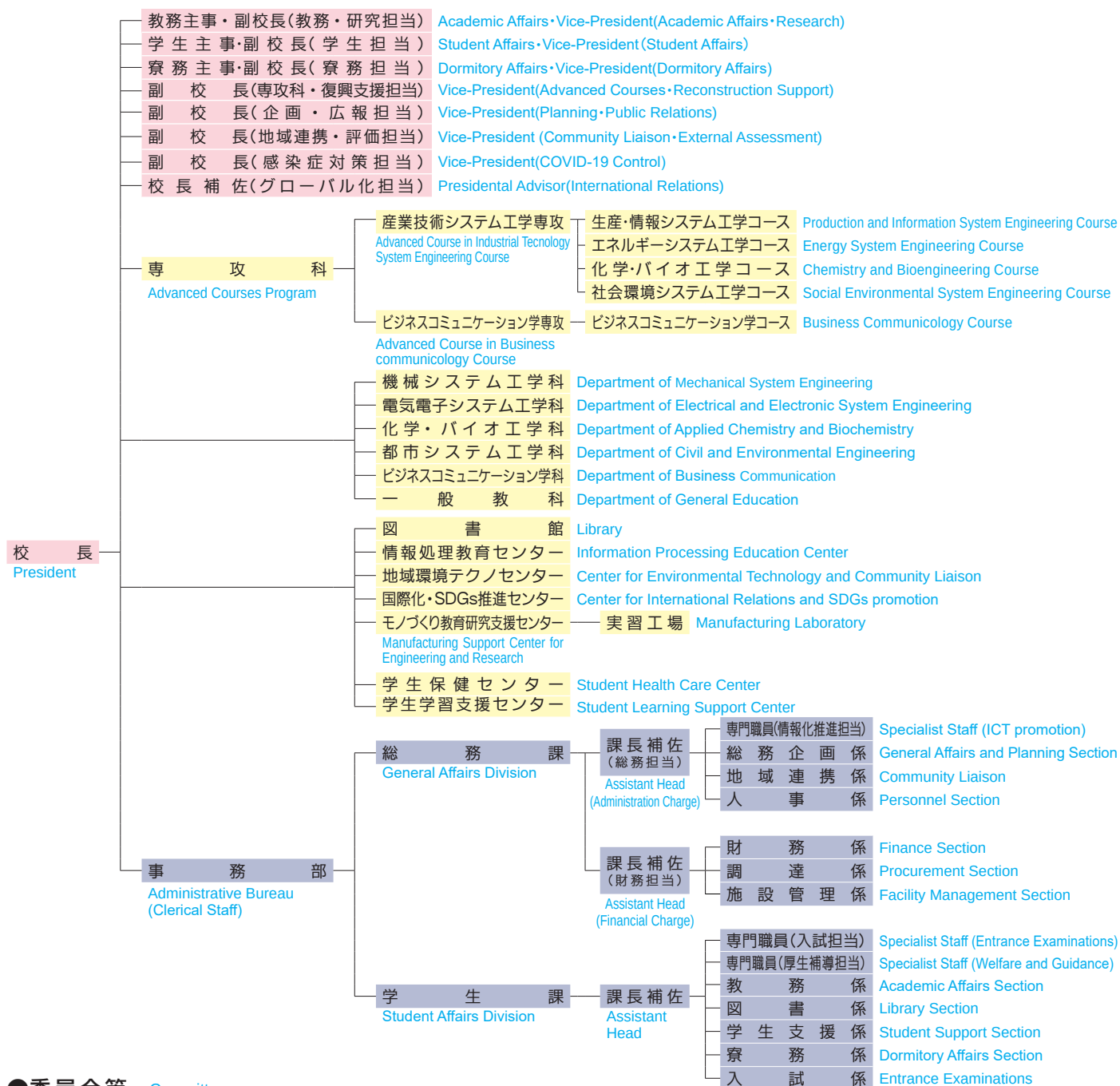
区 分 Classification	教職員数 Number of Staff
校 長 President	1
教 授 Professor	21
准 教 授 Associate Professor	31 (4)
講 師 Assistant Professor	4
助 教 Research Associate	13
特命教員等 Specially Appointed Faculty	1
小 計 Subtotal	71 (4)
事務系職員 Administrative Staff	43 (13)
計 Total	114 (17)

令和4年4月1日現在 As of April 1, 2022 ()内は女子数

●役職員 Executive Officials

校 長 President	山 下 治 YAMASHITA Osamu	地域環境テクノセンター長 Head of Center for Environmental Technology and Community Liaison	緑 川 猛 彦 MIDORIKAWA Takehiko
教務主事・副校長(教務・研究担当) Academic Affairs・Vice-President(Academic Affairs・Research)	緑 川 猛 彦 MIDORIKAWA Takehiko	国際化・SDGs推進センター長 Head of Center for International Relations and SDGs promotion	上野代 明 子 UENODAI Akiko
学生主事・副校長(学生担当) Student Affairs・Vice-President(Student Affairs)	笠 井 哲 KASAI Akira	モノづくり教育研究支援センター長 Head of Manufacturing Support Center for Education and Research	原 田 正 光 HARADA Masamitsu
寮務主事・副校長(寮務担当) Dormitory Affairs・Vice-President(Dormitory Affairs)	赤 尾 尚 洋 AKAO Takahiro	学生保健センター長 Head of Student Health Care Center	高 橋 宏 宣 TAKAHASHI Hironobu
副校長(専攻科・復興支援担当) Vice-President(Advanced Courses・Reconstruction Support)	原 田 正 光 HARADA Masamitsu	学生学習支援センター長 Head of Student Learning Support Center	西 浦 孝 治 NISHIURA Koji
副校長(企画・広報担当) Vice-President(Planning・Public Relations)	鈴 木 晴 彦 SUZUKI Haruhiko	技術専門員 Technical Chief	小 口 高 昭 OGUCHI Takaaki
副校長(地域連携・評価担当) Vice-President (Community Liaison・External Assessment)	芥 川 一 則 AKUTAGAWA Kazunori	技術専門職員(機械系ファクトリー グループ長) Chief Technical Official(Chief of Mechanical Factory Group)	福 崎 宏 FUKUZAKI Hiroshi
副校長(感染症対策担当) Vice-President(COVID-19 Control)	高 野 克 宏 TAKANO Katsuhiro	技術専門職員(広域系プラクティス グループ長) Chief Technical Official(Chief of Wide Area Practice Group)	安 藤 守 ANDO Mamoru
校長補佐(グローバル化担当) Presidential Advisor(International Relations)	上野代 明 子 UENODAI Akiko	技術専門職員 Chief Technical Official	松 口 義 人 MATSUGUCHI Yoshito
専 攻 科 Advanced Courses Program	専攻科長 Director of Advanced Courses Program	技術専門職員 Chief Technical Official	柳 沼 仁 志 YAGINUMA Hitoshi
	産業技術システム工学専攻長 Head of Advanced Course in Industrial Technology System Engineering Course	技術専門職員 Chief Technical Official	和 賀 宗 仙 WAGA Toshinori
	生産・情報システム工学コース長 Head of Production and Information System Engineering Course	事務部長 Director of Administration Bureau	鈴 木 剛 SUZUKI Takeshi
	エネルギーシステム工学コース長 Head of Energy System Engineering Course	総務課長 Head of General Affairs	吉 田 浩 二 YOSHIDA Koji
	化学・バイオ工学コース長 Head of Chemistry and Bioengineering Course	課長補佐心得(総務担当)(兼)地域連携係長 Assistant Head(Administration Charge) and Chief of Community Liaison	穴 戸 一 貴 SHISHIDO Kazutaka
	社会環境システム工学コース長 Head of Social Environmental System Engineering Course	課長補佐心得(財務担当)(兼)調達係長 Assistant Head(Financial/Charge) and Chief of Procurement	渡 邊 康 WATANABE Yasushi
	ビジネスコミュニケーション学専攻長 Head of Advanced Course in Business Communicology Course	専門職員(情報化推進担当) Specialist Staff (ICT promotion)	星 隆 良 HOSHI Takayoshi
	ビジネスコミュニケーション学コース長 Head of Business Communicology Course	総務企画係長 Chief of General Affairs and planning Section	鎌 田 晃 央 KAMATA Teruo
学 科 長 Head of Department	機械システム工学科長 Mechanical System Engineering	人事係長 Chief of Personnel Section	阿 部 倫 久 ABE Michihisa
	電気電子システム工学科長 Electrical and Electronic System Engineering	財務係長 Chief of Finance	数 馬 康 之 KAZUMA Yasuyuki
	化学・バイオ工学科長 Applied Chemistry and Biochemistry	施設管理係長 Chief of Facility Management	鈴 木 香 代 SUZUKI Kayo
	都市システム工学科長 Civil and Environmental Engineering	学生課長 Head of Student Affairs Division	高 橋 利 枝 TAKAHASHI Toshie
	ビジネスコミュニケーション学科長 Business Communication	課長補佐(兼)寮務係長 Assistant Head and Chief of Dormitory	藤 原 清 FUJIWARA Kiyoshi
	一般教科長 General Education	専門職員(入試担当) Specialist Staff(Entrance Examination)	武 井 和 代 TAKEI Kazuyo
図書館長 Head of Library	吉 村 忠 晴 YOSHIMURA Tadaharu	専門職員(厚生補導担当) Specialist Staff(Welfare and Guidance)	千 葉 純 也 CHIBA Junya
情報処理教育センター長 Head of Information Processing Education Center	島 村 浩 SHIMAMURA Hiroshi	教務係長(兼)図書係長 Chief of Academic Affairs Section and Chief of Library Section	吉 田 隆 敬 YOSHIDA Takayuki
		学生支援係長 Chief of Student Support	佐 藤 裕 美 子 SATO Yumiko

●組織図 Organizational Diagram

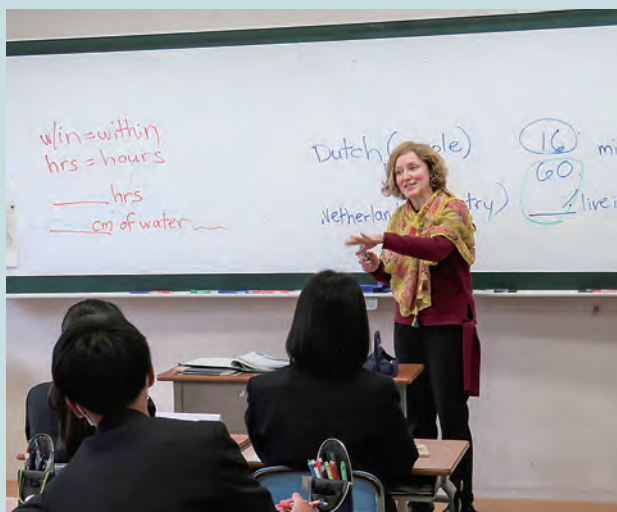


●委員会等 Committees

企 画 会	General Planning Committee	技 術 科 学 大 学 連 携 室	Network office of Universities of Technology
運 営 会 議	Steering Committee	地 域 復 興 支 援 室	Regional Reconstruction Support Office
教 員 会 議	Faculty Council	グリーンプログラム運営委員会	The Green Program Committee
専 攻 科 会 議	Advanced Courses Program Council	アクティブラーニング推進委員会	Active Learning Promotion Committee
リ ス ク 会 議 室	Risk Committee	ＩＳＴＳ及びＪＳＴＳ運営委員会	ISTS and JSTS Committee
男女共同参画・キャリア教育支援室	Gender Equality and Career Education Support Room	ハラスメント対策委員会	Harassment Prevention Committee
教 務 委 員 会	Academic Affairs Committee	総 合 評 価 審 査 委 員 会	General Evaluation Committee
学 生 委 員 会	Student Affairs Committee	ＴＯＥＩＣ実 施 委 員 会	TOEIC Committee
寮 務 委 員 会	Dormitory Affairs Committee	図 書 運 営 委 員 会	Library Administration Board
入 学 試 験 委 員 会	Entrance Examination Committee	情報処理教育センター運営委員会	Information Processing Education Center Administration Board
専 攻 科 委 員 会	Advanced Courses Committee	地域環境テクノセンター運営委員会	CETCL Steering Committee
広 報 委 員 会	Public Relations Committee	国際化・SDGs推進センター運営委員会	Center for International Relations and SDGs promotion Committee
安 全 衛 生 委 員 会	Safety and Health Committee	モノづくり教育研究支援センター運営委員会	Manufacturing Support Center for Education and Research Steering Committee
組 換 えDNA実験安全委員会	DNA Experiment Safety Committee	学生保健センター運営委員会	Student Health Care Center Committee
F D 委 員 会	Faculty Development Committee	学生学習支援センター運営委員会	Student Learning Support Center Committee
情報セキュリティ管理委員会	Information Security Management Committee	障 害 学 生 支 援 委 員 会	Disabled Student Support Committee
情報セキュリティ推進委員会	Information Security Promotion Committee	動 物 実 験 委 員 会	Animal Research Committee
知 的 財 産 委 員 会	Intellectual Property Committee	研究推進ワーキンググループ	Promote Resrch Working Group
評 価 改 善 委 員 会	Inspection and Evaluation Committee		

一般教科

Department of General Education



英会話 English Conversation



物理授業 Physics Class

一般教科の教育は、社会人・職業人として必要な教養と、専門の理論・技術の習得に必要な基礎能力とを養うことを目的としています。

そのため、教育課程は専門科目と有機的な関連を持たせ、また科目全般を通じて、学問のあり方・方法を体得させることを重視しています。

さらに教育内容の密度と効率とを高めるために、人文・社会系科目では視聴覚教材を、自然科学科目では実験設備を、それぞれ活用しています。

The General Education Course helps students acquire the general knowledge to be required as well-qualified engineers along with the fundamental skills needed for their particular technological majors. The curriculum is designed to enable students to master methodology in a manner organically related to their technical education.

Various measures are utilized to enhance classes and increase their efficiency, such as the use of audio-visual aids in the humanities and social sciences, experiments ; and laboratory practicals in the sciences.

主な実験・実習の設備

Major Experimental and Practical Facilities

- 金属の線膨張率測定器
Measurement Apparatus for Linear Expansion Coefficient of Metal
- フランク・ヘルツ実験器
Franck-Hertz Experimental Apparatus
- ヤング率の測定器
Measurement Apparatus for Young's Modulus
- 分光器
Spectroscope
- 干渉による光の波長測定器
Measurement Apparatus for Light Wavelength
- 金属抵抗の温度係数測定器
Measurement Apparatus for Temperature Coefficient of Metal Resistance
- 超伝導現象の抵抗測定器
Measurement Apparatus for Resistance in Superconductive Phenomenon
- 電子の比電荷測定器
Measurement Apparatus for Specific Charge of Electron
- 放射線測定器 (GM管)
Measurement Apparatus for Radiation (GM Tube)
- コンビネーションマシン (ニシ社製)
Combination Machine

●教 員 Academic Faculty

職 名 Title	氏 名(学位) Name (Degree)	主な担当科目 Main Subjects Taught	備 考
教 授 Professor	根 本 昌 樹 NEMOTO Masaki	保健・体育 Health and Physical Education	学 科 長 (自然科学系長)
	高 野 克 宏 (文学修士) TAKANO Katsuihiro (M.A.)	国語 Japanese	副 校 長 (感染症対策担当)
	笠 井 哲 (文学修士) KASAI Akira (M.A.)	技術者倫理 Engineering Ethics	学 生 主 事 副 校 長 (学 生 担 当)
	吉 村 忠 晴 (理学修士) YOSHIMURA Tadaharu (M.Sc.)	経済学 Economics	図 書 館 長 人文科学系長
	西 浦 孝 治 (博士(理学)) NISHIURA Koji (D.Sc.)	数学 Mathematics	学 生 学 習 支 援 セ ン タ ー 長
	川 崎 俊 郎 (修士(文学)) KAWASAKI Toshio (M.A.)	産業経済史 History of Industry and Economy	
	高 橋 宏 宣 (博士(文学)) TAKAHASHI Hironobu (Ph.D.)	国語 Japanese	学 生 保 健 セ ン タ ー 長
准 教 授 Associate Professor	布 施 雅 彦 (博士(学術)) FUSE Masahiko (Ph.D.)	情報基礎 Information Literacy	
	上野代 明 子 (博士(学術)) UENODAI Akiko (Ph.D.)	英語 English	校 長 補 佐 (グローバル化担当) 国 際 化・SDGs 推 進 セ ン タ ー 長
	小 倉 恵 実 (修士(歴史学)) OGURA Megumi (M.A.)	英語 English	
	木次谷 聡 (修士(教育学)) KIJIIYA Satoshi (M.Ed.)	保健・体育 Health and Physical Education	
	宮 本 拓 歩 (博士(情報科学)) MIYAMOTO Takuho (Ph.D.)	数学 Mathematics	
	本 田 崇 洋 (修士(文学)) HONDA Takahiro (M.A.)	英語 English	
	廣 瀬 大 輔 (博士(理学)) HIROSE Daisuke (D.Sc.)	数学 Mathematics	
	飯 田 毅 士 (博士(理学)) IIDA Takeshi (D.Sc.)	数学 Mathematics	
	澤 田 幸 一 (博士(理学)) SAWADA Tadakazu (D.Sc.)	数学 Mathematics	
	大 岩 慎太郎 (博士(法学)) OHIWA Shintaro (Ph.D.)	法学 Law	
	小 田 洋 平 (博士(工学)) KOTA Yohei (D.Eng.)	物理 Physics	
講 師 Assistant Professor	伊 野 翔 次 (博士(数理学)) INO Shoji (D.Sc.)	数学 Mathematics	
	千 葉 貴 裕 (博士(理学)) CHIBA Takahiro (D.Sc.)	物理 Physics	
助 教 Research Associate	廣 瀬 航 也 (修士(文学)) HIROSE Koya (M.A.)	国語 Japanese	
	泉 類 尚 貴 (修士(文学)) SENRUI Naoki (M.A.)	英語 English	
嘱託教授 Appointment Professor	鳥 居 孝 栄 (文学修士) TORII Kouei (M.A.)	英語 English	福島高専名誉教授
	宮 澤 泰 彦 (修士(応用言語学)) MIYAZAWA Yasuhiko (M.A.)	英語 English	
	鈴 木 三 男 (博士(学術)) SUZUKI Mitsuo (Ph.D.)	物理 Physics	
非常勤講師 Lecture Teaching Staff	大 関 貴 久 OHZEKI Takahisa	保健・体育 Health and Physical Education	東日本国際大学
	片 岡 美有季 (修士(文学)) KATAOKA Miyuki (M.A.)	国語 Japanese	
	鯨岡 アリソン (修士(言語学)) KUJIRAOKA Allison (M.A.)	英会話 English Communication	
	小 峰 啓 史 (博士(工学)) KOMINE Takashi (D.Eng.)	物理 Physics	茨 城 大 学
	ジョン・ロインズ John Loynes	英会話 English Communication	
	嶋 千 明 SHIMA Chiaki	日本語 Japanese	
	嶋 佳 之 SHIMA Yoshiyuki	日本語 Japanese	
	高 林 拓 哉 TAKABAYASHI Takuya	体育 Physical Education	
	勅使河原 智子 TESHIGAWARA Tomoko	英語 English	
	トーマス・デービス Thomas Davis	英会話 English Communication	
	中 尾 剛 (博士(工学)) NAKAO Takeshi (D.Eng.)	物理 Physics	医療創生大学
	根 本 正 辰 NEMOTO Masatatsu	美術 Fine Arts	
	畑 薫 里 HATA Kaori	日本事情 Japanese Culture and Society	
	原 眞理子 HARA Mariko	英語 English	
	人 見 穂 高 (修士(理学)) HITOMI Hidetaka (M.Sc.)	数学 Mathematics	
	渡 辺 俊 彦 WATANABE Toshihiko	数学 Mathematics	

機械システム工学科

Department of Mechanical System Engineering



機械システム工学科が期待する入学者像

The Department of Mechanical System Engineering welcomes students who:

① ロボット技術や機械の仕組みに興味があり、アイデアを形にしたい人

① have interests in mechanical engineering such as the robotics and the mechanisms, and intend to shape their own ideas.

② 環境にやさしいエネルギー技術に関心のある人

② are interested in technologies for environment-friendly energies.

③ モノづくりの知識と技術を身に付けて、将来、地域の発展に貢献したい人

③ have a desire to acquire the expertise and technologies related to the manufacturing in order to contribute to the regional developments in future.



モノづくり実習 Manufacturing Practice

機械システム工学科は、機械工業はもちろん、一般産業を含めた広い分野において、科学技術の進展に対処できる機械技術者の育成をめざしています。

そのため、基礎学力の充実と各教科間の有機的な組合せによる効果的な学習をはかり、機械工業に関する諸問題を解決できる適応能力の養成につとめています。

また、設計、製作及び計測に関する機械工学の基礎的知識と技術を系統的発展的に習得させると共に、実習、実験、セミナー、卒業研究等のグループ学習を通じて創造的知見と行動力、責任感、協調性及び指導力の涵養につとめています。

The Department of Mechanical System Engineering aims to train students to become engineers who will be able to cope with the developments of science and technology in the various fields of industry.

The education programs in some fields are carried on by organizing faculty members in more than one division and provide technical backgrounds for work in practical problems.

Fundamental knowledge and skills in machine design, and manufacturing are acquired systematically.

Creativity, vitality, responsibility, cooperative spirit, and leadership are cultivated through small group studies such as Engineering Experiments, seminars in Mechanical Engineering, and Graduation Research.



電気自動車の分解・組み立て
Disassembly and assembly of electric vehicles

●教 員 Academic Faculty

職 名 Title	氏 名 (学位) Name (Degree)	主な担当科目 Main Subjects Taught	備 考
教 授 Professor	高 橋 章 (博士(工学)) TAKAHASHI Akira (D.Eng.)	伝熱工学 水力学	学 科 長
	鄭 耀 陽 (博士(工学)) ZHENG Yaoyang (D.Eng.)	機構学 制御工学	産業技術システム 工 学 専 攻 エネルギーシステム 工 学 コ ー ス 長
	赤 尾 尚 洋 (博士(工学)) AKAO Takahiro (D.Eng.)	材料強度学	寮 務 主 事 副校長(寮務担当)
	小 出 瑞 康 (博士(工学)) KOIDE Mizuyasu (D.Eng.)	工業力学 機械力学Ⅰ、Ⅱ	
准 教 授 Associate Professor	松 尾 忠 利 (博士(工学)) MATSUO Tadatoshi (D.Eng.)	材料力学Ⅰ、Ⅱ 創作演習	
	篠 木 政 利 (博士(工学)) SHINOKI Masatoshi (D.Eng.)	熱力学 エネルギー工学	
	鈴 木 茂 和 (博士(工学)) SUZUKI Shigekazu (D.Eng.)	材料学	
	野 田 幸 矢 (博士(工学)) NODA Satsuya (D.Eng.)	設計製図Ⅰ 応用設計製図	
嘱託准教授 Appointment Associate Professor	松 本 匡 以 (工学修士) MATSUMOTO Tadaï (M.Eng.)	機械工作法Ⅰ、Ⅱ 設計製図Ⅱ	
	一 色 誠 太 (博士(工学)) ISSHIKI Seita (D.Eng.)	メカトロニクス 流体力学	
非常勤講師 Lecture Teaching Staff	稲 穂 健 市 (修士(工学)) INAHO Kenichi (M.Eng.)	知的財産権	東北大学研究 推進・支援機構 URAセンター
	小 松 道 男 (技術士) KOMATSU Michio (PE)	生産工学	小 松 技 術 士 事 務 所
	酒 井 清 (博士(工学)) SAKAI Kiyoshi (D.Eng.)	環境・エネルギー工学概論	

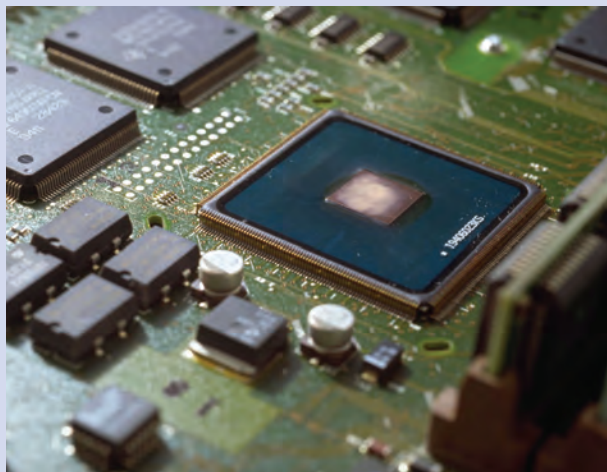
主な実験・実習の設備

Major Experimental and Practical Facilities

小型風力発電機 (LVM社製Aerozen-2) Small Wind Generator	エネルギー分散型X線分光分析装置 (JEOL JED-2140) Energy Dispersive X-ray Spectroscopy
射出成形機 (日精樹脂工業 EP5-1EF) Injection Molding Machine	油圧万能試験機 (Instron SATEC600DX) Oil Pressure Universal Testing Machine
ゴルフロボット (株)ミヤマエSHOT ROBO V) Golf Robot	200kV透過型電子顕微鏡(JEOL JEM-2000FXII) 200kV transmission electron microscope
100KN インストロン試験機 (INSTRON社 4482) Instron Universal Testing Machine	3次元デジタイザ (COMET L3D 2M) 3D digitizer
CNC三次元座標測定器 (ミットヨCRYSTA-Apexs 574) CNC 3D-Profilometer	ハイスピードカメラ (フォトン FASTCAM Mini) High speed Camera
FFTアナライザ (A&D社AD3525) FFT Analyzer	疲労試験機 (Instron ELECTRO PLUS E10000) Fatigue Testing Machine
シャルピー衝撃試験機 (INSTRON社 9050) Charpy Impact Test Machine	分析走査電子顕微鏡 (日本電子 JSM-6010 PLUS/LA) Analytical Scanning Electron Microscope
3Dプリンタ (KEYENCE Agillista-3110) 3D-Printer	マイクロスコープ (KEYENCE VHX-1000) Microscope
3次元CAD (Solid Works) 3D-CAD	マイクロピッカース硬さ試験機 (ミットヨ HM-200) Hardness Testing Machine
各種ピストンエンジン (ホンダ、三菱、ヤンマー) Reciprocating Internal Combustion Engines	放射線計測システム (キャンベラ 802-3×3、OSPREY-DTB) Radiation Measurement Systems
レーザー加工機 (ユニバーサルレーザ Versa LASER VL3.50) LASER Processing Machine	

電気電子システム工学科

Department of Electrical and Electronic System Engineering



電気電子システム工学科が期待する入学者像

The Department of Electrical and Electronic System Engineering welcomes students who:

① ロボット制御技術、エネルギー技術、情報通信技術に興味があり、将来、その技術者として社会に貢献したい人

① are interested in robot control technology, energy technology, information and communication technology, and want to contribute to society as an engineer

② 電気回路やコンピュータ、センサなどを駆使して、様々なシステムをつくりあげたい人

② have a desire to create various systems by using electric circuits, computers, sensors, and so on

③ 電気・電子・情報について学んだ知識を応用して、自分のアイデアを形にしたい人

③ have a desire to shape their own ideas by applying knowledge learned about electricity, electronics, and information

④ 電気電子技術をベースとして、農林水産業、サービス業など様々な業種に関心を持ち、これらの産業を活性化したいと考えている人

④ are interested in various industries such as agriculture, forestry, fisheries, and service, and want to activate these industries based on electrical and electronic technology



ロボット制御実習

Robot Control Practice

科学技術の目ざましい発展の中で、電気・電子・情報技術者は非常に重要な役割を果たしており、産業界のさまざまな分野でその活躍が期待されています。

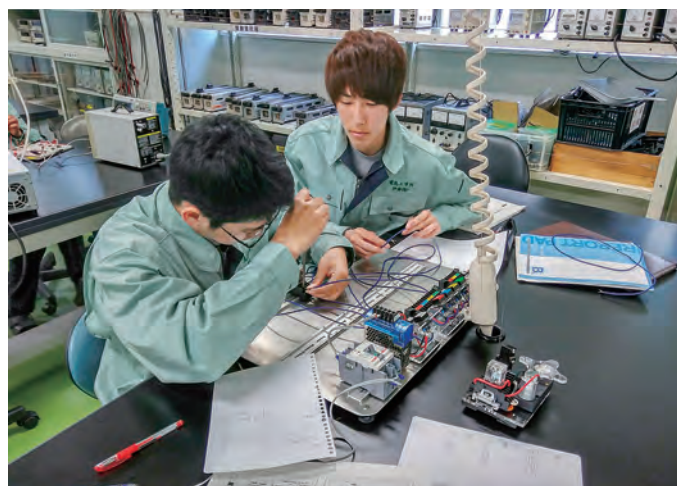
電気電子システム工学科では、電気・電子・情報技術者として必要な基礎教科について履修します。カリキュラムは電力、電子、情報の3つを柱として編成されており、個々の学生が将来の進路に合わせて必要な科目を習得できるよう選択科目も設けています。また、電気電子工学実験にも多くの時間を配しており、創作実習、卒業研究を通してさらに高度な知識と技術を身につけることができます。

なお、本学科では、第3種及び第2種電気主任技術者の資格を取得する場合、申請に必要な履修科目を開講しています。

Electrical, electronics and information engineers have contributed greatly to the progress of science and technology in recent years. As a result, they are in great demand in a wide variety of industries. In this department, students study basic subjects essential to electrical, electronics and information engineers. The curriculum is arranged around three major fields of study: electric power systems, electronics, and information processing. Elective courses are offered to enable students to choose courses in line with their hopes for the future.

Many hours are allotted to experiments on electrical and electronic engineering, and students can obtain even higher levels of knowledge and skills through Creative Manufacturing Practice and Graduation Research.

The curriculum contains many of the subjects required for students to become qualified as 2nd Class Chief Electrical Engineers.



シーケンス制御実習

Sequence Control Practice

職 名 Title	氏 名 (学位) Name (Degree)	主な担当科目 Main Subjects Taught	備 考
教 授 Professor	伊 藤 淳 (博士(工学)) ITO Atsushi (D.Eng.)	電気磁気学Ⅰ 電気電子材料工学	学 科 長
	鈴 木 晴 彦 (博士(電気工学)) SUZUKI Haruhiko (D.Eng.)	電気電子材料工学 パワーエレクトロニクス	副 校 長 (企 画・広 報 担 当)
	植 英 規 (博士(工学)) UE Hidenori (D.Eng.)	電気回路基礎・実習 電気電子計測Ⅰ	産業技術システム 工 学 専 攻 生産・情報システム 工 学 コ ー ス 長
准 教 授 Associate Professor	濱 崎 真 一 (博士(理工学)) HAMAZAKI Shinichi (Ph.D.)	電子回路Ⅰ 電子回路設計	
	山 田 貴 浩 (博士(工学)) YAMADA Takahiro (D.Eng.)	電気回路Ⅰ デジタル回路Ⅰ	
	小 泉 康 一 (博士(情報科学)) KOIZUMI Koichi (Ph.D.)	通信工学Ⅰ 情報工学Ⅰ	
	豊 島 晋 (博士(工学)) TOYOSHIMA Susumu (D.Eng.)	電気磁気学基礎 電子回路Ⅱ	
	橋 本 慎 也 (博士(工学)) HASHIMOTO Shinya (D.Eng.)	電気製図 創作実習	
助 教 Research Associate	佐々木 修 平 (博士(工学)) SASAKI Shuhei (D.Eng.)	電気機器Ⅱ	
嘱 託 教 授 Appointment Professor	大 槻 正 伸 (博士(工学)) OHTSUKI Masanobu (D.Eng.)	情報工学Ⅱ 制御工学	
非常勤講師 Lecture Teaching Staff	稲 穂 健 市 (修士(工学)) INAHO Kenichi (M.Eng.)	知的財産権	東北大学研究 推進・支援機構 URAセンター
	酒 井 清 (博士(工学)) SAKAI Kiyoshi (D.Eng.)	環境・エネルギー工学概論	
	藤 田 謙 FUJITA Yuzuru	電力工学 電気法規	東北電力ネットワーク 総合研修センター
	水 井 弘 幸 (修士(工学)) MIZUI Hiroyuki (M.Eng.)	電力工学	常磐共同火力機
	柳 平 丈 志 (工学博士) YANAGIDAIIRA Takeshi (D.Eng.)	高電圧工学	茨 城 大 学
	山 本 敏 和 (博士(工学)) YAMAMOTO Toshikazu (D.Eng.)	電気機器Ⅰ	

主な実験・実習の設備

Major Experimental and Practical Facilities

基板加工機 (LPKF ProtoMat S63) Printed Circuit Board prototyping System	高圧試験装置 (日新パルス電子) High Voltage Testing System
超高真空マルチスパッタリング装置 (ケニックスksp-240ss) Ultra High Vacuum Multi Sputtering System	高精細3Dプリンタ (KEYEN AGILISTA-3110) High Definition 3D Printer
真空蒸着装置 (昭和真空C-181A) Vacuum Evaporation System	標準電圧発生装置 (横河2850) Standard Voltage Generator
シンセサイズド標準信号発生器 (YHP8656B) Synthesized Standard Signal Generator	高温酸化物超伝導体物性評価実験システム Experimental System for Physical Estimation of High Temperature Oxide Superconductor
多機能同波数発振器 (NF WF1973) Multifunction Generator	三相同期電動機 (富士エンタープライズMG-2004-IP) Three phase synchronous Motor
高速デジタルストレージオシロスコープ (HP54810A) High-speed Digital Storagescope	三相誘導電動機 (富士エンタープライズEM-103-SPⅢ) Three phase induction Motor
PCM光伝送実験システム (安藤電気) PCM Light Transmission Experimental System	三相変圧器 (京南電機KUT-1200A) Three phase Transformer
A/D電子回路解析システム A/D Electronic Circuit Analysis and Simulation System	二相ロックインアンプ (NF5610B) Two phase Lookin Amplifier
ネットワーク/スペクトラムアナライザ (YHP4195A) Network / Spectrum Analyzer	ロボット・FA多目的教育システム (バイナスBNK-1100S) Robot and FA Multipurpose Educational System
プレシジョン・インピーダンス・アナライザ (Agilent 4294A) Precision Impedance Analyzer	6軸パラレルリンクロボット (ファナック M-1iA/0.5A) 6-axis Parallel link type Genkotsu-Robot

化学・バイオ工学科

Department of Applied Chemistry and Biochemistry



化学・バイオ工学科が期待する入学者像

The Department of Applied Chemistry and Biochemistry welcomes students who:

①化学やバイオテクノロジーの知識と技術を身につけて、将来、その技術者として地域・社会に貢献したい人

①will acquire knowledge of chemistry and biotechnology, and skills in them, to contribute society as an engineer.

②地球に優しい化学技術や新素材をつくり、環境問題の解決、持続可能な社会の構築を目指したい人

②will find the best solution to environment threats and have a hand in building a sustainable society through developing new chemical technology friendly to Earth.

③学んだ化学バイオ技術を、農林水産資源の生産・管理や有効活用に役立てたいと考える人

③will effectively utilize the knowledge and skills for production management of agricultural, forestry, and fishery resource.



化学・バイオ工学基礎実験Ⅰ
Experiment of Basic Applied Chemistry and Bioengineering I

化学・バイオ工学科では、化学を中心にすえた自然科学諸分野の基礎的な学習と、それらの高度な応用を効率よく学ぶためのカリキュラムを用意しています。また、進展する科学諸分野の新たな成果を教育に反映できるよう、教育内容の刷新にも常に取り組んでいます。5年生が一年間かけてとりくむ卒業研究は、幅広い視野で問題解決の路を見い出す能力を涵養するためのまたとない教育機会となっています。さまざまな教育研究の試みをつうじて、理論理解・技術実践の両面においてバランスよく能力が発揮できる技術者の育成のための努力をしています。

The Department of Applied Chemistry and Biochemistry provides the curriculum for efficient learning of fundamental chemistry-based engineering sciences and advanced application of them to various fields of chemical, biochemical and related industries. We are constantly trying to update the contents of the essential disciplines intensively attending to the incessantly advancing chemical and the relevant modern sciences. Throughout the annual project for the dissertation, the students have an irreplaceable experience of cultivating their own capabilities for finding solutions in the broadened range of their viewpoint. All the academic staffs belonging to this department make marked efforts to fulfill the education for well balanced academic discipline of comprehensive and pertinent theoretical and technical understandings.



卒業研究
Graduation Research

職 名 Title	氏 名 (学位) Name (Degree)	主な担当科目 Main Subjects Taught	備 考
教 授 Professor	内 田 修 司 (工学修士) UCHIDA Shuji (M.Eng.)	機器分析 Instrumental Analysis	学 科 長
	天 野 仁 司 (博士(理学)) AMANO Hitoshi (D.Sc.)	バイオテクノロジー Biotechnology	
	車 田 研 一 (博士(工学)) KURUMADA Ken-ichi (D.Eng.)	化学工学 Chemical Engineering	
	梅 澤 洋 史 (博士(理学)) UMEZAWA Hirohito (D.Sc.)	有機化学 Organic Chemistry	
准 教 授 Associate Professor	酒 巻 健 司 (博士(工学)) SAKAMAKI Kenji (D.Eng.)	物理化学 Physical Chemistry	
	押 手 茂 克 (博士(工学)) OSHITE Shigekazu (D.Eng.)	分析化学 Analytical Chemistry	
	柴 田 公 彦 (博士(工学)) SHIBATA Kimihiko (D.Eng.)	環境生物化学 Environmental Biochemistry	産業技術システム工学専攻化学・バイオ工学コース長
講 師 Assistant Professor	青 木 寿 博 (工学修士) AOKI Toshihiro (M.Eng.)	化学工学 Chemical Engineering	
助 教 Research Associate	十 亀 陽一郎 (博士(理学)) SOGAME Yoichiro (D.Sc.)	微生物工学 Microbial Engineering	
	森 崇 理 (博士(工学)) MORI Takamichi (D.Eng.)	有機合成化学 Organic Synthetic Chemistry	
	三 上 進 一 (博士(理学)) MIKAMI Shinichi (D.Sc.)	無機化学 Inorganic Chemistry	
特命教授 Specially Appointed Professor	油 井 三 和 (理学博士) YUI Mikazu (D.Sc.)	環境科学基礎 Fundamentals of Environmental Science	
非常勤講師 Lecture Teaching Staff	池 田 信 也 IKEDA Shin-ya	生物資源化学 Bioresource Chemistry	福島県ハイテクプラザ
	伊 藤 篤 史 ITO Atsushi	化学プロセス概論 Chemical Process Engineering	(株) ク レ ハ
	市 川 幸 男 (修士(工学)) ICHIKAWA Yukio (M.Eng.)	高分子化学 Polymer Chemistry	(株)クレハ 環境
	歌 川 史 哲 (博士(理学)) UTAGAWA Fumiaki (D.Sc.)	環境科学基礎 Introduction to Environmental Science	(公財)いわき市教育文化事業団
	梅 村 一 之 (理学博士) UMEMURA Kazuyuki (D.Sc.)	天然物化学 Natural Product Chemistry	医療創生大学
	草 野 学 KUSANO Manabu	知的財産権 Intellectual Property	アルプスアルパイン(株)
	酒 井 清 (博士(工学)) SAKAI Kiyoshi(D.Eng.)	環境・エネルギー工学概論 Outline of Environmental and Energy Engineering	
	多 田 正 人 (博士(理学)) TADA Masahito (D.Sc.)	化学工業概論 Introduction to Industrial Chemistry	Techno TADA
	右 田 聖 (博士(工学)) MIGITA Satoshi (D.Eng.)	物理化学Ⅱ Physical Chemistry II	山 形 大 学

主な実験・実習の設備

Major Experimental and Practical Facilities

四重極・飛行時間型質量分析装置 (ウォータース Xevo G2-S QTof) Quadrupole-Time of Flight Mass Spectrometer	X線光電子分光分析装置 (日本電子 JPS-9010NX) X-ray Photoelectron Spectroscopy
ガスクロマトグラフ質量分析装置 (アジレント 7890A) Gas Chromatography Mass Spectrometer	走査型電子顕微鏡 (日立ハイテクノロジーズ S-3400N) Scanning Electron Microscope
マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析装置 (ブルカー autoflex) MALDI-TOF Mass Spectrometer	エネルギー分散型X線分析装置 (アメックス Genesis APEX2) Energy Dispersive X-ray Spectrometer
液体クロマトグラフ質量分析装置 (ブルカー amaZon SL) Liquid Chromatography Mass Spectrometer	ICP発光分光分析装置 (パーキンエルマー Optima7300DV) ICP-Optical Emission Spectrometer
共焦点レーザー顕微鏡 (OLYMPUS FLUOVIEW FV10i) Confocal Laser Scanning Microscope	波長分散型蛍光X線分析装置 (リガク Supermini200) Wavelength Dispersive X-ray Fluorescence Spectrometer
DNAシーケンサー (ABI PRISM310) DNA Sequencer	X線回折装置 (島津製作所 XRD-6000) X-ray Diffractometer
フーリエ変換核磁気共鳴装置 (JEOL RESONANCE JNM-ECX500Ⅱ) Fourier Transform Nuclear Magnetic Resonance Spectrometer	熱分析システム (島津製作所 DTG-60H, SII TG-DTA7300・DSC-7000) Thermal Analyzer System
フーリエ変換赤外分光光度計 (日本分光 FT-IR4100) Fourier Transform Infrared Spectrophotometer	イオンクロマトグラフ (東ソー IC-2010) Ion Chromatograph
紫外可視近赤外分光光度計 (日本分光 V-560, V-670) UV-Vis-NIR Spectrophotometer	ゼータ電位・粒子径・分子量測定装置 (マルバーン ゼータサイザーナノ) Molecular / Particle Size Analyzer

都市システム工学科

Department of Civil and Environmental Engineering



森のわくわく橋（県立いわき公園）

都市システム工学科が期待する入学者像

Department of Civil and Environmental Engineering welcomes students who:

①自然環境と調和した建設技術に興味を持っている人

①are interested in construction technology harmonized with a natural environment.

②道路・橋・港など建設構造物の維持管理に興味を持っている人

②are interested in the infrastructure maintenance for roads, bridges and ports.

③災害に負けない安全なまちづくりに貢献したい人

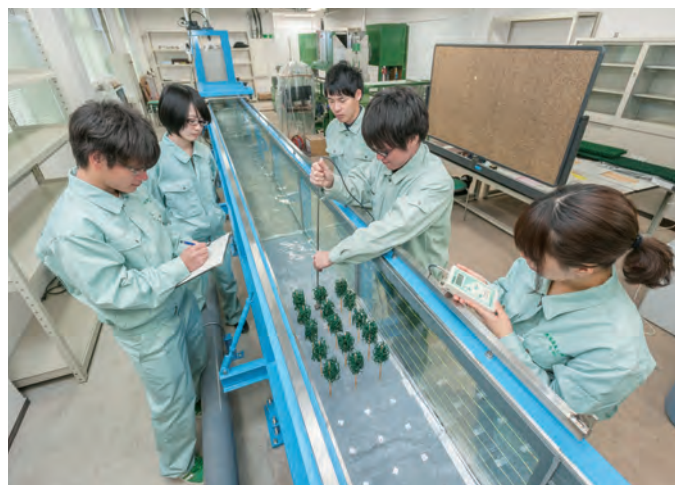
③wish to contribute to the safe urban planning which defeat a disaster.



測量実習 Survey Training

都市システム工学科では、自然環境に配慮した道路や橋・港湾等の整備ができるとともに、古くなった道路や橋の維持管理や災害に強いまちづくりができる技術者の育成をめざしています。そのために、各種構造物の計画・設計・施工・維持管理に必要な力学系科目や自然災害を最小限に抑えるために必要な防災・減災系の科目を学びます。また、それらをしっかり身につけるために、実験・実習を重視したカリキュラムになっています。

Department of Civil and Environmental Engineering aims to bring up the engineers who can construct the roads, bridges and ports considered in a natural environment and can do the maintenance of the old roads and bridges and can do the planning of disaster-resistant urban community. For it, the two subjects are provided : the subject of disaster prevention and mitigation, aimed at minimizing damage, are provided, and the other one of the planning, the design, the building and the maintenance for various structure.



工学実験・演習

Experiments and Exercises in Civil and Environmental Engineering

●教 員 Academic Faculty

職 名 Title	氏 名 (学位) Name (Degree)	主な担当科目	Main Subjects Taught	備 考
教 授 Professor	齊 藤 充 弘 (博士(工学)) SAITO Mitsuhiro (D.Eng.)	地域計画 システム工学	Regional Planning System Engineering	学 科 長
	原 田 正 光 (工学博士) HARADA Masamitsu (D.Eng.)	環境科学 環境計測論	Environmental Science Environmental Monitoring	副 校 長 (専攻科・復興支援担当) モノづくり教育 研究支援センター長
	緑 川 猛 彦 (博士(工学)、技術士) MIDORIKAWA Takehiko (D.Eng.PE)	材料学 コンクリート構造工学	Construction Materials Concrete Structure Engineering	教 務 主 事 副 校 長 (教務・研究担当) 地域環境テクノセンター長
	菊 地 卓 郎 (博士(工学)) KIKUCHI Takuro (D.Eng.)	水理学 水防災工学	Hydraulics Hydraulic Engineering for Disaster Prevention	産業技術システム 工 学 専 攻 社会環境システム 工 学 コー ス 長
准 教 授 Associate Professor	高 荒 智 子 (博士(工学)) TAKAARA Tomoko (D.Eng.)	水処理工学Ⅰ 水処理工学Ⅱ	Water Treatment Engineering I Water Treatment Engineering II	
講 師 Assistant Professor	金 高 義 (博士(工学)) KIM Kouji (Ph.D.)	測量学	Surveying	
助 教 Research Associate	丹 野 淳 (博士(工学)) TANNO Jun (D.Eng.)	環境保全概論 防災学	Introduction to Environmental Conservation Disaster Prevention Engineering	
	三 浦 拓 也 (博士(工学)) MIURA Takuya (D.Eng.)	地盤工学 応用地盤工学	Geotechnical Engineering Applied Geotechnical Engineering	
	浅 野 寛 元 (博士(工学)) ASANO Hiroyoshi (D.Eng.)	維持・管理工学概論 コンクリート構造設計演習	Outline of Infrastructure Maintenance Engineering Exercises in Concrete Structure	
	相 馬 悠 人 (博士(工学)) SOMA Yuto (D.Eng.)	構造のシビックデザインⅡ 工学実験・演習	Structural Mechanics on Civic Design II Experiments and Exercises in Civil and Environmental Engineering	
非常勤講師 Lecture Teaching Staff	山ノ内 正 司 (博士(工学)) YAMANOUCHI Masaji (D.Eng.)	構造のシビックデザインⅢ	Structural Mechanics on Civic Design III	福 島 高 専 名 誉 教 授
	原 田 洋 平 HARADA Yohei	道路施策概論	Outline of Road Policy	国 土 交 通 省 東 北 地 方 整 備 局 磐 城 国 道 工 事 事 務 所 所 長
	大 柳 英 之 (技術士) OHYANAGI Hideyuki (PE)	橋と鋼構造	Bridge Design and Metal Structure	日本ファブテック㈱
	小野寺 吉 政 (技術士) ONODERA Yoshimasa (PE)	橋と鋼構造	Bridge Design and Metal Structure	日本ファブテック㈱
	山 内 幸 政 (技術士) YAMAUCHI Yukimasa (PE)	橋と鋼構造	Bridge Design and Metal Structure	日本ファブテック㈱
	上遠野 直 人 KATOONO Naoto	橋と鋼構造	Bridge Design and Metal Structure	日本ファブテック㈱
	渋谷 賢 治 SHIBUTANI Kenji	輸送施設工学	Transportation Facilities Engineering	国 土 交 通 省 東 北 地 方 整 備 局 小 名 浜 港 湾 事 務 所 所 長
	渡 辺 寛 (技術士) WATANABE Hiroshi (PE)	施工法	Construction Methods	㈱東コンサルトント
	草 野 学 KUSANO Manabu	知的財産権	Intellectual Property	ア ル プ ス ア ル パ イン (㈱)
	酒 井 清 (博士(工学)) SAKAI Kiyoshi (D.Eng.)	環境・エネルギー工学概論	Outline of Environmental and Energy Engineering	

主な実験・実習の設備

Major Experimental and Practical Facilities

全有機炭素計 (島津製作所TOC-L)

Total Organic Carbon Analyzer

吸光光度計 (HACH DR3900)

Absorption Photometer

生物顕微鏡 (オリンパスBH2)

Optical Microscope

分光光度計 (HITACHI U-5100)

Spectrophotometer

ゼータ電位測定装置 (日本ルフト ML-660NT)

Zeta Potential Measurement System

コンクリート圧縮試験機 (島津製作所CCH-2000kNX)

Concrete Compressive Testing Machine

データロガー (東京測器研究所TDS-530)

Data Logger

アコースティックエミッション計測装置(NF回路設計ブロックAE9600シリーズ)

Acoustic Emission Acquisition System

マルチピクノメーター (Quantachrome Instruments MVP -6DC)

Multi Pycnometer

デジタル動ひずみ測定器 (東京測器研究所DRA-101C)

Digital Dynamic Strainmeter

振動試験装置 (IMVJ230)

Vibration Test System

一軸圧縮試験機 (丸東製作所SG-2033)

Unconfined Compression Apparatus

三軸圧縮試験機 (丸東製作所SG-49)

Triaxial Compression Apparatus

圧密試験機 (丸東製作所S43-4UL-1)

Consolidation Apparatus

改良型一面せん断試験機 (丸東製作所SG-83)

Improved Direct Shear Apparatus

透水試験機 (丸東製作所S12-J)

Water Permeability testing machine

レーザー回析・散乱式粒度分布測定装置 (CILAS1064)

CILAS Particle Size Analyzer

自動電位差滴定装置 (平沼産業COM-1600)

Automatic Potentiometric Titrator

ベルヌーイ実験装置 (機械研究株式会社WHB型)

Test Apparatus for Bernoulli Theorem

ヘルショウ実験装置 (丸東製作所HT-18)

Hele-shaw Apparatus

鉄筋探査機 (サンコウ電子研究所331-2-TH)

Steel Rod Detectors

ビジネスコミュニケーション学科

Department of Business Communication



ビジネス英語演習 Business English Practice

ビジネスコミュニケーション学科が期待する入学者像

The Department of Business Communication welcomes students who:

- ①社会・経済のしくみや動きに広く関心のある人
have a broad interest in the mechanisms and movements of societies and economies,
- ②外国語によるコミュニケーション能力を高めて、グローバルに活躍したい人
have the motivations to improve their communication abilities in foreign languages and to be successful in a global scale,
- ③情報リテラシーを身につけて、高度情報化社会で活躍したい人
have the ambitions to acquire information knowledge and to succeed in highly informationalized societies,
- ④地球環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献したい人
and have the concerns about global environment and want to contribute to the sustainable development of societies.

コミュニケーション形態は一変した。
将来のコミュニケーションの姿を
追求しよう。

The form of communication has been
changed drastically.

Let's explore the style of communication
in future.

私たちの暮らす社会は、科学技術の適正な利用をめぐる問題や、社会の持続可能な発展をめぐる問題など、様々な問題を抱えています。とりわけ3.11以降、こうした問題について広く、そして深く考えることの出来る人材が求められるようになってきました。

ビジネスコミュニケーション学科は、このような要請にこたえるための幅広い知識を身につけ、ビジネスの現場で実際に活用していくことの出来る人材を育成することを目的とした学科です。

学生は、人文・数理・語学・経営・経済・情報・会計の7つの専門領域のすべてについて基礎的な教育を受けるとともに、特に自分の関心にあった領域について重点的に履修することで、幅広い教養と高い専門性を同時に身につけることが出来ます。

また、3年次から研究室に配属されるプレセミナーを必修科目として配置しており、学生は早くから専門的な論文を読みこなし、文章にまとめる訓練を受けることになります。そのため、卒業時には、社会科学系学科の卒業生として高レベルのリテラシーを身につけることが出来ます。

The society in which we live has various problems, such as the appropriate utilization of technology and the development of a sustainable society. This is especially so after the disaster of 3.11, because there has been a rise in the demand for trained people, who can examine these problems in depth. In response to this need, the Department of Business Communication aims to cultivate human resources who can develop a broad range of knowledge and make use of it in a business context.

By learning the basics in humanities, mathematics, languages, marketing, economics, information science and accounting, and specializing in the fields that they are interested in, students can acquire both a broad-based and specialized education.

Since they are allocated to seminar supervisors in the third year, students will be taught to read and write academic papers. Through this training, students will gain a high level of literacy associated with social science by the time they graduate.



ビジネス英語入門 Introduction to Business English

職 名 Title	氏 名 (学位) Name (Degree)	主な担当科目 Main Subjects Taught	備 考
教 授 Professor	湯 川 崇 (博士(工学)) YUKAWA Takashi (D.Eng.)	プログラミング基礎 情報システム演習Ⅰ	学 科 長 ビジネスコミュニケーション学専攻長
	芥 川 一 則 (博士(情報科学)) AKUTAGAWA Kazunori (Ph.D.)	マクロ経済学 開発学Ⅰ・Ⅱ	副 校 長 (地域連携・評価担当)
准 教 授 Associate Professor	島 村 浩 SHIMAMURA Hiroshi	情報処理基礎 情報システム演習Ⅱ	情報処理教育 セ ン タ ー 長
	松 江 俊 一 (修士(国際文化)) MATSUE Shunichi (M.Intl.Cult.)	コミュニケーション論 非言語コミュニケーション	
	田 淵 義 英 (博士(学術)) TABUCHI Yoshihide (Ph.D.)	現代社会の理論Ⅰ・Ⅱ 現代社会特論Ⅱ	
	杉 山 武 史 (博士(理学)) SUGIYAMA Takeshi (D.Sc.)	微積分Ⅰ・Ⅱ 線形代数	
	渡 邊 エリカ(修士(教育学)) WATANABE Erika (M.Ed.)	English BasicsⅠ・Ⅱ Business English PracticeⅠ・Ⅱ	
助 教 Research Associate	若 林 晃 央 (修士(経済学)) WAKABAYASHI Akihiro (M.Ec.)	組織論 経営戦略論	
	安 部 智 博 (修士(経済学)) ABE Tomohiro (M.Ec.)	簿記入門Ⅰ・Ⅱ 財務会計	
	高 木 信太郎 (修士(政策・メディア)) TAKAGI Shintaro (M.M.G.)	国際経済学 環境経済学	
非常勤講師 Lecture Teaching Staff	伊 藤 和 雄 ITO Kazuo	生物	
	草 野 学 KUSANO Manabu	知的財産権	アルプス アルパイン(株)
	櫛 田 さやか KUSHIDA Sayaka	ビジュアル情報演習	
	栗 林 利 紗 (会計修士) KURIBAYASHI Risa (M.B.A.)	経営入門Ⅰ・Ⅱ	
	酒 井 清 (博士(工学)) SAKAI Kiyoshi (D.Eng.)	環境・エネルギー工学概論	
	ペレライン 由紀 (修士(理学)) PELLERINE Yuki (M.Sc.)	経営情報入門Ⅰ・Ⅱ	

育成しようとする人材 The type of human resources we aim to cultivate

社会に対して広く関心を持ち、進展するグローバル化に対応できるリテラシー（語学や情報など）を身につけるとともに、環境問題に配慮し持続可能な社会に貢献できる人材。

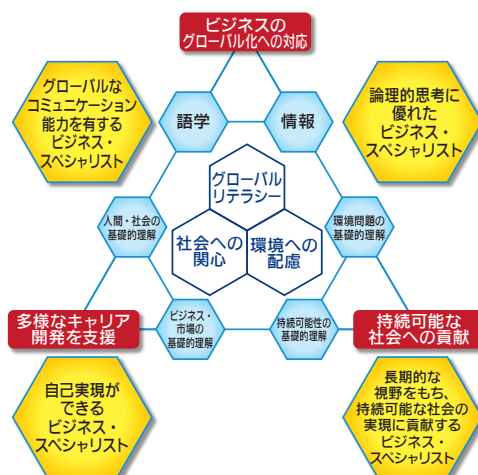
ビジネスコミュニケーション学科では、さらなるグローバル化とそれにとまなう諸問題に対応するため、広範な社会科学の知識、優れた語学力とコミュニケーション能力、環境問題や社会の持続可能性についての科目を強化します。そして、日々進化するビジネスコミュニケーション学科では、下図の「ビジネス・スペシャリスト」を育成します。

The Department of Business Communication aims to nurture human resources who have a wide range of interests in society and who can develop a proficiency in languages and information science. This goal is to have students be able to cope with the progress of globalization and to contribute to a sustainable society by taking environmental problems into consideration.

In order to examine the progress of globalization and its related problems, the Department of Business Communication, will emphasize subjects related to the development of a wide range of knowledge in social science, with focus being put on environmental problems and making a sustainable society. Ensuring that students obtain a high level of proficiency in languages and communication is also included in this. By accomplishing these aims, The Department of Business Communication, which is making daily progress, will cultivate business specialists.



情報システム演習 Seminar in Information Systems



教育課程

Curricula

福島高専カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

本校では、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準に基づいて教育を実施します。

●編成方針

- (1) 準学士課程(本科)においては、くさび型[※]の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5年一貫の体系的な教育課程を編成する。
- 専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。

※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程

- (2) 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
- (3) 教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを活用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

●成績評価基準

- (1) 科目の成績評価は、定期試験の成績および平常の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
- (2) 講義科目では主に定期試験等の筆記試験により、演習科目では筆記試験やレポート等を総合的に勘案し、さらに、実験・実習科目ではレポートや授業態度等により評価する。
- (3) 科目の成績評価結果は100点法で行い、60点以上を合格とする。
- (4) 各科目について、成績評価が60点以上の場合は単位の修得を認定する。

●準学士課程(本科)学科ごとの教育課程編成方針

ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各学科では、以下の科目群を系統的に編成する。

【機械システム工学科】

- (1) 豊かな教養と国際感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に力学系、材料・加工系、機構・制御系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【電気電子システム工学科】

- (1) 豊かな教養と国際感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に電力系、電気・電子系、情報系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【化学・バイオ工学科】

- (1) 豊かな教養と国際感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に応用化学系、生物工学系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【都市システム工学科】

- (1) 豊かな教養と国際感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に力学系、環境系、計画系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【ビジネスコミュニケーション学科】

- (1) 豊かな教養と国際感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に経済・経営・会計系、数理・情報系、語学・人文系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次にセミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

一般科目

General Education Courses

機械システム工学科・電気電子システム工学科 化学・バイオ工学科・都市システム工学科共通

Department of Mechanical System Engineering,
Electrical and Electronic System Engineering,
Applied Chemistry and Biochemistry, Civil and Environmental Engineering

授業科目 Subjects			単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
				1	2	3	4	5	
必修科目 Required	数学 Mathematics	数学Ⅰ A MathematicsⅠ A	4	4					
		数学Ⅰ B MathematicsⅠ B	2	2					
		数学Ⅱ A MathematicsⅡ A	4		4				
		数学Ⅱ B MathematicsⅡ B	2		2				
		数学Ⅲ A MathematicsⅢ A	2			2			
		数学Ⅲ B MathematicsⅢ B	2			2			
		数学Ⅳ MathematicsⅣ	4				4*		
	理科 Science	物理 Physics	6	2	2	2			
		化学 Chemistry	4	2	2				
	外国語 Foreign Languages	英語Ⅰ A EnglishⅠ A	4	4					
		英語Ⅰ B EnglishⅠ B	2	2					
		英語Ⅱ A EnglishⅡ A	2		2				
		英語Ⅱ B EnglishⅡ B	2		2				
		英語Ⅲ EnglishⅢ	4			4			
		英語Ⅳ EnglishⅣ	4				4*		
	国語 Japanese	国語 Japanese	6	2	2	2			
	人文社会 Humanities and Social Science	人文科学Ⅰ Introduction to HumanitiesⅠ	2	2					
		社会科学Ⅰ Invitation to Social ScienceⅠ	2		2				
		人文社会科学演習Ⅰ Exercises to Humanities and Social ScienceⅠ	1		1				
		人文社会科学演習Ⅱ Exercises to Humanities and Social ScienceⅡ	2			2			
技術者倫理 Engineering Ethics		1					1		
保健体育 Health and Physical Education	保健・体育 Health and Physical Education	6	2	2	2				
芸術 Art	美術 Fine Arts	1	1						
情報 Information	情報基礎 Information Literacy	2	2						
ミ二研究 Research Practice			1		1				
開設単位小計 Subtotal			72	25	22	16	8	1	

授業科目 Subjects			単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
				1	2	3	4	5	
選 択 科 目 Elective	外国語 Foreign Language	英語Ⅴ English Ⅴ	2					2	
	国語 Japanese	日本語表現法 Japanese expression	2				2*		
	人文社会 Humanities and Social Science	経済学基礎 Economics	1				1		
		法学基礎 Law	1				1		
		産業経済史 History of Industry and Economics	1					1	
	グローバル研修 Global Study		1	(1)					
	開設単位小計 Subtotal		8	0 (1)	0 (1)	0 (1)	4 (1)	3 (1)	
開設単位合計 Total Credits Offered		80	25 (1)	22 (1)	16 (1)	12 (1)	4 (1)	75単位 以上修得 (卒業要件)	
修得可能単位数 (卒業要件) Earnable Credits		80	25 (1)	22 (1)	16 (1)	12 (1)	4 (1)		

(注) *印は学修単位（高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位）
（ ）の数字は開講期を指定しない単位で外数

ビジネスコミュニケーション学科 Department of Business Communication

授業科目 Subjects			単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
				1	2	3	4	5	
必 修 科 目 Required	数学 Mathematics	数学 Mathematics	6	4	2				
		理科 Science	2	2					
	英語 English	物理 Physics	2	2					
		英語ⅠA EnglishⅠA	2	2					
		英語ⅠB EnglishⅠB	2	2					
		英会話Ⅰ-1 English ConversationⅠ-1	2	2					
		英会話Ⅰ-2 English ConversationⅠ-2	2	2					
		英語ⅡA EnglishⅡA	2	2					
		英語ⅡB EnglishⅡB	2	2					
		英会話Ⅱ ConversationⅡ	2	2					
		英語Ⅲ EnglishⅢ	4		4				
		英会話Ⅲ English ConversationⅢ	2		2				
		英語Ⅳ EnglishⅣ	4				4*		
	国語 Japanese	国語 Japanese	10	4	4	2			
	人文社会 Humanities and Social Science	人文科学Ⅰ Introduction to HumanitiesⅠ	2	2					
		人文科学Ⅱ Introduction to HumanitiesⅡ	2	2					
		社会科学Ⅰ Invitation to Social ScienceⅠ	2	2					
		社会科学Ⅱ Invitation to Social ScienceⅡ	1	1					
		人文社会科学演習Ⅰ Exercises to Humanities and Social ScienceⅠ	1	1					
		人文社会科学演習Ⅱ Exercises to Humanities and Social ScienceⅡ	2		2				

授業科目 Subjects			単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
				1	2	3	4	5	
必修科目 Required	人文社会 Humanities and Social Science	法学 Law	2				2		
		ミクロ経済学 Microeconomics	2				2		
		技術者倫理 Engineering Ethics	1					1	
	保健体育 Health and Physical Education	保健・体育 Health and Physical Education	6	2	2	2			
	芸術 Art	美術 Fine Arts	1		1				
	情報 Information	情報基礎 Information Literacy	2	2					
	ミニ研究 Research Practice		1		1				
	開設単位小計 Subtotal		69	26	22	12	8	1	
選択科目 Elective	英語 English	英語特論Ⅰ English SeminarⅠ	2			2			
		英語特論Ⅱ English SeminarⅡ	2				2		
		英語Ⅴ EnglishⅤ	2					2	
	国語 Japanese	文学 Japanese Literature	1				1		
	人文社会 Humanities and Social Science	産業経済史 History of Industry and Economics	1					1	
	グローバル研修 Global Study		1	(1)					
	開設単位小計 Subtotal		9	0 (1)	0 (1)	2 (1)	3 (1)	3 (1)	
	開設単位合計 Total Credits Offered		78	26 (1)	22 (1)	14 (1)	11 (1)	4 (1)	75単位以上 修得 (卒業要件)
修得可能単位数 Earnable Credits		78	26 (1)	22 (1)	14 (1)	11 (1)	4 (1)		

(注) *印は学修単位（高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位）
（ ）の数字は開講期を指定しない単位で外数



専門科目

Technical Courses

機械システム工学科 Department of Mechanical System Engineering

	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
			1	2	3	4	5	
必修科目 Required	機械製図Ⅰ Engineering DrawingsⅠ	2	2					
	機械製図Ⅱ Engineering DrawingsⅡ	2		2				
	設計製図Ⅰ Mechanical Design and DrawingⅠ	2			2			
	設計製図Ⅱ Mechanical Design and DrawingⅡ	2				2*		
	応用設計製図 Applicational Mechanical Design and Drawing	4					4*	
	機械システム工学基礎 Fundamentals of Mechanical System Engineering	2	2					
	モノづくり基礎 Fundamental of Manufacturing	2		2				
	モノづくり実習 Manufacturing Practice	2			2			
	創作実習 Creative Practice	2				2*		
	工学実験 Engineering Experiment	8				4*	4*	
	工学セミナー Engineering Seminar	2				2		
	卒業研究 Graduation Research	9					9	
	機械システム工学概論 Introduction to Mechanical System Engineering	1	1					
	機械工作法Ⅰ Mechanical TechnologyⅠ	2		2				
	材料学 Materials Engineering	2		2				
	環境科学基礎 Introduction to Environmental Science	1		1				
	工業力学 Engineering Mechanics	2			2			
	材料力学Ⅰ Mechanics of MaterialsⅠ	2			2			
	機械工作法Ⅱ Mechanical TechnologyⅡ	1			1			
	機構学 Mechanism	2			2			
	情報処理 Information Processing	2			2			
	電気工学基礎 Introduction to Electrical Engineering	1			1			
	応用物理 Applied Physics	4				4*		
	材料力学Ⅱ Mechanics of MaterialsⅡ	1				1		
	熱力学 Thermodynamics	2				2		
	水力学 Hydraulics	2				2		
	機械力学Ⅰ Engineering MechanicsⅠ	1				1		
	環境工学 Environmental Engineering	1				1*		
	ロボット基礎 Basic Robotics Engineering	2				2		
	校外実習 Extramural Practice	1					(1)	
	数学Ⅴ MathematicsⅤ	2					2*	
	伝熱工学 Heat Transfer	2					2	
	制御工学 Control Engineering	2					2	
	知的財産権 Intellectual Property	1					1	
	開設単位小計 Subtotal	76	5	9	14	23 (1)	24 (1)	

	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
			1	2	3	4	5	
選択科目 Elective	物理学特論 Advanced Physics	1				1		
	情報処理演習 Information Processing Practice	2				2*		
	工業英語 English Technical Communication	1				1*		
	メカトロニクス Mechatronics	1				1*		
	CAD、CAM Computer-Aided Design & Computer-Aided Manufacturing	1				1*		
	材料強度学 Strength and Fracture of Materials	1				1*		
	経営学概論 Introduction to Business Administration	1				1		
	生産工学 Production Engineering	1					1*	
	ロボット工学 Robotics Engineering	1					1*	
	計測工学 Measurement and Instrumentation	1					1*	
	塑性加工学 Technology of Plasticity	1					1*	
	機械力学Ⅱ Engineering MechanicsⅡ	1					1*	
	流体力学 Fluid Dynamics	1					1*	
	エネルギー工学 Energy Engineering	1					1*	
	エネルギー機械 Energy Conversion Machinery	1					1*	
	シーケンス制御 Sequence Control	1					1*	
	ロボット制御工学 Control for Robotics Engineering	1					1*	
	原子力発電基礎 Elements of Nuclear Power Generation	1	1					集中講義
	放射線基礎 Introduction to Radioactivity and Radiation	1		1				集中講義
	廃炉ロボット概論 Fundamentals of nuclear decommissioning robotics	1			1			集中講義
	廃炉工学 Decommissioning of Nuclear Plant	1				1		集中講義
	防災学 Disaster Prevention	2					2*	
	開設単位小計 Subtotal	24	1	1	1	9	12	
専門科目 Technical Subjects	開設単位合計 Total Credits Offered	100	6	10	15	32 (1)	36 (1)	82単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	100	6	10	15	32 (1)	36 (1)	
一般科目 General Subjects	開設単位合計 Total Credits Offered	80	25 (1)	22 (1)	16 (1)	12 (1)	4 (1)	75単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	80	25 (1)	22 (1)	16 (1)	12 (1)	4 (1)	
合 計 Total	開設単位合計 Total Credits Offered	180	31 (1)	32 (1)	31 (1)	44 (2)	40 (2)	167単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	180	31 (1)	32 (1)	31 (1)	44 (2)	40 (2)	

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
()の数字は開講期を指定しない単位で外数

電気電子システム工学科 Department of Electrical and Electronic System Engineering

	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
			1	2	3	4	5	
必修科目 Required	◎電気電子システム工学実験 Experiments on Electric and Electronic System Engineering	10		2	3	3*	2*	
	◎電気回路基礎・実習 Introduction to Electrical Circuit・Practice	2	2					
	◎電気磁気学基礎 Introduction to Electromagnetics	1	1					
	○電気製図 Electrical Drawing	2	2					
	◎電気電子計測Ⅰ Electric and Electronic MeasurementsⅠ	1		1				
	○情報工学Ⅰ Information EngineeringⅠ	2		2				
	◎電気回路Ⅰ Electric CircuitⅠ	4		2	2			
	◎電気磁気学Ⅰ ElectromagneticsⅠ	2			2			
	◎電気電子計測Ⅱ Electric and Electronic MeasurementsⅡ	2			2			
	◎電気機器Ⅰ Electrical Machine and ApparatusⅠ	2			2			
	○情報工学Ⅱ Information EngineeringⅡ	2			2			
	○電子回路Ⅰ Electronic CircuitⅠ	2			2			
	◎電気機器Ⅱ Electrical Machine and ApparatusⅡ	2				2		
	◎電気磁気学Ⅱ ElectromagneticsⅡ	2				2		
	◎電気回路Ⅱ Electronic CircuitⅡ	2				2		
	◎パワーエレクトロニクス Power Electronics	1				1		
	○電子回路Ⅱ Electronic CircuitⅡ	2				2*		
	○電子工学Ⅰ ElectronicsⅠ	2				2*		
	◎制御工学 Control Engineering	1					1*	
	◎電力工学 Electric Power Systems	2					2	
	◎電力システム工学 Electric Power System Engineering	2					2*	
	○電気電子材料工学 Electric and Electronic Materials Engineering	2					2	
	○電子工学Ⅱ ElectronicsⅡ	1					1*	
	環境科学基礎 Introduction to Environmental Science	1		1				
	創作実習 Creative Practice	2				2*		
	電子回路設計 Design of Electronic Circuits	1				1		
	工学セミナー Engineering Seminar	1				1		
	応用物理 Applied Physics	4				4*		
	工業英語Ⅰ Technical EnglishⅠ	1				1		
	校外実習 Extramural Practice	1				(1)		
	卒業研究 Graduation Research	8					8	
	知的財産権 Intellectual Property	1					1	
	工業英語Ⅱ Technical EnglishⅡ	1					1	
	数学Ⅴ MathematicsⅤ	2					2*	
	開設単位小計 Subtotal	74	5	8	15	23 (1)	22 (1)	

	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
			1	2	3	4	5	
選択科目 Elective	◎電気法規 Electrical Laws and Regulations	1					1	
	○高電圧工学 High Voltage Engineering	1					1	
	○計算機工学 Computer Architecture	2					2	
	デジタル回路Ⅰ Digital CircuitsⅠ	1		1				
	情報工学Ⅲ Information EngineeringⅢ	2				2*		
	デジタル回路Ⅱ Digital CircuitsⅡ	1				1		
	通信工学Ⅰ Electrical CommunicationsⅠ	1				1		
	物理学特論 Advanced Physics	1				1		
	機械工学概論 Outlines of Mechanical Engineering	2				2		
	経営学概論 Introduction to Business Administration	1				1		
	電力情報 Power Information	2					2*	
	シーケンス制御 Sequential Control	1					1*	
	ロボット制御工学 Control for Robotics Engineering	1					1*	
	コンピュータネットワーク Computer Network	1					1*	
	通信工学Ⅱ Electrical CommunicationsⅡ	1					1*	
	環境工学 Environmental Engineering	1					1	
	原子力発電基礎 Elements of Nuclear Power Generation	1	1					集中講義
	放射線基礎 Introduction to Radioactivity and Radiation	1		1				集中講義
	廃炉ロボット概論 Fundamentals of nuclear decommissioning robotics	1			1			集中講義
	廃炉工学 Decommissioning of Nuclear Plant	1				1		集中講義
	防災学 Disaster Prevention	2					2*	
	開設単位小計 Subtotal	26	1	2	1	9	13	
専門科目 Technical Subjects	開設単位合計 Total Credits Offered	100	6	10	16	32 (1)	35 (1)	82単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	100	6	10	16	32 (1)	35 (1)	
一般科目 General Subjects	開設単位合計 Total Credits Offered	80	25 (1)	22 (1)	16 (1)	12 (1)	4 (1)	75単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	80	25 (1)	22 (1)	16 (1)	12 (1)	4 (1)	
合 計 Total	開設単位合計 Total Credits Offered	180	31 (1)	32 (1)	32 (1)	32 (1)	39 (2)	167単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	180	31 (1)	32 (1)	32 (1)	32 (1)	39 (2)	

(注) ◎印は第2種電気主任技術者資格取得のための必修得科目、○印は関係科目
 *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
 ()の数字は開講期を指定しない単位で外数

専門科目

Technical Courses

化学・バイオ工学科 Department of Applied Chemistry and Biochemistry

	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
			1	2	3	4	5	
必修科目 Required	基礎化学実験Ⅰ Experiment of Fundamental ChemistryⅠ	2	2					
	基礎化学実験Ⅱ Experiment of Fundamental ChemistryⅡ	4		4				
	情報処理Ⅰ Information ProcessingⅠ	1		1				
	創造実験実習Ⅰ Creative ExperimentⅠ	1			1			
	創造実験実習Ⅱ Creative ExperimentⅡ	1			1			
	化学・バイオ工学基礎実験Ⅰ Experiment of Basic Applied Chemistry and BioengineeringⅠ	4			4			
	化学・バイオ工学基礎実験Ⅱ Experiment of Basic Applied Chemistry and BioengineeringⅡ	2				2		
	化学・バイオ工学実験 Experiment of Applied Chemistry and Bioengineering	2				2		
	化学・バイオ工学セミナー Seminar of Applied Chemistry and Bioengineering	1				1		
	情報処理Ⅱ Information ProcessingⅡ	1				1		
	卒業研究 Graduation Research	10					10	
	基礎生物学 Fundamentals of Biology	2	2					
	分析化学 Analytical Chemistry	2		2				
	材料化学基礎 Introduction to Materials Chemistry	2		2				
	環境科学基礎 Introduction to Environmental Science	1		1				
	物理化学基礎 Fundamental Physical Chemistry	2			2			
	無機化学基礎 Fundamental Inorganic Chemistry	2			2			
	有機化学基礎 Fundamental Organic Chemistry	2			2			
	生物化学基礎 Fundamental Biological Chemistry	1			1			
	工業英語 Technical Communication	2			2			
	物理化学Ⅰ Physical ChemistryⅠ	2				2		
	無機化学Ⅰ Inorganic ChemistryⅠ	2				2		
	有機化学Ⅰ Organic ChemistryⅠ	2				2		
	生物化学Ⅰ Biological ChemistryⅠ	2				2		
	化学工学 Chemical Engineering	2				2		
	微生物工学 Microbial Engineering	2				2		
	機器分析Ⅰ Instrumental AnalysisⅠ	1				1		
	機器分析Ⅱ Instrumental AnalysisⅡ	1				1		
	環境化学Ⅰ Environmental ChemistryⅠ	2				2		
	応用物理 Applied Physics	4				4*		
	数学Ⅴ MathematicsⅤ	2					2*	
	高分子化学 Polymer Chemistry	2					2*	
	開設単位小計 Subtotal	69	4	10	15	26	14	

	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
			1	2	3	4	5	
選択科目 Elective	工業化学概論 Introduction to Industrial Chemistry	1			1			
	校外実習 Extramural Practice	1				(1)		
	物理学特論 Physics Seminar	1				1		
	経営学概論 Introduction to Business Administration	1				1		
	物理化学Ⅱ Physical ChemistryⅡ	2					2*	
	物理化学Ⅲ Physical ChemistryⅢ	2					2*	
	無機化学Ⅱ Inorganic ChemistryⅡ	2					2*	
	有機化学Ⅱ Organic ChemistryⅡ	2					2*	
	生物化学Ⅱ BiologicopⅡ	2					2*	
	生物化学Ⅲ BiologicopⅢ	2					2*	
	化学プロセス概論 Introduction to Chemical Process Engineering	2					2*	
	環境科学Ⅱ Environmental ChemistryⅡ	2					2*	
	生物資源化学 Bioresource Chemistry	2					2*	
	機械工学概論 Outlines of Mechanical Engineering	1					1	
	電子工学概論 Introduction to Electronics	1					1	
	知的財産権 Intellectual Property	1					1	
	原子力発電基礎 Elements of Nuclear Power Generation	1	1					集中講義
	放射線基礎 Introduction to Radioactivity and Radiation	1		1				集中講義
	廃炉ロボット概論 Fundamentals of nuclear decommissioning robotics	1			1			集中講義
	廃炉工学 Decommissioning of Nuclear Plant	1				1		集中講義
	防災学 Disaster Prevention	2					2*	
	開設単位小計 Subtotal	31	1	1	2	3 (1)	23 (1)	
専門科目 Technical Subjects	開設単位合計 Total Credits Offered	100	5	11	17	29 (1)	37 (1)	82単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	100	5	11	17	29 (1)	37 (1)	
一般科目 General Subjects	開設単位合計 Total Credits Offered	80	25 (1)	22 (1)	16 (1)	12 (1)	4 (1)	75単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	80	25 (1)	22 (1)	16 (1)	12 (1)	4 (1)	
合 計 Total	開設単位合計 Total Credits Offered	180	30 (1)	33 (1)	33 (1)	41 (2)	41 (2)	167単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	180	30 (1)	33 (1)	33 (1)	41 (2)	41 (2)	

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
()の数字は開講期を指定しない単位で外数

都市システム工学科 Department of Civil and Environmental Engineering

	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
			1	2	3	4	5	
必修科目 Required	工学実験・演習 Experiments and Exercises in Civil and Environmental Engineering	9		1	2	3*	3*	
	都市システム概論 Introduction to Civil and Environmental Engineering	1	1					
	製図法Ⅰ Drawing I for Civil and Environmental Engineering	2	2					
	CADⅠ CAD I	1	1					
	材料学 Construction Materials	2	2					
	構造力学Ⅰ Structural Mechanics I	2		2				
	環境科学基礎 Introduction to Environmental Science	1		1				
	応用物理 Applied Physics	4				4*		
	測量学Ⅰ Surveying I	2		2				
	測量実習Ⅰ Survey Training I	2		2				
	構造力学Ⅱ Structural Mechanics II	2			2			
	土木演習Ⅰ Civil Engineering Exercise I	1			1			
	地盤工学Ⅰ Geotechnical Engineering I	1			1			
	水理学Ⅰ Hydraulics I	1			1			
	環境科学 Environmental Science	1			1			
	測量学Ⅱ Surveying II	2			2			
	測量実習Ⅱ Survey Training II	2			2			
	土木情報処理Ⅰ Information Processing I for Civil Engineering	2				2*		
	構造力学Ⅲ Structural Mechanics III	2				2		
	橋梁工学 Bridge Engineering	1				1		
	コンクリート構造工学 Concrete Structure Engineering	2				2		
	地盤工学Ⅱ Geotechnical Engineering II	2				2*		
	水理学Ⅱ Hydraulics II	2				2		
	水処理工学Ⅰ Water Treatment Engineering I	1				1		
	地域計画 Regional Planning	2				2		
	システム工学 System Engineering	1				1		
	施工法Ⅰ Construction Method for Civil and Environmental Engineering I	1					1	
	技術英語Ⅰ Technical English I	1			1			
	校外実習 Extramural Practice	1					(1)	
	土木演習Ⅱ Civil Engineering Exercise II	2					2*	
	卒業研究 Graduation Research	10					10	
	数学Ⅴ Mathematics V	2					2*	
	応用地盤工学 Applied Geotechnical Engineering	1					1	
	環境工学Ⅰ Environment Engineering II	2					2*	
	水処理工学Ⅱ Water Treatment Engineering I	1				1		
	交通工学 Traffic Engineering	1					1	
	工学セミナー Civil and Environmental Engineering Seminar	2				2		

	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
			1	2	3	4	5	
必修科目 Required	都市基盤 維持・管理工学基礎 Introduction to Infrastructure Maintenance Engineering	1					1	防災・減災系列は選択科目
	コンクリート構造設計演習 Exercises on Reinforced Concrete Structure	2					2*	防災・減災系列は選択科目
	防災・減災 水防災工学 Water Induced Disaster Prevention Engineering	1					1	都市基盤系列は選択科目
	防災学 Disaster Prevention	2					2*	都市基盤系列は選択科目
	開設単位小計 Subtotal	81	6	8	13	25 (1)	28 (1)	
選択科目 Elective	CADⅡ CAD II	1		1				
	製図法Ⅱ Drawing for Civil Engineering II	1			1			
	土木情報処理Ⅱ Information Processing II for Civil Engineering	2					2*	
	環境工学Ⅱ Environment Engineering II	1					1	
	施工法Ⅱ Construction Method for Civil and Environmental Engineering II	1					1	
	技術英語Ⅱ Technical English II	2				2*		
	輸送施設工学 Transport Facilities Engineering	1					1	
	道路施策概論 Outline of Road Policy	1				1		
	知的財産権 Intellectual Property	1					1	
	物理学特論 Advanced Physics	1				1		
	経営学概論 Introduction to Business Administration	1				1		
	原子力発電基礎 Elements of Nuclear Power Generation	1	1					集中講義
	放射線基礎 Introduction to Radioactivity and Radiation	1		1				集中講義
	廃炉ロボット概論 Fundamentals of nuclear decommissioning robotics	1			1			集中講義
	廃炉工学 Decommissioning of Nuclear Plant	1				1		集中講義
	開設単位小計 Subtotal	17	1	2	2	6	6	
専門科目 Technical Subjects	開設単位合計 Total Credits Offered	98	7	10	15	31 (1)	34 (1)	82単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	98	7	10	15	31 (1)	34 (1)	
一般科目 General Subjects	開設単位合計 Total Credits Offered	80	25 (1)	22 (1)	16 (1)	12 (1)	4 (1)	75単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	80	25 (1)	22 (1)	16 (1)	12 (1)	4 (1)	
合計 Total	開設単位合計 Total Credits Offered	178	32 (1)	32 (1)	31 (1)	43 (2)	38 (2)	167単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	178	32 (1)	32 (1)	31 (1)	43 (2)	38 (2)	

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
()の数字は開講期を指定しない単位で外数

専門科目

Technical Courses

ビジネスコミュニケーション学科 Department of Business Communication

	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
			1	2	3	4	5	
必修科目 Required	日本史Ⅰ History of Japan I	1	1					
	日本史Ⅱ History of Japan II	1	1					
	コミュニケーション論Ⅰ Communication Science I	1	1					
	コミュニケーション論Ⅱ Communication Science II	1	1					
	世界史Ⅰ History of the World I	1	1					
	世界史Ⅱ History of the World II	1	1					
	情報基礎演習Ⅰ Computer Science Practice I	1	1					
	情報基礎演習Ⅱ Computer Science Practice II	1	1					
	経営入門Ⅰ Introduction to Business Administration I	1	1					
	経営入門Ⅱ Introduction to Business Administration II	1	1					
	簿記概論 Introduction to Bookkeeping	1	1					
	Business English Basics I	1			1			
	Business English Basics II	1			1			
	プログラミング演習Ⅰ Advanced Programming I	1			1			
	プログラミング演習Ⅱ Advanced Programming II	1			1			
	経済入門 Introduction to Economics	1			1			
	開発入門 Introduction to Development Studies	1			1			
	プレセミナーⅠ Pre-Seminar I	1			1			
	プレセミナーⅡ Pre-Seminar II	1			1			
	セミナーⅠ Seminar I	2				2		
	セミナーⅡ Seminar II	2				2		
	校外実習 Extramural Practice	1				(1)		
	卒業研究Ⅰ Graduation Research I	4					4	
	卒業研究Ⅱ Graduation Research II	8					8	
	開設単位小計 Subtotal	36	4	7	8	4 (1)	12 (1)	
選択科目 Elective	微積分Ⅰ Calculus I	1		1				
	数理統計Ⅰ Mathematical Statistics I	1		1				
	現代社会特論A Advanced Study on Contemporary SocietyA	1			1			
	現代社会特論B Advanced Study on Contemporary SocietyB	1			1			
	微積分Ⅱ Calculus II	1			1			
	微積分Ⅲ Calculus III	1			1			
	数理統計Ⅱ Mathematical Statistics II	1			1			
	経営学 Business Administration	1			1			
	財務会計Ⅰ Financial Accounting I	1			1			
	財務会計Ⅱ Financial Accounting II	1			1			
	Research in English	1				1		
	Survey of Current Social Events	1				1		
	情報処理演習A Information Processing PracticeA	2				2*		
	情報処理演習B Information Processing PracticeB	2				2*		

	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別 Year					備考 Notes
			1	2	3	4	5	
選択科目 Elective	経営情報演習Ⅰ Management Information Practice I	2				2*		
	経営情報演習Ⅱ Management Information Practice II	2				2*		
	線形代数 Linear Algebra	1				1		
	数理統計Ⅲ Mathematical Statistics III	2				2*		
	マクロ経済学Ⅰ Macroeconomics I	2				2*		
	マクロ経済学Ⅱ Macroeconomics II	2				2*		
	開発学 Development Studies	2				2*		
	財政学 Finance	2				2*		
	原価計算 Cost Accounting	2				2*		
	会計理論 Accounting Theory	1				1		
	環境科学 Environmental Science	1				1		
	応用数学論 Applied Mathematics	2				(2)*		
	組織論 Organization Theory	2				(2)*		
	経営戦略論 Management Strategy	2				(2)*		
	国際経営論 International Management	2				(2)*		
	女性労働史 Gender and Labor History	2				(2)*		
	現代社会特論C Advanced Study on Contemporary SocietyC	1					1	
	Business English Practice I	2					2*	
	Business English Practice II	2					2*	
	情報システム演習A Seminar in Information SystemsA	2					2*	
	情報システム演習B Seminar in Information SystemsB	2					2*	
	国際経済学 International Economics	2					2*	
	共生システム Studies on Convivial Society	2					2*	
	知的財産権 Intellectual Property	1					1	
	原子力発電基礎 Elements of Nuclear Power Generation	1	1					集中講義
	放射線基礎 Introduction to Radioactivity and Radiation	1		1				集中講義
	廃炉ロボット概論 Fundamentals of nuclear decommissioning robotics	1			1			集中講義
	廃炉工学 Decommissioning of Nuclear Plant	1				1		集中講義
	防災学 Disaster Prevention	2					2*	
	開設単位小計 Subtotal	65	1	3	9	26 (10)	16 (10)	
専門科目 Technical Subjects	開設単位合計 Total Credits Offered	101	5	10	17	30 (11)	28 (11)	82単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	101	5	10	17	30 (11)	28 (11)	
一般科目 General Subjects	開設単位合計 Total Credits Offered	78	26 (1)	22 (1)	14 (1)	11 (1)	4 (1)	75単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	78	26 (1)	22 (1)	14 (1)	11 (1)	4 (1)	
合 計 Total	開設単位合計 Total Credits Offered	179	31 (1)	32 (1)	31 (1)	41 (12)	32 (12)	167単位以上 修得 (卒業要件)
	修得可能単位数 Earnable Credits	179	31 (1)	32 (1)	31 (1)	41 (12)	32 (12)	

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
()の数字は開講期を指定しない単位で外数

専攻科

Programs for Advanced Courses



福島高専アドミッション・ポリシー
Admission Policy

求める学生像
Prospective students

全専攻

1. 専門の知識と基礎技術を有し、より高度な実践的かつ創造的技術を修得する意欲のある人（知識・技能）
2. 工学と経営の融合した分野に強い興味を持っている人（思考力・判断力・表現力）
3. 職業人としての倫理観を身につけ、専門分野で地域及び社会の発展に貢献したい人（主体性・協働）

All Advanced courses

1. Students who have basic knowledge and skills in the fields of their own choices and who have the motivation to learn practical and creative technologies
2. Students who have specific interests in the combined fields of engineering and management
3. Students who have a sense of professional ethics and who will contribute to both regional and global societies with their knowledge and skills in their chosen field

産業技術システム工学専攻

生産・情報システム工学コース

1. 機械・電気の専門的な基礎力を有し、機械・情報を活用した創造的なモノづくりに興味を持っている人
2. 生産・情報分野の技術者としての素養を身につけ、豊かな社会の発展に貢献することに意欲を持っている人

エネルギーシステム工学コース

1. 機械・電気の専門的な基礎力を有し、エネルギー分野に興味を持っている人
2. エネルギー分野の技術者としての素養を身につけ、豊かな社会の発展に貢献することに意欲を持っている人

化学・バイオ工学コース

1. 応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野の学修と研究に打ち込み、先端技術に柔軟に対応できる知識とスキルを修得したい人
2. 工学を修める者としての確かな倫理観を持ち、工学の発展及び地域・社会の環境改善に貢献したい人

社会環境システム工学コース

1. 建設・環境工学の研究に打ち込み、先端技術に柔軟に対応する知識とスキルを修得したい人
2. 確かな倫理観を持ち、工学の発展及び地域・社会の環境改善に貢献したい人

Industrial Technology System Engineering Course

Production and Information System Engineering Course

1. Students who have basic knowledge of mechanical and electrical engineering and who are interested in creative design and manufacturing abilities of making use of their own knowledge on machine and information
2. Students who have the potential to be engineers in the production and information fields and who have the desire to contribute to the development of our society

Energy System Engineering Course

1. Students who have specialized basic knowledge of both mechanical and electrical fields and who are interested in the energy field
2. Students who have the potential to be excellent engineers of the energy field and desire to contribute to the development of our society

Chemistry and Bioengineering Course

1. Students who will be dedicated to their own studies and researches of applied chemistry and bioengineering and related fields and who have the desire to obtain knowledge and skills to deal with advanced technology flexibly
2. Students who have a sense of ethics as an engineer-to-be and who have the desire to contribute to the advancement of the field of engineering and the improvement of both regional or global societies

Social Environment System Engineering Course

1. Students who will be dedicated to their own researches of Civil and Environmental Engineering and who have the desire to obtain knowledge and skills to flexibly respond to advanced technology
2. Students who have a sense of ethics and who have the desire to contribute to the advancement for engineering and the improvement of regional or global society

ビジネスコミュニケーション学専攻

ビジネスコミュニケーション学コース

1. 現代社会への幅広い関心を持ち、社会科学の研究と、語学や情報、環境問題などの関連分野の学習に打ち込む意欲を持っている人
2. たしかなコミュニケーション能力と情報リテラシーを身につけ、地域社会と国際社会の垣根をこえてグローバルに活躍する意欲のある人

Business Communicology Course

1. Students who have broad interests in contemporary society and who have willingness to engage in social science researches and related fields such as language, information, environmental problems
2. Students who have rich communication skills and information literacy and who are motivated to work globally beyond the boundaries of the local community and the international community

入学者選抜の基本方針

高等専門学校卒業程度の、各専門に必要な基礎的素養（工学系では、数学、各専門分野の基礎的知識・能力、ビジネス系では、小論文、経営学分野の基礎的知識・能力）を有していることを評価します。評価方法は、推薦による選抜では推薦書・調査書・志望調査書、学力試験による選抜では調査書・志望調査書・学力試験、社会人特別選抜では調査書・志望調査書および面接とします。

また、外国語による国際的コミュニケーション基礎能力を有していることを、英語の資格に関する証明書で評価します。

Selection of Students

Applicants must have a basic scholastic knowledge equivalent to graduates of the national institute of technology. In addition, basic understanding of mathematics and basic knowledge and skills in mechanical, electrical, civil or chemical engineering are required for the engineering courses. For the business course, basic knowledge of social science and business management are required. Foreign language communication skills are also considered as the important factor.

●本校専攻科について

本校では、平成16年度に専攻科が設置され、設置当初から3専攻（「機械・電気システム工学専攻」、「物質・環境システム工学専攻」、及び「ビジネスコミュニケーション学専攻」）で専攻科教育を行ってきました。

当初から各専攻で専門科目での融合、工学系専攻とビジネス系専攻の融合による、シナジー教育を目指し、専門関連科目だけでなく一般科目も充実させた教育を実践してきました。

さらに年度が進むにつれ、社会からの要請も徐々に変化してきており、それに合わせたカリキュラム改訂も数回にわたり行ってきました。

平成23年3月の東日本大震災及びそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、社会情勢の変化や地域のニーズが大きく変化したことから再生可能エネルギー分野、原子力安全分野、減災工学分野で地域の復興に活躍できる人材を育成するプログラムを導入し、平成27年4月に2専攻多コース制への改組を行いました。

Advanced Course

The Advanced Course was established in 2004, and comprised three courses: Mechanical and Electrical System Engineering, Chemical and Environmental System Engineering, and Business Communication.

From the beginning, the aim of each course was to combine its focus with another subject, for example engineering with business and speciality subjects with more general subjects. The curriculum was revised several times to correspond with changing demands and focus of our present societies or countries.

On March 2011, Great East Japan Earthquake and the accident of the Fukushima First Power Plant occurred, and the social situation and the needs of the region changed greatly. We launched the Reconstruction Human Resource Development Special Program in the renewable energy, the nuclear safety engineering and disaster mitigation engineering. Furthermore in April 2015 we reorganized the two major multi-course systems.

●特色

1. 工学系・ビジネス系シナジー効果による MOT（技術経営）教育

各専攻での専門分野に関する専門科目を学ぶほか、2 専攻共通の専門関連科目等を履修するとともに実践的職業人として必要な、他専攻専門分野の知識の習得及び思考力の育成を図ることにより、従来の専門分野の枠組みを超えた技術者やビジネスマンの育成をめざすシナジー教育を実施しています。これらの工学系・ビジネス系を融合させたカリキュラムのもと、「経営のわかる実践的技術プロフェッショナル」、「技術のわかる実践的ビジネスプロフェッショナル」の育成をめざすMOT（技術経営）教育を実施しています。

2. 実践的かつ創造的な少人数専門教育

各専攻ではより高度な専門科目の講義と少人数グループでの実験・セミナーが行われ、専門事項の深い理解と実験技術等を修得します。また、特別研究では、研究課題について文献調査・参考資料の作成、プレゼンテーションを実施し、専門知識の理解と表現及び発表能力を習得します。

3. 地域と連携した高度な研究活動

さらに、特別研究では主に地域に密着したテーマを採り上げ、地元企業との共同研究をめざすとともに、学会等での研究成果発表を義務づけ、創造性に富む研究開発能力を育成します。また、1 年生には夏季休業中に長期インターンシップを実施します。

4. 復興人材育成特別プログラム

再生可能エネルギー、原子力安全、減災工学の3 分野における復興支援に活躍できる人材を育成するため、復興支援特別科目を7 科目開講しています。プログラム履修生は、この科目群の中から4 科目以上を修得し、特別研究において復興支援に関係する課題に取り組みます。

●一般科目・専門関連共通科目

各専攻共通 Educational Curriculum (General Education Subjects and Related Specialized Subjects for all two advanced courses)

区 分	必修 選択 の別	授 業 科 目 Subjects		単位数 Credits	学年別配当 Yearly distributions				備 考 Notes	
					1 年 1st year		2 年 2nd year			
					前期 1st Semester	後期 2nd Semester	前期 1st Semester	後期 2nd Semester		
一 般 科 目 General Education Subjects	必修科目 Required	SDGs 探究	SDGs Explorations	2	2				ビジネスコミュニケーション 学コースは選択科目	
		現代英語Ⅰ	Contemporary EnglishⅠ	2	2					
	開設単位計		Subtotal	4	4		0			
	選択 科目 Elective	現代英語Ⅱ	Contemporary EnglishⅡ	2	2				ビジネスコミュニケーション 学コースは必修科目 現代英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲから2科目 以上修得すること	
		現代英語Ⅲ	Contemporary EnglishⅢ	2			2			
		日本文化論	Japanese Cultural Review	2	2					
		グローバル研修	Global Studies	1	(1)					
	開 設 単 位 計		Subtotal	7	4 (1)		2 (1)			
一般科目開設単位計			General Education Subjects Subtotal	11	8 (1)		2 (1)			
専 門 関 連 科 目 Specialized Subjects in Related Fields common to all Advanced Courses	必修 科目 Required	システムデザイン	System Design	2	2					
		産業財産権	Industrial Property	2	2					
		産業技術論	Industrial Technology	2	2					
		製品開発論	Research and Development of Product	2				2		
	開 設 単 位 計		Subtotal	8	6		2			
	選択 科目 Elective	現代化学	Modern Chemistry	2	2					
		科学技術史	History of Science and Technology	2			2			
	開 設 単 位 計		Subtotal	4	2		2			
専門関連科目開設単位計			Subtotal	12	8		4			

() の数字は開講期を指定しない単位で外数

Distinctive Features

1. Education in MOT (Management of Technology) resulting from the synergy of engineering and business studies

In addition to specialized subjects in their field of study, students will be expected to take specialized subjects in related fields offered by all Advanced Courses. Moreover the National Institute of Technology, Fukushima College provides synergistic education to nurture engineers and business specialists whose knowledge and skills go beyond existing frameworks for their fields of specialization. We aim to foster practical professionals with specialized knowledge in and out of their ordinal study fields.

2. Practical and highly specialized education in small groups

Each Advanced Course provides lectures in highly specialized subjects, experiment sessions, and seminars in small groups. This enables students to acquire a deeper understanding of the specialized subjects and experimental techniques. Students are required in their graduation thesis research to study literature related to their research topics, compile references, make presentations, and develop students' presentational skills.

3. Advanced research activities in collaboration with the local community

Students are encouraged to choose research topics closely related to the local community for their Special Research with the aim of engaging in joint research with local industries with which long-term internships are planned. Furthermore, because students are obliged to present the results of their researches at academic conferences, Advanced Courses strive to nurture their ability to engage in creative researches and developments.

4. The Reconstruction Human Resources Development Special Program

12 special subjects of restoration and reconstruction in this program were started to educate the specialists who can play an active part in the three fields: restoration and reconstruction in Renewable Energy, Nuclear Safety and Disaster Mitigation. The student who takes this program acquires one beyond 5 subjects from this subject group and work on a problem related to restoration and reconstruction in an Engineering Experiment and a Graduation Thesis Research.

産業技術システム工学専攻

Industrial Technology System Engineering Course

本科の機械システム工学科、電気電子システム工学科、化学・バイオ工学科、都市システム工学科のそれぞれの専門分野の基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深めます。また復興人材育成特別プログラムにより地域復興に活躍できる人材を育成します。

本専攻は次の4つのコースから成り立っています。

Based on the four undergraduate departments of Mechanical System Engineering, Electrical and Electronic System Engineering, Applied Chemistry and Biochemistry, Civil and Environmental Engineering, this program seeks to enhance the basic skills of each of these areas of expertise and deepen their applicability. Furthermore, the Reconstruction Human Resources Development Special Program is designed to nurture and develop human resources that play an active part in the reconstruction of localities.

This specialty courses consists of the following four courses.

機械系・電気系の材料工学分野及び機械加工系、電子・情報系を融合した教育・研究

生産・情報システム工学コース

Production and Information System Engineering Course

機械系・電気系の材料工学分野及び機械加工系、電子・情報系を融合した教育・研究を行います。

機械設計関連、システム制御関連、電子物性関連及び情報関連分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を学び、生産・情報分野で活躍できる人材を育成します。このコースの教育・研究は復興人材育成特別プログラムのロボット技術、メカトロニクス、防災通信等と密接に関係しており、これらの分野で地域の復興に活躍できる人材も育成します。

Through advanced application and specialized subjects of mechanical design, systematic control, electronic properties and information, this course fosters talented individuals who can play an active part in the field of production and information.

The academic and research aspects of this course are closely related to robot technology, mechatronics and disaster communication in the Reconstruction Human Resources Development Special Program.



●専攻科専門科目 Educational Curriculum (Specialized Subjects)

生産・情報システム工学コース 専門科目 Production and Information System Engineering Course

区分	必修 選択 の別	授 業 科 目 Subjects	単位数 Credits	学年別配当 Yearly Distribution				備 考 Notes
				1 年 1st year		2 年 2nd year		
				前期 1st Semester	後期 2nd Semester	前期 1st Semester	後期 2nd Semester	
専門 関連 科目 Specialized Subjects in Related Fields common to all Advanced Courses	必修 科目 Required	応用解析学 Applied Analytics	2	2				
		材料科学 Material Science	2			2		電気電子工学区分は選択科目（専門関連科目）
		産業安全工学総論 Industrial Safety Engineering	2				2	復興人材育成特別科目
		開 設 単 位 計 Subtotal	6	2		4		
	選択 科目 Elective	力学総論 General and Quantum Mechanics	2	2				
		環境保全工学 Environmental Preservation Engineering	2	2				復興人材育成特別科目
		応用電子制御工学 Applied Electronically Control Engineering	2	2				電気電子工学区分は必修科目（専門科目）
		数値計画論 Mathematical Planning	2		2			電気電子工学区分は必修科目（専門科目）
		減災工学 Disaster Prevention Engineering	2			2		復興人材育成特別科目
		都市経済学 Urban Economics	2				2	復興人材育成特別科目
		システム論 System Theories	2				2	
		電力流通工学 Power Delivery System Engineering	2				2	復興人材育成特別科目、電気電子工学区分は必修科目（専門科目）
		電子物性工学 Electronic Material Science and Engineering	2				2	電気電子工学区分は必修科目（専門科目）
		応用電磁気学 Applied Electromagnetism	2				2	電気電子工学区分は必修科目（専門科目）
		応用半導体工学 Applied Semiconductor Engineering	2				2	電気電子工学区分は必修科目（専門科目）
		開 設 単 位 計 Subtotal	22	8		14		
開 設 単 位 合 計 Total		28	10		18			
専門 科目 Technical Subjects	必修 科目 Required	特別研究Ⅰ Graduation Thesis ResearchⅠ	6	6				
		特別研究Ⅱ Graduation Thesis ResearchⅡ	10			10		
		生産管理論 Manufacturing System Engineering	2	2				電気電子工学区分は必修科目（専門関連科目）
		品質工学 Quality Engineering	2	2				電気電子工学区分は選択科目（専門科目）
		情報科学論 Informational Science	2		2			
		応用メカトロニクス Applied Mechatronics	2			2		復興人材育成特別科目、電気電子工学区分は選択科目（専門関連科目）
		制御システム工学 Control System Engineering	2			2		電気電子工学区分は選択科目（専門科目）
		産業応用情報工学 Applied Industrial Information Engineering	2			2		電気電子工学区分は選択科目（専門科目）
		応用塑性加工学 Applied Plasticity	2			2		電気電子工学区分は選択科目（専門関連科目）
		熱流体工学 Thermo-Fluid Engineering	2				2	電気電子工学区分は選択科目（専門関連科目）
		インターンシップ A Internship A	2	(2)				
		開 設 単 位 計 Subtotal	34	12 (2)		20 (2)		
	選択 科目 Elective	インターンシップ B Internship B	2	(2)				
		インターンシップ C Internship C	2	(2)				
		開 設 単 位 計 Subtotal	4	(4)				
		開 設 単 位 合 計 Total		38	12 (6)		20 (6)	

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

エネルギーシステム工学コース

Energy System Engineering Course



機械系・電気系のエネルギー関連分野の教育・研究を行います。
エネルギー分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を学び、機械・電気関連のエネルギー分野で活躍できる人材を育成します。
このコースの教育・研究は復興人材育成特別プログラムの再生可能エネルギー分野、原子力安全工学分野にも密接に関係しており、エネルギー関連産業で活躍できる人材も育成します。

This course aims to develop human resources that can play an active part in the mechanical and electrical energy fields through more advanced and applicable education of highly specialized subjects related to the energy sector.

The education and research of this course is closely related to renewable energy fields and nuclear safety engineering fields in the Reconstruction Human Resources Development Special Program.

●専攻科専門科目 Educational Curriculum (Specialized Subjects)

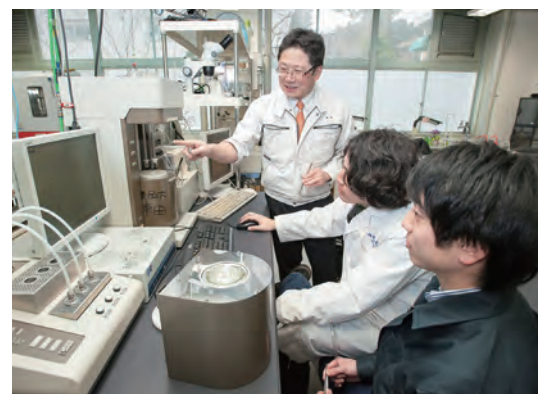
エネルギーシステム工学コース 専門科目 Energy System Engineering Course

区分	必修 選択 の別	授 業 科 目 Subjects		単位数 Credits	学年別配当 Yearly Distribution				備 考 Notes	
					1 年 1st year		2 年 2nd year			
					前 期 1st Semester	後 期 2nd Semester	前 期 1st Semester	後 期 2nd Semester		
専門 関連 科目 Specialized Subjects in Related Fields common to all Advanced Courses	必修 科目 Required	エネルギー変換工学	Energy Conversion Engineering	2	2					
		生産管理論	Manufacturing System Engineering	2	2				機械工学区分は必修科目(専門科目)	
		応用解析学	Applied Analytics	2	2					
		産業安全工学総論	Industrial Safety Engineering	2				2	復興人材育成特別科目	
		開 設 単 位 計	Subtotal	8	6		2			
	選択 科目 Elective	力学総論	General and Quantum Mechanics	2	2					
		環境保全工学	Environmental Preservation Engineering	2	2					復興人材育成特別科目
		材料科学	Material Science	2				2		機械工学区分は必修科目(専門関連科目)
		減災工学	Disaster Prevention Engineering	2				2		復興人材育成特別科目
		応用塑性加工学	Applied Plasticity	2				2		機械工学区分は必修科目(専門科目)
		応用メカトロニクス	Applied Mechatronics	2				2		復興人材育成特別科目、機械工学区分は必修科目(専門科目)
		都市経済学	Urban Economics	2					2	復興人材育成特別科目
		システム論	System Theories	2					2	
		熱流体工学	Thermo-Fluid Engineering	2					2	機械工学区分は必修科目(専門科目)
	開 設 単 位 計	Subtotal	18	4		14				
開 設 単 位 合 計		Total	26	10		16				
専門 科目 Technical Subjects	必修 科目 Required	特別研究Ⅰ	Graduation Thesis ResearchⅠ	6	6					
		特別研究Ⅱ	Graduation Thesis ResearchⅡ	10			10			
		応用電子制御工学	Applied Electronically Control Engineering	2	2				機械工学区分は選択科目(専門関連科目)	
		数理計画論	Mathematical Planning	2		2			機械工学区分は選択科目(専門関連科目)	
		情報科学論	Informational Science	2		2				
		インターンシップ A	Internship A	2	(2)					
		開 設 単 位 計	Subtotal	24	12 (2)		10 (2)			
	選択 科目 Elective	品質工学	Quality Engineering	2	2				機械工学区分は必修科目(専門科目)	
		産業応用情報工学	Applied Industrial Information Engineering	2				2	機械工学区分は必修科目(専門科目)	
		制御システム工学	Control System Engineering	2				2	機械工学区分は必修科目(専門科目)	
		電子物性工学	Electronic Material Science and Engineering	2					2	機械工学区分は選択科目(専門関連科目)
		応用電磁気学	Applied Electromagnetism	2					2	機械工学区分は選択科目(専門関連科目)
		応用半導体工学	Applied Semiconductor Engineering	2					2	機械工学区分は選択科目(専門関連科目)
		電力流通工学	Power Delivery System Engineering	2					2	復興人材育成特別科目、機械工学区分は選択科目(専門関連科目)
		インターンシップ B	Internship B	2	(2)					
		インターンシップ C	Internship C	2	(2)					
		開 設 単 位 計	Subtotal	18	2 (4)		12 (4)			
開 設 単 位 合 計		Total	42	14 (6)		22 (6)				

() の数字は開講期を指定しない単位で外数

化学・バイオ工学コース

Chemistry and Bioengineering Course



応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野の教育・研究を行います。

化学・バイオ工学科（準学士課程）専門分野の基礎学力をさらに充実させたうえで、その専門性を高めます。さらに、現代の応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野における先端技術やその動向に柔軟に対応できる人材の育成をめざします。

このコースの教育・研究は復興人材育成特別プログラム放射線計測関連分野に関係しており、廃炉技術の重要な分野である放射線及び放射線物質の取扱いの分野で活躍できる人材も育成します。

We aim to foster human resources who are capable of adapting and responding to cutting-edge technology and its movement in the areas of modern applied chemistry and biochemistry. Further studies in these fields will enhance the potential opportunities for the students to be involved in various careers in their future.

●専攻科専門科目 Educational Curriculum (Specialized Subjects)

化学・バイオ工学コース 専門科目 Chemistry and Bioengineering Course

区分	必修 選択 の別	授 業 科 目 Subjects	単位数 Credits	学年別配当 Yearly Distribution				備 考 Notes
				1 年 1st year		2 年 2nd year		
				前期 1st Semester	後期 2nd Semester	前期 1st Semester	後期 2nd Semester	
専門 関連 科目 Specialized Subjects in Related Fields common to all Advanced Courses	必修 科目 Required	生産管理論 Manufacturing System Engineering	2	2				
		応用解析学 Applied Analytics	2	2				
		材料科学 Material Science	2			2		
		産業安全工学総論 Industrial Safety Engineering	2				2	復興人材育成特別科目
		開 設 単 位 計 Subtotal	8	4		4		
	選択 科目 Elective	力学総論 General and Quantum Mechanics	2	2				
		環境保全工学 Environmental Preservation Engineering	2	2				復興人材育成特別科目
		情報科学論 Informational Science	2		2			
		数理計画論 Mathematical Planning	2		2			
		応用メカトロニクス Applied Mechatronics	2			2		復興人材育成特別科目
		減災工学 Disaster Prevention Engineering	2			2		復興人材育成特別科目
		都市経済学 Urban Economics	2				2	復興人材育成特別科目
		システム論 System Theories	2				2	
		電力流通工学 Power Delivery System Engineering	2				2	復興人材育成特別科目
	開 設 単 位 計 Subtotal	18	8		10			
	開 設 単 位 合 計 Total		26	12		14		
専門 科目 Technical Subjects	必修 科目 Required	特別研究Ⅰ Graduation Thesis ResearchⅠ	6	6				
		特別研究Ⅱ Graduation Thesis ResearchⅡ	10			10		
		物質プロセス工学 Material Process Engineering	2	2				
		応用材料化学 Applied Material Chemistry	2			2		
		生体分子機能工学 Biomolecular Functional Engineering	2				2	
		材料科学 Material Science	2			2		
		インターンシップ A Internship A	2	(2)				
		開 設 単 位 計 Subtotal	26	8 (2)		16 (2)		
	選択 必修 科目 Elective Required	応用合成化学 Applied Synthetic Chemistry	2			2		3科目以上修得すること
		構造物理化学 Structural Physical Chemistry	2			2		
		応用有機化学 Applied Organic Chemistry	2			2		
		現代分析化学 Modern Analytical Chemistry	2			2		
		開 設 単 位 計 Subtotal	8	0		8		
	選択 科目 Elective	インターンシップ B Internship B	2	(2)				
		インターンシップ C Internship C	2	(2)				
		開 設 単 位 計 Subtotal	4	(4)				
開 設 単 位 合 計 Total		38	8 (6)		24 (6)			

() の数字は開講期を指定しない単位で外数

社会環境システム工学コース

Social Environmental System Engineering Course

建設・環境系の教育・研究を行います。

土木工学と環境工学に関する専門知識を修得し、さらに関連科目の履修を通して複眼的視野を深めます。これらを通して日々進化する先端技術に柔軟に対応しつつ、環境に配慮することのできる建設技術を身につけた人材を育成します。

このコースの教育・研究は、復興人材育成特別プログラムの減災工学分野に関係しており、まちを災害から守る技術分野や災害復興に取り組む分野で活躍できる人材も育成します。



The course is designed for students to acquire expertise in both civil engineering and environmental engineering, and deepen their multilateral viewpoints. While responding flexibly to evolving advanced technology, we aim to train engineers equipped with the skills of construction technology and environmental consciousness.

This course is closely associated with disaster mitigation engineering in the Reconstruction Human Resources Development Special Program.

●専攻科専門科目 Educational Curriculum (Specialized Subjects)

社会環境システム工学コース 専門科目 Social Environmental System Engineering Course

区分	必修 選択 の別	授 業 科 目 Subjects	単位数 Credits	学年別配当 Yearly Distribution				備 考 Notes
				1 年 1st year		2 年 2nd year		
				前期 1st Semester	後期 2nd Semester	前期 1st Semester	後期 2nd Semester	
専門 関連 科目 Specialized Subjects in Related Fields common to all Advanced Courses	必修 科目 Required	生産管理論 Manufacturing System Engineering	2	2				
		応用解析学 Applied Analytics	2	2				
		材料科学 Material Science	2			2		
		産業安全工学総論 Industrial Safety Engineering	2				2	復興人材育成特別科目
		開 設 単 位 計 Subtotal	8	4		4		
	選択 科目 Elective	力学総論 General and Quantum Mechanics	2	2				
		情報科学論 Informational Science	2		2			
		材料科学 Material Science	2			2		
		応用メカトロニクス Applied Mechatronics	2			2		復興人材育成特別科目
		都市経済学 Urban Economics	2				2	復興人材育成特別科目
		システム論 System Theories	2				2	
		電力流通工学 Power Delivery System Engineering	2				2	復興人材育成特別科目
	開 設 単 位 計 Subtotal	14	4		10			
開 設 単 位 合 計 Total		22	8		14			
専門 科目 Technical Subjects	必修 科目 Required	特別研究Ⅰ Graduation Thesis ResearchⅠ	6	6				
		特別研究Ⅱ Graduation Thesis ResearchⅡ	10			10		
		環境保全工学 Environmental Preservation Engineering	2	2				復興人材育成特別科目
		構造解析論 Analytics of Structures	2	2				
		数理計画論 Mathematical Planning	2		2			
		水工学 Hydraulic Engineering	2			2		
		減災工学 Disaster Prevention Engineering	2			2		復興人材育成特別科目
		地盤工学特論 Advanced Geotechnical Engineering	2			2		
		維持・管理工学 Infrastructure Maintenance Engineering	2				2	
		水環境工学 Water Environmental Engineering	2				2	
		インターンシップ A Internship A	2	(2)				
		開 設 単 位 計 Subtotal	34	12 (2)		20 (2)		
	選択 科目 Elective	インターンシップ B Internship B	2	(2)				
		インターンシップ C Internship C	2	(2)				
開 設 単 位 計 Subtotal		4	(4)					
開 設 単 位 合 計 Total		38	12 (6)		20 (6)			

() の数字は開講期を指定しない単位で外数

ビジネスコミュニケーション学専攻

Business Communicology Course

本科のビジネスコミュニケーション学科の専門的な基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深めることで、地域社会の発展に貢献するとともに、グローバルに活躍できる人材を育成します。本専攻は次の1つのコースから成り立っています。

Students will be expected to enhance the professional basic academic skills of social sciences learned in the associate degree programs, and deepen their applicability and expertise. In addition, we will cultivate talented individuals who can play an active part in community reconstruction by Reconstruction Human Resources Development Special Program.

This specialty course consists of the following one course.

社会科学系、特にビジネスに関連する研究・教育

ビジネスコミュニケーション学コース

Business Communicology Course

準学士課程のビジネスコミュニケーション学科で習得した社会科学系知識の応用力を育み、さらに専門性を深める科目を履修します。くわえて、工学系とビジネス系のシナジー効果を期待できる科目を履修することにより、工学の基礎知識と国際社会で通用するビジネスコミュニケーション能力を併せ持つ人材を育成します。

このコースの教育・研究は復興人材育成特別プログラムの各分野に関係しており、社会の持続可能性に配慮しながら地域社会の発展に貢献するとともに、たしかなコミュニケーション能力と国際感覚をもち、地域社会と国際社会の垣根をこえてグローバルに活躍できる人材も育成します。



With expectations of synergy effects between business-based courses and engineering courses, we will seek to cultivate human resources with the basic engineering knowledge, engineering thinking skills, and the business communication skills corresponding to the international community with a global viewpoint as well as contributing to local societies. This course concerns sustainable development in the Reconstruction Human Resources Development Special Program.

●専攻科専門科目 Educational Curriculum (Specialized Subjects)

ビジネスコミュニケーション学コース 専門科目 Business Communicology Course

区分	必修 選択 の別	授 業 科 目 Subjects		単位数 Credits	学年別配当 Yearly Distribution				備 考 Notes
					1 年 1st year		2 年 2nd year		
					前期 1st Semester	後期 2nd Semester	前期 1st Semester	後期 2nd Semester	
専門 関連 科目 Specialized Subjects in Related Fields common to all Advanced Courses	必修 科目 Required	経済産業論 Industrial Economics	2			2		復興人材育成特別科目	
		都市経済学 Urban Economics	2				2	復興人材育成特別科目	
		開 設 単 位 計 Subtotal	4	0		4			
	選択 科目 Elective	環境保全工学 Environmental Preservation Engineering	2	2				復興人材育成特別科目	
		ビジネス英語 Business English	2				2		
		減災工学 Disaster Prevention Engineering	2			2		復興人材育成特別科目	
		産業安全工学総論 Industrial Safety Engineering	2				2	復興人材育成特別科目	
		開 設 単 位 計 Subtotal	8	2		6			
開 設 単 位 合 計 Total		12	2		10				
専門 科目 Technical Subjects	必修 科目 Required	特別研究Ⅰ Graduation Thesis ResearchⅠ	6	6					
		特別研究Ⅱ Graduation Thesis ResearchⅡ	8			8			
		経営学演習 Business Practice Seminars	2	2					
		新事業開発 New Business Development Theories	2	2					
		生産管理論 Manufacturing System Engineering	2	2					
		データ分析論 Data Analysis Theories	2	2					
		財務諸表論 Financial Reporting Theories	2	2					
		広告メディア論 Advertisement and Media Vehicle Theories	2	2					
		経営管理論 Business Management Studies	2		2				
		グローバル経営論 Global Management Studies	2			2			
		経営分析論 Financial Statements Analytics	2				2		
		製品開発論 Product Development Theories	2				2		
		インターンシップ A Internship A	2	(2)					
		開 設 単 位 計 Subtotal	36	20 (2)		14 (2)			
	選択 科目 Elective	情報科学論 Informational Science	2				2		
		システム論 System Theories	2				2		
		インターンシップ B Internship B	2	(2)					
		インターンシップ C Internship C	2	(2)					
		開 設 単 位 計 Subtotal	8	(4)		4 (4)			
開 設 単 位 合 計 Total		44	20 (6)		18 (6)				

() の数字は開講期を指定しない単位で外数

本校では、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準に基づいて教育を実施します。

●編成方針

- (1) 準学士課程(本科)においては、くさび型[※]の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定し、5年一貫の体系的な教育課程を編成する。
専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。
※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程
- (2) 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、及び専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
- (3) 教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の

修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

●成績評価基準

- (1) 科目の成績評価は、定期試験の成績および平素の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
- (2) 講義科目では主に定期試験の筆記試験により、演習科目では筆記試験やレポート等を総合的に勘案し、さらに、実験・実習科目ではレポートや授業態度により評価する。
- (3) 科目の成績評価結果は100点法で行い、60点以上を合格とする。
- (4) 各科目について、成績評価が60点以上の場合は単位の修得を認定する。

●専攻科課程 各専攻、コースごとの教育課程編成方針

ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各専攻各コースでは、以下の科目群を系統的に編成する。

産業技術システム工学専攻

<生産・情報システム工学コース>

- (1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるように、機械工学や電気電子工学を基盤として、生産・制御・情報・通信に関連した専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやシステムデザイン能力を有し、工学・ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力を修得できるように、産業技術システム工学やビジネスコミュニケーション学に関連する他分野の科目を設け、実験・実習および講義を主とした学修を実施する。
- (4) 国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

<エネルギーシステム工学コース>

- (1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるように、機械工学や電気電子工学を基盤として、体・熱・電力・エネルギー等に関連した専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやシステムデザイン能力を有し、工学・ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力を修得できるように、産業技術システム工学やビジネスコミュニケーション学に関連する他分野の科目を設け、実験・実習および講義を主とした学修を実施する。
- (4) 国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

<化学・バイオ工学コース>

- (1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を修得できるように、応用化学や生物工学を基盤とした専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやシステムデザイン能力を有し、工学・ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力を修得できるように、産業技術システム工学やビジネスコミュニケーション学に関連する他分野の科目を設け、実験・実習および講義を主とした学修を実施する。
- (4) 国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

<社会環境システム工学コース>

- (1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を修得できるように、土木工学や環境工学を基盤とした専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやシステムデザイン能力を有し、工学・ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力を修得できるように、産業技術システム工学やビジネスコミュニケーション学に関連する他分野の科目を設け、実験・実習および講義を主とした学修を実施する。
- (4) 国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

ビジネスコミュニケーション学専攻

<ビジネスコミュニケーション学コース>

- (1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を修得できるように、経営学を基盤とした専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) 工学・ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つ

け解決する能力を修得できるように、ビジネスコミュニケーション学や産業技術システム工学に関連する他分野の科目を設け、実験・演習および講義を主とした学修を実施する。

- (4) 国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

●専攻科教員 Academic Faculty

職名 Title	学 位 Degree	氏 名 Name	主な担当科目	Main Subjects for teaching and researching
教授 Professor	工学博士 D.Eng.	原 田 正 光 HARADA Masamitsu	産業技術論 環境保全工学	Industrial Technology Environmental Preservation Engineering
	博士(工学) D.Eng.	湯 川 崇 YUKAWA Takashi	データベース論 経営学演習	Foundation of Database Systems Business Practice Seminars
	博士(工学) D.Eng.	植 英 規 UE Hidenori	システムデザイン 品質工学	System Design Quality Engineering
	博士(工学) D.Eng.	鄭 耀 陽 ZHENG Yaoyang	応用メカトロニクス 制御システム工学	Application Mechatronics Control System Engineering
	博士(工学) D.Eng.	菊 地 卓 郎 KIKUCHI Takuro	減災工学 水工学	Disaster Prevention Engineering Hydraulic Engineering
	博士(工学) D.Eng.	高 橋 章 TAKAHASHI Akira		
	博士(工学) D.Eng.	赤 尾 尚 洋 AKAO Takahiro		
	博士(工学) D.Eng.	小 出 瑞 康 KOIDE Mizuyasu	システムデザイン	System Design
	博士(工学) D.Eng.	伊 藤 淳 ITO Atsushi		
	博士(電気工学) D.Eng.	鈴 木 晴 彦 SUZUKI Haruhiko	電子物性工学 システムデザイン	Electronic Material Science & Engineering System Design
	博士(理学) D.Sc.	天 野 仁 司 AMANO Hitoshi		
	博士(工学) D.Eng.	車 田 研 一 KURUMADA Kenichi	物質プロセス工学	Material Process Engineering
	博士(理学) D.Sc.	梅 澤 洋 史 UMEZAWA Hirohito	応用有機化学 応用合成化学	Practical Organic Chemistry Advanced Organic Syntheses
	博士(工学) D.Eng.	齊 藤 充 弘 SAITO Mitsuhiro	数理計画論 応用防災通信	Mathematical Planning Advanced Disaster Prevention Engineering
	博士(工学) D.Eng. 技術士 P.E.	緑 川 猛 彦 MIDORIKAWA Takehiko	維持・管理工学	Infrastructure Maintenance Engineering
	博士(情報科学) Ph.D.	芥 川 一 則 AKUTAGAWA Kazunori	都市経済学 経済産業論	Urban Economics Industrial Economics
	文学修士 M.A	高 野 克 宏 TAKANO Katsuhiro		
	文学修士 M.A	笠 井 哲 KASAI Akira	SDGs探究 科学技術史	SDGs Exploration History of Science and Technology
	博士(理学) D.Sc.	西 浦 孝 治 NISHIURA Koji	応用解析学	Applied Analytics
	博士(文学) Ph.D	高 橋 宏 宣 TAKAHASHI Hironobu	日本文化論	Japanese Cultural Review
准教授 Associate Professor	博士(工学) D.Eng.	柴 田 公 彦 SHIBATA Kimihiko	生体分子機能工学	Biomolecular Functional Engineering
	博士(工学) D.Eng.	松 尾 忠 利 MATSUO Tadatoshi	材料科学	Materials Science
	博士(工学) D.Eng.	篠 木 政 利 SHINOKI Masatoshi	熱流体工学	Flow and Heat Transfer Engineering
	博士(工学) D.Eng.	鈴 木 茂 和 SUZUKI Shigekazu	応用塑性加工学 原子力安全工学	Application Technology Plasticity Science and Engineering Nuclear Reactor Safety
	博士(工学) D.Eng.	野 田 幸 矢 NODA Satsuya	応用メカトロニクス	Application Mechatronics
	博士(理工学) Ph.D.	濱 崎 真 一 HAMAZAKI Shinichi	応用電子制御工学	Applied electronically control Engineering
	博士(工学) D.Eng.	山 田 貴 浩 YAMADA Takahiro	産業応用情報工学	Applied Industrial Informational Engineering
	博士(情報科学) Ph.D.	小 泉 康 一 KOIZUMI Koichi	情報科学論	Informational Engineering Seminar

職名 Title	学 位 Degree	氏 名 Name	主な担当科目	Main Subjects for teaching and researching
准教授 Associate Professor	博士(工学) D.Eng.	豊 島 晋 TOYOSHIMA Susumu	応用半導体工学	Applied Semiconductor Electronics
	博士(工学) D.Eng.	橋 本 慎 也 HASHIMOTO Shinya	電力流通工学	Electric Power Distribution Engineering
	博士(工学) D.Eng.	酒 巻 健 司 SAKAMAKI Kenji	現代化学	Modern Chemistry
	博士(工学) D.Eng.	押 手 茂 克 OSHITE Shigekazu	環境保全工学 現代分析化学	Environmental Preservation Engineering Modern Analytical Chemistry
	博士(工学) D.Eng.	高 荒 智 子 TAKAARA Tomoko	環境解析評価論 水環境工学	Environmental Analysis and Evaluation Water Environmental Engineering
	修士(教育学) M.Ed.	渡 邊 エリカ WATANABE Erica	経営学演習 ビジネス英語	Business Practice Seminars Business English
	博士(学術) Ph.D.	田 淵 義 英 TABUCHI Yoshihide	経営学演習	Business Practice Seminar
	博士(理学) D.Sc.	杉 山 武 史 SUGIYAMA Takeshi	生産管理論 数理意思決定論	Manufacturing System Engineering Mathematical Decision-making Theory
	博士(情報科学) Ph.D.	宮 本 拓 歩 MIYAMOTO Takuho		
	博士(工学) D.Eng.	小 田 洋 平 KOTA Yohei	力学総論	General and Quantum Mechanics
講 師 Assistant Professor	博士(工学) Ph.D.	金 高 義 KIM Kouji		
	博士(理学) D.Sc.	千 葉 貴 裕 CHIBA Takahiro	力学総論	General and Quantum Mechanics
助 教 Research Associate	博士(工学) D.Eng.	佐々木 修 平 SASAKI Shuhei	応用電磁気学	Applied Electromagnetics
	博士(理学) D.Sc.	十 亀 陽一郎 SOGAME Yoichiro	生体分子機能工学	Biomolecular Functional Engineering
	博士(工学) D.Eng.	森 崇 理 MORI Takamichi	システムデザイン 応用材料化学	System Design Applied Material Chemistry
	博士(工学) D.Eng.	丹 野 淳 TANNO Jun	応用防災通信 特別研究 I	Advanced Disaster Prevention Engineering Graduation Thesis Research I
	博士(工学) D.Eng.	三 浦 拓 也 MIURA Takuya	地下空間工学	Underground space Engineering
	博士(工学) D.Eng.	浅 野 寛 元 ASANO Hiroyoshi	特別研究 I	Graduation Thesis Research I
	博士(工学) (D.Eng.)	相 馬 悠 人 SOMA Yuto	特別研究 I	Graduation Thesis Research I
	修士(経済学) M.Ec.	若 林 晃 央 WAKABAYASHI Akihiro	システムデザイン 経営学演習	System Design Business Practice Seminars
	修士(経済学) M.Ec.	安 部 智 博 ABE Tomohiro	財務諸表論 経営分析論	Financial Reporting Theories Financial statements analytics
嘱託教授 Special Reemployment Professor	博士(工学) D.Eng	大 槻 正 伸 OHTSUKI Masanobu	システム論 産業安全工学総論	System Theories Industrial Safety Engineering
嘱託准教授 Special Reemployment Associate Professor	博士(工学) D.Eng.	一 色 誠 太 ISSHIKI Seita	エネルギー変換工学	Energy Conversion Engineering
非常勤講師 Lecture Teaching Staff	技術士 P.E.	小 松 道 男 KOMATSU Michio	産業財産権	Industrial Property Studies
	博士(工学) D.Eng.	山ノ内 正 司 YAMANOUCHI Masaji	構造解析論	Analytics of Structures
	会計修士 M.B.A.	栗 林 利 紗 KURIBAYASHI Risa	グローバル経営論 経営管理論	Global Management Studies Business Management Studies
		松 田 拓 MATSUDA Taku	広告メディア論	Advertisement and Media Vehicle Studies
	修士(学術) M.A.	大川口 信 一 OKAWAGUCHI Shinichi	新事業開発	New Business Development Studies
	経営管理修士 M.B.A.	芳 賀 宏一郎 HAGA Koichiro	製品開発論	Research and Development of Product

持続可能な社会の発展に向けた取組

Projects for Sustainable Developments : SDGs Promotion Projects

By utilizing the UNESCO 17 SDGs, our institution aims to educate and provide the students with the skills and abilities to contribute to a sustainable society. Our students are encouraged to examine the issues from a global perspective while taking into consideration the people, social systems and environment which are affected.

本校では、地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力の育成を学習・教育目標の一つに掲げており、その達成に資する取組としてSDGsの実現に向けて取組んでいます。

1. 地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）

本校はサステナブルスクールとして活動を開始したことを契機に、その成果を地域へ還元するため、特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）が公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）と共同で運営する「ESD活動支援センター」が設置する地域ESD活動推進拠点として登録しています。ESDの普及に向け、自治体と連携しながらSDGs教材を使用した出前授業などに取組んでいます。



2. SDGsのホールスクールアプローチ

持続可能な社会づくりの担い手を育成するため、ビジネスコミュニケーション学科3年生の専門科目で「開発学入門」を開講し、SDGsと開発問題について学習します。さらに同学科4年生の専門科目で「開発学Ⅰ・Ⅱ」を開講しており、経済成長、世界経済、消費者行動等の視点から開発に理解を深める授業を行っています。



3. SDGs Webinarの開催

SDGs Webinarでは、持続可能な地域社会づくりに貢献できるような未来のエンジニアを育てることを目的としています。

Webinarとは、学生達に自分の住む地域の問題を見直し、持続可能な社会を創る気概を持ち、地方創生のためのイノベーションを起こすことやビジネスを考える機会を与えるセミナー（Web+Seminar）のことです。Webinarで地域単位の問題発見・提起を行い、その解決策を検討し、新規ビジネスとして提案できるよう国連の掲げるSDGs17と起業プランの紐づけを学びます。



●SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むものとされています。

また、ESD（Education for Sustainable Development）とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を意味し、SDGsの実現に貢献する取組として注目されています。

●SDGs Webinar2021

SDGs Webinar2021は、2021年11月～12月の土曜日90分で計6回開催されました。本Webinarでは、米国シリコンバレーで起業した日本人講師3名よりマーケティングやアントレプレナーシップの講義、実際に学生から起業した講師の体験談、長岡/豊橋技科大の教授よりSDGs17の169のターゲットについての講義を受けました。

その後、SDGs17をフレームワークとして、地域に共通した問題を見つけ、その解決策を地方創生の起爆剤となるビジネス案として作成・発表しました。

地域貢献となるよう、問題・解決策を模索しながらビジネスモデルに適應させ、実際の起業を目指す意欲と情熱のあるグローバルな人材を育てるため、SDGs Webinarは今後も継続していきます。



4. JSTS (Japan Seminar on Technology for Sustainability) 2021

〈持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する日本セミナー 2021〉

ISTS/JSTSは、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度は中止しましたが、2021年度はJSTSのみオンラインで実施しました。

JSTS2021は、英語でのコミュニケーションや異文化交流をととして、グローバルリーダーに不可欠な高いコミュニケーション能力やSDGsを軸とした倫理観、ITリテラシーの向上を目的として開催されました。本セミナーには、全国国公立高専、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、海外協定校（タイ、ベトナム、フィンランド）から合計49名が参加しました。

参加者は、2021年9月13日～17日の5日間オンラインで参加し、8グループに別れて、SDGs17の身近な問題や地域の課題に関連した題材から解決方法を英語でディスカッションしながら思案しました。その成果をショートムービー形式でまとめ、最終日に各グループごとに発表しました。

福島高専は、2021年度で開催担当校としての役目を終え、2022年度からは、鹿児島高専が開催担当校となります。当校からの参加も引き続き継続していきます。



廃炉に向けた人材育成の取組

Human Resources Development on Decommissioning Projects

This project is designed to correspond with the “human resource development and cooperation between higher education and research institutes in the medium-and-long term viewpoint” which is related to a governmental medium-and-long term roadmap for TEPCO's Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. The aim of this program is to cultivate the human resources necessary for safe and steady decommissioning work. By collecting knowledge and expertise from various fields, the difficulties that are faced in completing this monumental task would be made easier. This would be burdensome for private enterprises alone.

In addition, the Nuclear Decommissioning Network of the National Institute of Technology was established and it seeks to educate students at the Fukushima College while being supported by other colleges in the Institute. While the educational program on basic research aims to deepen students' interest in decommissioning the nuclear reactor, the highly practical education program aims to continuously cultivate human resources.

This project is based on education and research in nuclear decommissioning using of Japan Atomic Energy Agency (JAEA) facilities.

1. 概要

この取組は、平成31年度まで実施していた文部科学省の委託事業「廃炉に関する基盤研究を通じた創造的人材育成プログラム」を本校において継続しているものです。東京電力福島第一原子力発電所について、政府が決定した中長期ロードマップに位置づけられた「中長期の視点での人材育成及び大学・研究機関との連携」を進める観点から実施するもので、民間だけでは着手しづらい中長期的基盤研究について、多様な分野の叡智を集結して課題を克服し、安全かつ着実に廃炉作業を進めていく上で必要となる人材の育成を目的としています。また、廃炉に関する基盤研究を通じた教育プログラム（廃炉創造学修プログラム）を実施して、原子力発電所廃止措置の分野に学生の興味を膨らませるとともに、高度な実践的教育に基づき継続的に人材を育成することを目的として、廃止措置人材育成高専等連携協議会（通称：廃プロ高専協）を設立し、加盟高専等と連携のもと、本校が全国の高専生を対象に人材育成を進めています。

2. 廃炉創造学修プログラム

廃炉や放射線、原子力に関する知識を深めるために、1年生から5年生の各学年において下記の講義を行っています。学科を問わず受講可能です。

- ・原子力発電基礎：集中講義 1 単位、1 年生対象
- ・放射線基礎：集中講義 1 単位、2 年生対象（e-learning）
- ・廃炉ロボット概論：集中講義 1 単位、3 年生対象（e-learning）
- ・廃炉工学：集中講義 1 単位、4 年生（e-learning）
- ・原子力事故総論：集中講義 1 単位、5 年生対象

3. 廃炉創造ロボコン

ロボット製作を通じて学生に廃炉に関する興味を持たせると同時に、学生の創造性の涵養に貢献し、課題解決のみならず課題解決能力を養うことを目的に、廃炉創造ロボコンを開催しています。昨年度は第6回大会を令和3年12月11日に日本原子力研究開発機構櫛葉遠隔技術開発センターで開催しました。全国から12高専、13チームの参加があり、各チームが今回の競技課題である高線量エリアの遠隔高所除染に挑みました。

4. 研究開発を通じた人材育成

本科の卒業研究や専攻科の特別研究を通じて廃止措置に関する基盤研究を実施し、研究を通じた人材育成を進めています。主な研究テーマは以下の通りです。

- (1) 水中クローラロボット開発
- (2) 原子炉建屋内小型探査ロボット開発
- (3) 水中探査ロボット「ラドほたる」開発
- (4) 過酷事故対応電子機器の実用化に向けた耐放射線・高温動作半導体デバイスの高性能化



第6回廃炉創造ロボコン 競技の様子

原子力規制人材育成事業

Human Resources Development on Nuclear Regulation

This project aims to develop their skills and knowledge about nuclear regulation, cooperating closely in the project with the other colleges near to some nuclear power plants ; the students can work as immediate fighting strength in the field of nuclear regulation.

1. 概要

今後30年以上の長きにわたる福島第一原子力発電所の廃炉や福島第二原子力発電所のような通常炉の廃炉の規制に関わる若い人材の育成が必要となっています。そこで、原子力発電所近くに立地する複数の高専との連携を中心に、全国の高専生を対象に廃炉や放射線防護などに関する科学的基礎を理解し、原子力規制の分野で活躍可能な即戦力人材の育成を実施します。

2. 実施項目

この事業では、体験的な学習を通して科学的・技術的な知見を有する実践的人材の育成を行うため次の取組を実施します。

(1) 原子力規制に関する講義

次の講義を福島高専生を対象として実施するほか、e-learningで実施する科目については、単位互換協定のある全国の高専生に提供します。規制庁からの外部講師の招へい、グループ討論の導入といった方法により理解の向上につなげています。

- ・原子力発電基礎 1年生対象 1単位
- ・放射線基礎 2年生対象 1単位 (e-learning)
- ・廃炉ロボット概論 3年生対象 1単位 (e-learning)
- ・廃炉工学 4年生対象 1単位 (e-learning)
- ・環境安全学演習 4年生対象 1単位
- ・原子力事故総論 5年生対象 1単位
- ・環境科学基礎 2年生対象 1単位
- ・環境工学 4年生対象 1単位

(2) 研修、施設見学

原子力規制の現場を正しく理解すること、また講義内容の現実を知り、現場の状況を正しく把握すること等を目的に研修、施設見学を実施しています。主な研修先等は次のとおりです。

- ・福島第一、福島第二原子力規制事務所
- ・原子力規制庁本庁、原子力安全研修所
- ・日本原子力研究開発機構、原子力機構幌延深地層研究センター
- ・東京電力
- ・英国セラフィールド社、シェフィールド大学

(3) 学生研究

全国の高専生等を対象に公募された研究テーマが、審査を経て、企業・研究所等と連携しながら実施されています。研究活動を通じて課題解決能力とコミュニケーション能力を育成します。

令和4年度に実施される研究テーマ（抜粋）

- ・埋設可能なジオポリマーコンクリートの作製
- ・福島県の循環型社会に貢献する下水処理水の有効利用
- ・浜通り環境回復学習ツアーの開発
- ・二級河川夏井川流域における河川底質中に含まれる放射性セシウムの実態調査
- ・光硬化樹脂を用いた遮蔽材開発

福島イノベーション・コースト構想への対応

Contribution to the Fukushima Innovation Coast Framework

The Fukushima Innovation Coast Framework is a national project designed to build a new industrial infrastructure in the coastal region of Fukushima Prefecture in order to recover the industries that were lost due to the earthquake and tsunami on March 11, 2011 and the nuclear disaster.

Within the Framework, projects will be realized in the fields of robotics, energy, decommissioning, agroforestry and fisheries, and efforts are made to form industrial clusters, foster human resources, and to increase the number of visitors.

福島イノベーション・コースト構想は、浜通り地域等における産業の復興のため、この地域での新たな産業の創出を目指す構想です。廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー、農林水産等の分野における産業集積、教育・人材育成、交流人口の拡大等に取り組んでいます。

県内外の大学等有する本県復興に資する知を集積・活用し、この構想の実現に向けてイノベーションを生み出す高度な人材の長期的な教育・育成の基盤を構築することを目的に、「大学等の復興知を活用した人材育成基盤構築事業」が行われています。本校でもさまざまな機関と協力しながら次の事業に取り組んでいます。

大学等の復興知を活用した人材育成基盤構築事業

事業名：広野町における未利用資源の探索と資源化みかんプロジェクト

1. 事業のポイント

本事業では、イノベーション人材として、地域の活性化提案をする人、そのような取り組みを理解したり支援する人と定義し、さまざまな取り組みに参加しやすい環境や意識を醸成して行く取り組みであること。

目的の達成のために、教育、農業、環境の3分野で活動を展開し、小学生から高校生、その保護者、農業関係者、町内の方々へ向けて、微生物の探索、農産廃棄物などの資源化検討、農業分野での省エネルギーなど提案し、二ツ沼総合公園や学校など広野町内で活動を展開する事業である。

2. 人材育成目標

地域の活性化や取り組みを提案できる人、その活動を理解できる人、支援できる人をイノベーション人材と定義し、さまざまな取り組みに参加しやすい環境作り、科学や技術への興味、関心を持てる雰囲気や意識の醸成に取り組む。

3. 2022年度の活動内容

・有用微生物の探索 ひろの花マップの作成 季節を彩る花に注

目して、微生物のサンプリングを行って、微生物と花の情報を地図上に記録する。

- ・放課後理科教室 広野小学校などで微生物の特別講義と実習を行い、身近な微生物の存在の確認と微生物の採取をみかんの丘で実施する。培養、単離、遺伝子解析は福島高専で行う。
- ・施設園芸農業支援 パナナ栽培における省エネルギー（地中熱の利用、温室の特性改善）、廃棄物の資源化と循環利用、パナナ苗生産に取り組む。

4. 取り組みによって得られる成果

- ・町民参加型の有用微生物探索活動による町由来微生物の産業利用、特産品の開発、雇用、施設園芸農業の効率化、パナナ栽培の持続性向上、二ツ沼総合公園での学習
- ・科学と技術による「広野町の再発見と新しい評価」の提案



放課後理科教室



施設園芸農業支援

事業名：福島復興知学の深化と展開：ミルフィーユ型人材の育成基盤構築

1. 事業のポイント

復興知とイノベーション・コースト構想の推進に必要な多層的な知識・技能を身につけた人材を「ミルフィーユ型人材」とし、自治体・大学等・企業等と連携してミルフィーユ型人材を育成する。さらに、ミルフィーユ型人材育成を通じて、産業創出や国際的情報発信も行う。

2. 人材育成目標

【地域を担う未来人材の育成基盤構築】

各ライフステージに応じた多層的教育を経て真の復興を担える多様な人材を育成する。

【福島を舞台として、世界的視野で福島の発展を支える人材の育成基盤構築】

浜通りでの「まなび」をもとに学術文化を推進し、世界に情報発信できる人材を育成する。

3. 2022年度の活動内容

【地域の創造的復興を担う人材の育成基盤構築】

- ・科学教室、市民講演会、企業向けセミナー、自治体向けに各種セミナー等を実施。
- ・連携する自治体・施設・企業等と協力して、ミュージアム事業

と国際会議等を実施。

【福島を舞台として、世界的視野で福島の発展を支える人材の育成基盤構築】

- ・東京大学、福島高専で復興知教育プログラムを実施。自治体・企業へ放射線教育の提供。
- ・連携する自治体・施設等に大学生等を100名程度引率し、フィールド学習と地域交流を実施。
- ・放射線に関する卓越した教育研究を実施して国際的に情報発信。製品化研究も実施して産業育成。

4. 取り組みによって得られる成果

- ・多層的な知識と技能を身につけて地域の発展に貢献できるミルフィーユ型人材が育成される。
- ・「福島らしい」新しい学術文化を創造し、面的な地域活性化・魅力と価値創造に貢献する。
- ・「福島ならではの」卓越した教育・先端研究を実施し、復興知事業を国際的に情報発信できる。



フィールドワーク



東日本大震災・原子力災害伝承館見学

除去土壌の再生利用等に関わる 地域の若者を中心とした理解醸成事業

Young Student's Contribution to Public Relations for Reuse of Very Low-level Contaminated Soil Generated by Decontamination of Fukushima

Upper grade students of NIT(KOSEN),Fukushima college have learned actively the status of interim storage, R&Ds for reuse of very low-level radioactive(VLL) contaminated soil towards final disposal of soil in Fukushima through a seminar, field works. After the active learning, they have challenged public relations for reuse of VLL contaminated soil under consideration of the local encountered difficulties. Finally effectiveness of these approaches has been discussed.

1. 概要

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う除染により生じた除去土壌等は、大熊町・双葉町に整備が進められている中間貯蔵施設に運搬され、中間貯蔵開始後30年以内に福島県外で最終処分されることとなっています。除染により発生する除去土壌は1,330万㎡（帰還困難区域を除く）と推計されており、減容化等の技術開発が進められています。本校では、アクティブ・ラーニングを通して学生が除去土壌等の再生利用等について正しく理解するとともに、地域住民との対話により理解醸成を進めるアプローチ手法の実践に取り組んでいます。

2. 理解醸成のための課題解決型アプローチ

本事業では、①学修プログラム、②フィールド・ワーク、③理解醸成に向けた取組の3つの取組を柱として、事業を推進しています。また、この取組を全国的な展開とするため全国の大学、高専との交流も行っています。

① 学修プログラム

中間貯蔵、減容・再生利用、最終処分に関する基礎的な知識、技能の習得のため集中講義を実施しています。講義の中で はPBL(Problem-Based Learning)やIBL(Inquiry-Based Learning)を取り入れたグループ討論も行い、学生の探求心や課題解決能力を養うことも目的としています。

② フィールド・ワーク

知識を習得するとともに、現状や問題点を主体的に把握することを目的に、中間貯蔵、減容・再生利用、最終処分に関する研究開発等の施設や現場の見学を実施しています。

見学予定施設等

飯館村再生利用実証事業施設、中間貯蔵施設、特定復興拠点（大熊町等）等

③ 理解醸成に向けた取組

学修プログラム、フィールド・ワークによって得た知識を正しく伝え、地域への理解醸成につなげることを目的に、次の取組を行っています。

・大熊町花舞台作業

学生が地域住民とともに住宅地に花畑をつくり、信頼関係の構築につなげるとともに、作業後に再生利用や復興等に関するテーマで意見交換会を行っています。

・地域住民との勉強会

学生が1年間の学習成果を発表しながら、地域住民と除去土壌の再生利用等に関する意見交換などを行います。



フィールド・ワーク



大熊町・花舞台作業



地域住民との勉強会



図書館 Library



開架書庫 Library room

図書館

Library

図書館は、学校全体の学習センターとしての役割を果たしています。ここには、教育及び研究に必要な情報の資料を中心に、授業に欠かせない参考図書、豊かな情操を養うための教養書、美術書などが開架式書架に並べられています。また、学術専門雑誌、一般及び自然科学雑誌、電子ジャーナル、電子書籍、新聞も自由に閲覧できるようになっています。本館は一般の方にも開放しています。

令和元年度に改修工事が竣工し、学習センターとしての設備の充実が図れました。

〈開館時間〉 平日（月～金）8:00～20:00
土曜日 9:00～16:00

〈休館日〉 日曜日、国民の祝日、年末年始等

※新型コロナウイルス感染防止対策として、現在、一般開放を中止しています。また、開館時間等も変更が生じています。

The College Library functions as center of study and information. It contains many important reference books for the study and research for each department. In the open browsing corner, many kinds of periodicals, weeklies, newspapers, new books, some white papers, and online journal etc. are accessible to students. The library has about 80,000 books, Our library is open to the public for academic study and research.

〈LIBRARY HOURS〉 Regular hours : Mon-Fri. 8:00-20:00
Sat. 9:00-16:00

〈Days Closed〉 Sunday, National Holidays

蔵書 Books and Periodicals 令和4年4月1日現在 As of April 1, 2022

分類 Classification	図 書 (冊) Books		購入雑誌 (タイトル数) Periodicals	
	和 書 Japanese	洋 書 Foreign	和 雑 誌 Japanese	洋 雑 誌 Foreign
総 記 General	7,372	137	2	—
哲 学 Philosophy	3,752	142	1	—
歴 史 History	3,657	42	1	—
社会科学 Social Science	6,427	224	2	—
自然科学 Natural Science	12,559	2,865	7	—
工 学 Technology	21,228	1,022	23	—
産 業 Industry	925	6	—	—
芸 術 Art	2,428	74	4	—
語 学 Language	4,207	3,359	—	—
文 学 Literature	8,293	647	2	—
小 計 Subtotal	70,848	8,518	42	—
合 計 Total	79,366		42	

情報処理教育センター

Information Processing Education Center

本センターは、情報処理の教育及び研究に資するために設置された学内共同施設です。演習室には、学生の演習用及び研究用に、NEC製サーバ、パーソナルコンピュータを設置しています。また、学内LAN設備の中核機能を持ち、各種サーバ類、ネットワーク管理機器が設置されています。

インターネットへは、高速イーサネット網でSINETへ1Gbps（帯域確保型）で接続し、全国の大学、高専及び研究機関はもとより、全世界と24時間情報のやりとりを行っています。

情報演習室は4室あり、演習用端末(Windows 10 Enterprise)を合計153台設置しています。基礎演習室、応用演習室は授業時間以外に学生へ開放しています。また、毎年一般向けに公開講座を実施し、多くの市民の方が訪れます。



講義演習室 Lecture and Seminar Room

The Information Processing Education Center was an intramural common space founded as a resource for both education and research. Education rooms have NEC servers and personal computers, and network management equipment which compose the core of the intramural LAN.

The Center has access to the Internet via Wide Area Ethernet to SINET and engages in a twenty-four-hour-a-day exchange of information with public and private universities, other national colleges of technology, and research institutes not only with in Japan but worldwide as well.

There are four Computer Rooms composed of 153 client computers(Windows 10 Enterprise). Computer Room For Literacy and Application is available for use by students outside of class time. Open education courses are held every year and attended by the general public.

●主な施設・設備

1. 建物 (313㎡)

管理室
サーバ室
情報基礎演習室
小演習室
情報応用演習室

Main Facilities

Buildings (313 ㎡)

Management Office
Server Room
Computer Room for Literacy
Small Computer Room
Computer Room for Application

2. 設備

- (1) 教育用計算機システム
演習室用コアL3スイッチ
サーバー用L2スイッチ
ユーザー認証、DNSサーバー×2台
(うち1台はWindows展開サービス兼用)
プロキシサーバー×1台
ファイルサーバー×1台

Facilities

Computer Education System
Core L3 Switch for Computer Education Rooms
L2 Switch for Servers
User Authentication,
DNS Server×2
Proxy Server×1
File Server×1

3. 演習室

- (1) 情報基礎演習室
フロアL2スイッチ×2台
WindowsクライアントPC×49台
モノクロA3レーザープリンタ×2台
カラーA3インクジェットプリンタ×1台
プロジェクター（天吊）×2台

Education Rooms

Computer Room for Literacy
Edge L2 Switch×2
Windows Client PC×49
Black and White A3 Laser Printer×2
Color A3 Ink-jet Printer×1
Projector×2

- (2) 情報応用演習室

フロアL2スイッチ×2台
WindowsクライアントPC×49台
モノクロA3レーザープリンタ×2台
プロジェクター（天吊）×2台

Computer Room for Application

Edge L2 Switch×2
Windows Client PC×49
Black and White A3 Laser Printer×2
Projector×2

- (3) 情報コミュニケーション演習室
フロアL2スイッチ×2台
WindowsクライアントPC×49台
モノクロA3レーザープリンタ×2台
プロジェクター（天吊）×2台
ペンタブレット×49台

Computer Room for Communication
Edge L2 Switch×2
Windows Client PC×49
Black and White A3 Laser Printer×2
Projector×2
Pen Tablet×49

- (4) 小演習室
フロアL2スイッチ×1台
WindowsクライアントPC×3台
MacクライアントPC×3台
大型カラーインクジェットプリンタ×1台
カラーA4レーザー複合機×1台

Small Computer Room
Edge L2 Switch×1
Windows Client PC×3
Macintosh Client PC×3
Large Color Ink-jet Printer×1
Color A4 Laser Printer×1



ポスター用大型プリンター Large Printer for a Poster

地域環境テクノセンター

Center for Environmental Technology and Community Liaison (CETCL)

本センターは、それまでの環境科学教育研究センターと地域交流センターの両機能を合わせ、かつ効率よく新しい展開をはかることをめざして、平成18年に開設されました。本校が培った研究・教育の成果や試験・分析・教育技術等を地域の産業や文化の発展に積極的に貢献することを目的として設置された産学官民の連携を推進するための支援機関です。また環境科学に関する知識、技術の教育及び研究を行っており、地域社会の産業の発展と住民の生活環境の向上に貢献します。運営は、専門5学科、一般教科及び専攻科等から選出された教職員で構成される委員会によって行われ、4つの部門（管理運営、リエゾン、技術支援、教育支援）にわかれて活動しております。

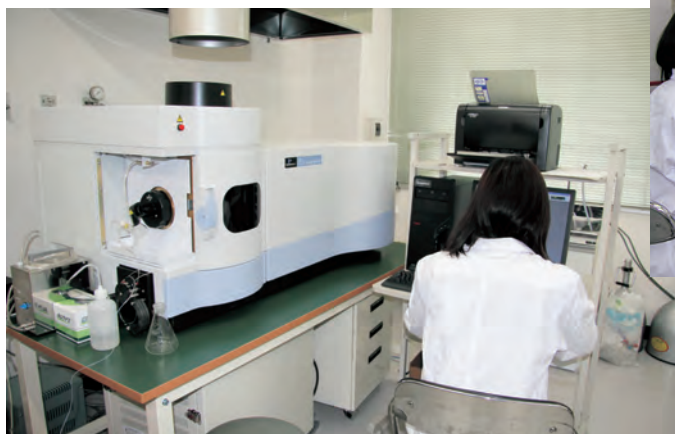
研究・開発支援、試験・分析サービス、技術相談、講演会の開催や研究会の実施、技術・教育シーズ集の公開、公開講座・実習、出前授業等幅広く取組んで、地域の企業や小中学校に対する支援を行っています。

The CETCL opened in 2006 with the aim of integrating the functions of the former Environmental Science Education and Research Center and the Local Information Exchange Center, and developing new projects efficiently. The Center comprises a support organization that has been established to promote cooperation between industry, academia (civic) and government with the aim of contributing to the development of local industry and culture by actively sharing the results of KOSEN's daily research and education, and techniques for conducting experiments, analysis and education. The Center engages in research and education concerning knowledge and techniques related to environmental science and contributes toward the development of local industry and improvement of citizens' living environment.

The Center is administrated by a committee comprising members selected from each of the five departments, which engages in four categories of activities (management and administration, liaison, technical support, and educational support). The Center provides assistance for research and development, experimental and analytical services, and technical consultation; holds lectures and hosts conferences; publishes a List of Seeds for Technology and Education; hosts open college meetings and training sessions; and engages in a wide variety of other activities that support local businesses, and primary and junior high schools.

●施設設備 Facilities Equipment

室 名 Room	主要機器名 Main Apparatus
物性測定室 (A) Measurement Room (A)	走査型電子顕微鏡(SEM) 走査型プローブ顕微鏡(SPM) デジタルマイクロスコープ Scanning Electron Microscope Scanning Probe Microscope Digital Microscope
物性測定室 (B) Measurement Room (B)	X線回折装置(XRD) 熱分析装置 X線光分子分光分析装置(XPS) NaI(Tl)シンチレーション検出器 X-ray Diffractometer DTA-TG Apparatus X-ray Photoelectron Spectrometer NaI (TI) Scintillation Detector
物性測定室 (C) Measurement Room (C)	液体クロマトグラフ質量分析計(LC-MS) 核磁気共鳴装置(¹³ C-NMR) Liquid Chromatograph Mass Spectrometer Nuclear Magnetic Resonance Spectrometer
物性測定室 (D) Measurement Room (D)	ゲルマニウム半導体検出器 液体シンチレーション検出器 Germanium Semiconductor Detector Liquid Scintillation Counter
物性測定室 (E) Measurement Room (E)	ICP発光分光分析装置(ICP-OES) ICP質量分析装置(ICP-MS) Inductively Coupled Plasma-Optical Emission Spectrometer Inductively Coupled Plasma-Mass Spectrometer
環境分析実験室 Environmental Analysis	高速液体クロマトグラフ 紫外可視吸光度計 High Pressure Liquid Chromatograph UV/Vis Spectrophotometer



ICP発光分光分析装置
ICP Optical Emission Spectrometer



X線光分子分光分析装置
X-ray Photoelectron Spectrometer



出前授業
Dispatch Classes



公開講座
Open College

●産学官連携

本センターによる産学官連携事業は、①民間企業との共同研究、②高専等からの技術移転、③高専発ベンチャーを目的とし「技術相談」・「受託試験、受託研究」・「共同研究」・「公開講座」・「TLO事業」・「リフレッシュ教育」・「技術及び教育シーズ集の編纂」等を行っています。

また、いわきヒューマンカレッジ（市民大学）への参画や技術経営セミナーの開催、いわき産学官ネットワーク協会などへの取組み等を通し地域支援事業を積極的に行っています。

●学学連携（学校支援）

小中学校の総合学習、理科教育、コンピュータ教育などの支援をするために公開実習、出前授業、学校開放等の事業を積極的に進めています。

- The Center participates in industry-academia government cooperation programs around three pillars : ① joint research with private enterprises, ② transfer of technology from technical colleges, and ③ venture business originating from technical colleges. In concrete terms, the Center engages in "technical consultation", "entrusted examinations and entrusted research", "joint research", "open lectures", "TLO projects", refreshment education" and "editing of the 'List of Seeds for Technology and Education'" The Center also actively engages in local support projects through participation in the "Iwaki Human College (citizens college), and the hosting of seminars on management of technology etc.

- The Center actively promotes open training seminars, dispatch classes, and open college days to support local primary and junior high schools' integrated learning, science education and computer literacy education.

国際化・SDGs 推進センター

Center for International Relations and SDGs Promotion

国際化・SDGs推進センターは、海外の大学等との学術交流、留学生の受入れ、本校学生の海外インターンシップ等の海外派遣等、学生及び教職員の国際交流活動を積極的に推進しています。

また、本校の教育目標である「持続可能な社会の発展」に貢献できる人材育成のため、国際的に持続可能な開発のための目標であるSDGsを学内に浸透させること、国内外のSDGs関連団体との連携を進めること等、学生及び教職員のSDGs推進にかかわる様々な活動を支援します。



The center aims to foster future global leaders who will contribute to the "Sustainable Development" of global and local societies. The center supports students, lecturers and staff participating in all types of training abroad. It also supports international students' studies at NIT(KOSEN), Fukushima College. By promoting SDGs, the center aims to foster future engineers with ethics based on "Sustainability".

国際化・SDGs 推進センターの主な役割 The Center's Main Roles

- ・留学生及び海外インターンシップ学生等の受入れに関すること
• Support international students and international internship students
- ・海外インターンシップ等学生の海外派遣に関すること
• Support domestic students joining internships and study programs abroad
- ・海外の大学等との交流及び協定に関すること
• MOUs and/or agreements with foreign universities and organizations
- ・国内外のSDGs及びサステナビリティを推進する団体や学会との交流及び協定に関すること
• MOUs and/or agreements with domestic and foreign organizations which focus on the promotion of SDGs
- ・福島高専のSDGs及びサステナビリティ推進のホールスクールアプローチの展開に関すること
• All activities which accelerate "whole-school-approaches to SDGs or campus sustainability promotion" at NIT(KOSEN), Fukushima College
- ・SDGs及びサステナビリティ推進に関する学生の活動を支援すること
• Support students' activities which focus on SDGs promotion

1. 国際化の推進

留学生の受入れ

本校では、3年次に編入学する長期留学生及び3か月以内の短期留学生を受入れています。長期留学生は、授業に出席し、準学士の資格を取得して3年後に卒業します。短期留学生は、指導教員のもとで研究活動を行います。留学生にはチューターを配し、日本の生活や文化に親しむ機会を提供しています。

■Acceptance of International Students

We have been accepting both long-term and short-term students. Long-term students transfer into the third year and earn credits to receive associates degree. After graduation, most of the students transfer to universities in Japan. Short-term students do their research under their supervisors in English. We assign tutors to international students to give them opportunities to learn about Japanese life and culture.

●留学生の受入れ（在籍状況） Acceptance of International Students

国費留学生（例年1、2名の受入れ）、マレーシア政府派遣留学生（例年1、2名の受入れ）、モンゴル政府派遣留学生（受入れ事業は令和3年度まで）



■ 学生の海外への送り出し

本校では、3年生対象の地元企業の海外拠点へのインターンシップと、専攻科対象の協定校へのインターンシップがあります。どちらも、単位認定をうけることができます。本校の協定校への派遣プログラムや、高専機構本部や他高専からの派遣プログラムを学内に周知し、学生の留学機会の提供を行っています。

■ Overseas Internships

NIT-FC has sent third year students to the overseas' bases of local firms and advanced courses students to our partner universities abroad. Students can earn credits through participating in either internship program. We offer our students various exchange programs offered by our partner universities, the headquarters of the National Institute of Technology (KOSEN) and another KOSENs in Japan.

● 海外インターンシップ等の学生派遣 [Dispatching Students for International Internships](#)

2019年度までの実績

高専機構本部海外インターンシップ、佐藤辰彦奨学金及び奈良基金によるアジア地区海外インターンシップ、フランス・リール地区等 IUT との学生相互派遣、フィンランド ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学及びトゥルク応用科学大学との学生相互派遣、オーストラリア・ジェームズクック大学への海外インターンシップ、海外ホームステイ型英語体験研修（オーストラリア・カナダ）、ISTS / JSTS「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術」に関する国際シンポジウム、大連短期留学プログラム、シリコンバレー・ジャパン・カレッジ短期留学プログラム、イギリス・ハートフォードカレッジオックスフォード語学研修プログラム、Regional Conference on Campus Sustainability、廃炉創造学修プログラム、英語キャンプ in シンガポール、オタゴポリテクニク就業経験プログラム、Korea Tech Summer Program

■ 海外との学術交流

本校では、海外の大学等と学術交流協定を結び、学生派遣及び受入れを主な事業とし、招聘教員による特別講義の実施、国際学会や交流事業を開催しています。また、協定校からの募集等を学内に周知しております。

■ Academic Exchange Agreements

We have signed Memorandum of Understandings with foreign institutions and have exchanged students mutually with them. In addition, lecturers from these institutions have been invited to give presentations or classes at our institution and various international conferences and exchange programs have been undertaken.

● 海外の学術交流協定校 [Overseas Partner Institutions](#)

ブラジル:サンパウロ大学(サンカルロス校工学部)、オーストラリア:ジェームズクック大学、メキシコ:グアナファト大学、フランス:ルアーブル大学ルアーブル技術短期大学、カナダ:バンクーバーアイランド大学付属高校、中国:大連東軟信息学院、陝西工業職業技術学院、ポルトガル:ポルト工科大学ポリテクニク、タイ:チェンマイ大学、アメリカ:NPO 法人シリコンバレー・ジャパン・カレッジ 他、他高専とのコンソーシアムとして、フランス:IUT、フィンランド:HMUAS、TUAS

2. SDGsの推進

国内外のSDGs及びサステナビリティを推進する団体や学会との交流及び協定に関すること。

特に福島高専のSDGs及びサステナビリティに関するホールスクールアプローチの展開や学生の活動を支援することに重点を置き推進していきます。

We have signed MOUs and/or agreements with domestic and foreign organizations which focus on the promotion of SDGs.

Moreover, we offer all activities which accelerate "whole-school-approaches of SDGs or campus sustainability promotion" at NIT(KOSEN), Fukushima College. We also support our students' activities which focus on the promotion of SDGs.

2021年度の実績は「持続可能な社会の発展に向けた取組」39～40ページをご参照ください。

- ESD拠点校としての活動
- SDGs Webinar2022の開催
- SDGs関連国際会議への参加の推奨

- SDGs推進に向けた両技科大との連携
- 学内でのSDGs理解の推進に向けた取組み

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**



モノづくり教育研究支援センター

Manufacturing Support Center for Education and Research

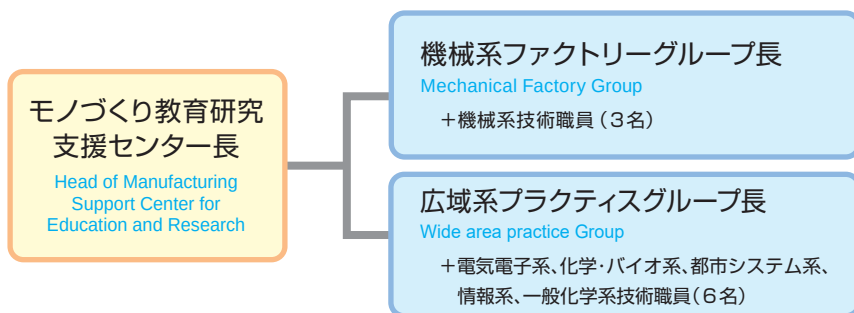
モノづくり教育研究支援センターは、2つの部門、専門的な常勤の技術職員11名から成る組織です。

センターの目的は、技術・技能支援、学生の実験・実習支援、教職員の研究支援です。

また、実習工場、モノづくり演習室の管理運営も行います。地元企業の技術相談、NPO法人など地元組織との連携も行っています。

Support center for MONOZUKURI (Creative Manufacturing) Education and Research consists of two divisions with 11 full-time technical staffs. The center aims to enhance the effects of hands-on technical training and experiments for students and the research activities of academic staffs. The center is also in charge of managing the manufacturing laboratories and facilities on campus. The center also provides technical consultancies to local industries and works with several local organizations, such as NPO.

●組織図 Organization Diagram



複合加工機
(INTEGREX i-200 ヤマザキマザック株式会社)
Compound machining machine

●実習工場施設設備 Facilities & Equipment in Manufacturing Laboratory

設 備 名		型 番
CNCワイヤー放電加工機	CNC wire-cut electrical discharge machine	AQ327L AL600P
精密CNC平面研削盤	Precise CNC surface grinding machine	TS-A3
三次元レーザー加工機	Three-dimensional Laser processing machine	SPACE GEAR U44
CNC立型マシニングセンタ	CNC vertical machining center	Dura Vertical 5060
CNC普通旋盤	CNC centre lathe	TAC-360
汎用普通精密旋盤	Usual precise lathe	TSL-550
NCフライス盤	NC milling machine	KE-55 IB-1V
半自動高速小形ホブ盤	Semi-automatic high-speed small hobbing machine	HOBLON 8-FN
サーボベンディングマシン	Servo Press Brake	EG-4010
高速精密切断機	High-speed precise cutting machine	SP-7 HS-45A
バンドソーマシン	Band saw machine	HFA250
シャーリングマシン	Shearing machine	AST-612
複合加工機	Compound machining machine	INTEGREX i-200

学生学習支援センター

Student Learning Support Center

学生学習支援センターは、本校で不可欠な基礎科目（数学・物理・化学）の学習サポートと実験・実習の提出物のサポートを目的として令和元年度に設置されました。

The Student Learning Support Center was established in 2019 for supplementary learning including support for fundamental subject (math, physics, and science) and submissions of experiments.

本センターでは、担当教員やTA（ティーチング・アシスタント）から、苦手基礎科目の学習のサポートやレポート作成のアドバイスなどの指導を受けることができます。

主な取り組みとして、放課後を利用して基礎科目（数学・物理・化学）の試験対策学習のサポートを行い、授業で理解が不十分なところを克服するための支援をしております。また、各自の学習習慣の問題点の気づきや学習目標の設定のために、低学年を対象に基礎学力診断テストを導入しました。

令和2年度からは従来の基礎科目試験対策学習のサポートの他に、常設の学習支援室を図書館2階に設け、放課後にTAから学習サポートが受けられる体制を整えています。



基礎学力診断テスト説明会風景



多目的学習ルーム

学生保健センター

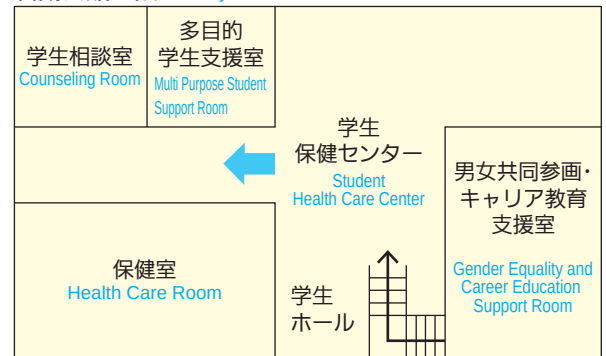
Student Health Care Center

学生保健センターは、学生の就学の健全性を保つために、心身の健康の維持・増進を図ることを目的に設置されています。「保健室」「学生相談室」「多目的学生支援室」で構成され、教員・学校医・カウンセラー・看護師によって運営されています。

In order to maintain the wellness of students, Student Health Care Center offers both physical and mental health care for students.

The center consists of "Health Care Room", "Counseling Room," and "Multi Purpose Student Support Room", supported by teachers, school physicians, counselors and nurses.

磐陽会館2階 Ban'yo Student Hall 2F



保健室 Health Care Room



学生相談室 Counseling Room



多目的学生支援室
Multi Purpose Student Support Room



磐陽会館 Ban'yo Hall

福利厚生施設「磐陽会館」

Ban'yo Student Hall and Health Center



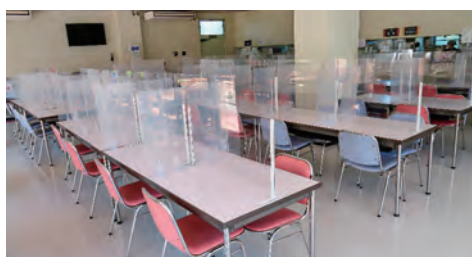
売店 Store

学生・教職員のための福利厚生施設、磐陽会館には、食堂・売店・学生保健センター・男女共同参画支援室等があります。

昼休みや放課後は、ここでくつろぐ多くの学生たちでにぎわっています。



男女共同参画・キャリア教育支援室
Gender Equality and Career Education Support Room



食堂 Cafeteria

Two-storied facility contains a cafeteria, a store, the Student Health Care Center, and a gender equality and career education support room.

Students use this hall to refresh themselves during their lunch break and after school.

学寮「磐陽寮」

Ban'yo Student Dormitory

本校の学寮は磐陽寮と称され、独立した6棟（若葉棟・青葉棟・暁棟・白雲棟・曙寮(国際寮)・こずえ棟）からなっています。

寮では起床から就寝まで、日課に従っての生活及び寮生会活動等を通して

- 規律ある生活
- 学力の育成
- 相互理解と親和
- 個性の尊重

を体得するよう指導しています。

The Ban'yo Dormitory Complex consists of six buildings : the Wakaba, Aoba, Akatsuki, Hakuun and Kozue Dormitories.

Through daily guidance and activities of the Residents Council, resident students are encouraged to realize the following four principles in their daily lives.

- An orderly life
- Improvement of study skills
- Mutual understanding and friendship
- Respect for individual differences



学寮 Dormitory

1. 定員

男子191名、女子109名

2. 施設・設備

● 学生居室

原則として男子低学年は、2名1室、男子高学年は1～2名1室で入居しています。（女子は1名1室）

机・椅子・本箱・ベッド・衣類ロッカー・

シューズラックは貸与

各居室に冷暖房完備・LAN設置

● 共同施設

食堂1カ所（給食は業者委託）

浴室（男子用）・浴室（女子用）

各棟に、談話室・自習室・洗濯室等設置

● その他の施設

事務室



曙寮（国際寮）
Akebano Dormitory



居室 A Boarder's Room

3. 入寮者数 Number of Residents

令和4年4月1日現在 As of April 1, 2022

学科 Department	学年 Year	1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	合計 Total
機械システム工学科 Mechanical System Engineering		11	12 (1)	12 (2)	11 (2) △	11 ①	57 (5) ① △
電気電子システム工学科 Electrical and Electronic System Engineering		10 (3)	6	12	7 (1) △	8 (1) △	43 (5) △
化学・バイオ工学科 Applied Chemistry and Biochemistry		7 (3)	9 (5)	7 (3)	8 (3)	7 (5) △	38 (19) △
都市システム工学科 Civil and Environmental Engineering		7 (2)	3	6 (1) ①	11 (2) ①	3 (1)	30 (6) ②
ビジネスコミュニケーション学科 Communication and Business		10 (7)	3 (2)	5 (2)	7 (6)	6 (6)	31 (23)
合計 Total		45 (15)	33 (8)	42 (8) ①	44 (14) ① △	35 (13) ① △	199 (58) ③ △

1. Resident Capacity

Male:167, Female:67

2. Facilities and Conveniences

● Resident Rooms

Rooms are shared by two students in the first and second years and occupied by one or two students in the third year.

Rooms are air-conditioned and equipped with desks, chairs, beds, lockers and shoe racks.

● Public Facilities

One dining hall

Two bathrooms (a large one for use by male students and a smaller one for female students)

Each building is equipped with a lounge, study hall and laundry.

● Other Facilities

The Complex is also equipped with overnight accommodations for faculty supervisors and an office.

()内は女子内数 ○内は留学生男子内数 △内は留学生女子内数
() Female students; ○ male foreign students △ Female foreign students

学生

Student Body

●学生定員及び現員 The Number of Students

学 科 Department	入学定員 Allotted Number	現 員 Current Student Population					合計 Total
		1年 1st Year	2年 2nd Year	3年 3rd Year	4年 4th Year	5年 5th Year	
機械システム工学科 Mechanical System Engineering	40	41 (38,3)	42 (39,3)	38 (36,2)	41 (36,5)	47 (44,3)	209 (193,16)
電気電子システム工学科 Electrical and Electronic System Engineering	40	42 (37,5)	41 (36,5)	41 (33,8)	43 (39,4)	41 (39,2)	208 (184,24)
化学・バイオ工学科 Applied Chemistry and Biochemistry	40	42 (18,24)	41 (18,23)	41 (24,17)	39 (19,20)	40 (17,23)	203 (96,107)
都市システム工学科 Civil and Environmental Engineering	40	40 (33,7)	41 (29,12)	42 (24,18)	43 (30,13)	36 (23,13)	202 (139,63)
ビジネスコミュニケーション学科 Communication and Business	40	43 (11,32)	38 (9,29)	38 (15,23)	40 (15,25)	39 (9,30)	198 (59,139)
合計 Total	200	208 (137,71)	203 (131,72)	200 (132,68)	206 (139,67)	203 (132,71)	1,020 (671,349)

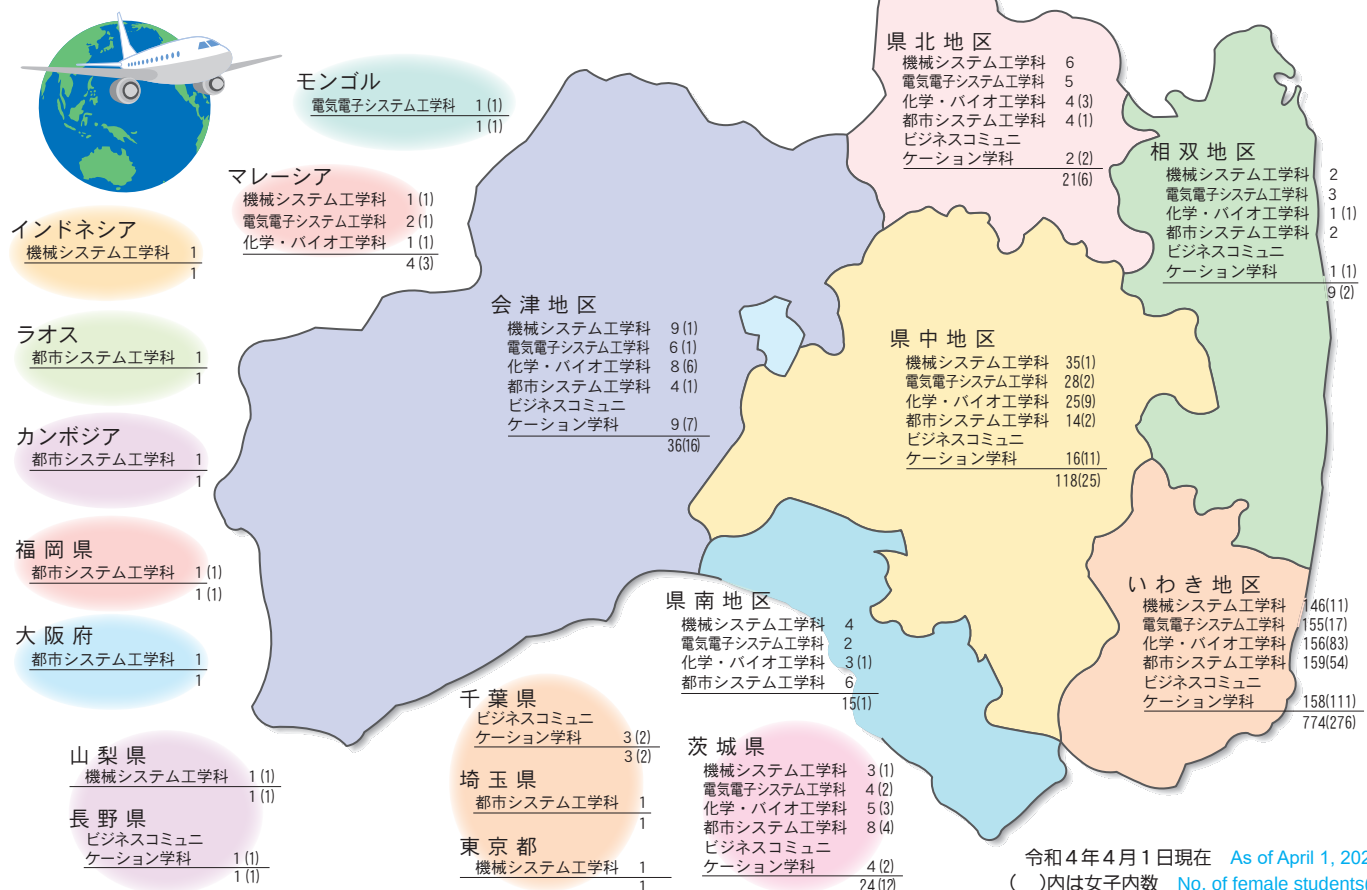
専 攻 科 Advanced Courses	入学定員 Allotted Number	現 員 Current Student Population		合計 Total
		1年 1st Year	2年 2nd Year	
産業技術システム工学専攻 Industrial Technology System Engineering Course	16	20 (14,6)	23 (18,5)	43 (32,11)
ビジネスコミュニケーション学専攻 Business Communicology Course	4	6 (2,4)	3 (2,1)	9 (4,5)
合計 Total	20	26 (16,10)	26 (20,6)	52 (36,16)

研究生 research student	3 (3,3)
-------------------------	------------

合計在学者数 Total	1,075 (710,365)
-----------------	--------------------

令和4年4月1日現在 As of April 1, 2022 (,)内は(男子,女子)数 (male female)

●出身地別学生数 The Number of Students by Home District



青森県	電気電子システム工学科 1 1
山形県	ビジネスコミュニ ケーション学科 1 (1) 1 (1)
新潟県	ビジネスコミュニ ケーション学科 1 1
宮城県	電気電子システム工学科 1 ビジネスコミュニ ケーション学科 2 (1) 3 (1)

令和4年4月1日現在 As of April 1, 2022
()内は女子内数 No. of female students()

●入学志願者状況 The Number of Applicants for Admission

学 科		工 機 学 械 科 シ ス テ ム	電 機 シ ス テ ム 工 学 科	工 化 学 ・ 学 バ イ オ 科	工 都 市 シ ス テ ム 科	学 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ス	合 計
		Mech.Eng.	Elec.Eng.	Chem.Biochem.	Civil.Eng.	BC	Total
入学定員 The Admission Number		40	40	40	40	40	200
平成 28 年度	志願者数 The Number of applicants	51	55	48	50	59	263
	志願倍率 The Competitive Ratio	1.3	1.4	1.2	1.3	1.5	1.3
平成 29 年度	志願者数 The Number of applicants	42	65	43	55	43	248
	志願倍率 The Competitive Ratio	1.1	1.6	1.1	1.4	1.1	1.2
平成 30 年度	志願者数 The Number of applicants	49	66	51	46	52	264
	志願倍率 The Competitive Ratio	1.23	1.65	1.28	1.15	1.3	1.32
平成 31 年度	志願者数 The Number of applicants	40	66	40	33	44	223
	志願倍率 The Competitive Ratio	1.0	1.7	1.0	0.8	1.1	1.1
令和 2 年度	志願者数 The Number of applicants	59	70	39	65	63	296
	志願倍率 The Competitive Ratio	1.5	1.8	1.0	1.6	1.6	1.5
令和 3 年度	志願者数 The Number of applicants	43	47	50	41	35	216
	志願倍率 The Competitive Ratio	1.1	1.2	1.3	1.0	0.9	1.1
令和 4 年度	志願者数 The Number of applicants	39	47	46	34	47	213
	志願倍率 The Competitive Ratio	1.0	1.2	1.2	0.9	1.2	1.1



陸上部 Track and Field Club



卓球部 Table Tennis Club



弓道部 Kyudo Club



演劇部 Drama Club



ロボット技術研究会 Robot Technology Club

●奨学生数 The Number of Scholarship Students

令和4年4月1日現在 As of April 1, 2022

区分	日本学生支援機構 Japan Student Services Organization	その他の奨学生 ^{注)} Other Scholarship Students	現員に対する比率 The ratio
2年	3	3	3.0%
3年	4	6	5.0%
4年	1	8	4.4%
5年	22	13	17.2%
合計	30	30	5.9%

注1) 日本学生支援機構は、令和2年4月よりスタートした高等教育の修学支援制度における給付奨学生と、貸与奨学生の合算人数となります。
(給付・貸与併用者は1名として数える)

注2) 各自治体、法人及び企業からの奨学生になります。

●卒業生の進路（令和4年3月卒業生） Career Path of the Graduates, Class of 2021（ ）内は女子内数（ ）means the Number of the Female Students

区 分 Classification	機械システム 工学科 Mech.Eng.	電気電子システム 工学科 Elec.Eng.	化学・バイオ 工学科 Chem.Biochem.	都市システム 工学科 Civil.Eng.	ビジネス コミュニケーション 学科 BC	合 計 Total
卒業生数 The Number of Graduates	36 (2)	32 (1)	36 (13)	40 (16)	37 (30)	181 (62)
進学者数 The Number of Students Going to University	21 (2)	13 (1)	18 (4)	20 (7)	15 (12)	87 (26)
就職者数 The Number of Employed	13	18	18 (9)	20 (9)	18 (17)	87 (35)
各種学校その他 Special Training School etc.	2	1	0	0	4 (1)	7 (1)

●就職者の産業別分野 Employment by Industry

産業別分野 Field of Industry	機械システム 工学科 Mech.Eng.	電気電子システム 工学科 Elec.Eng.	化学・バイオ 工学科 Chem.Biochem.	都市システム 工学科 Civil.Eng.	ビジネス コミュニケーション 学科 BC	合 計 Total
建 設 業 Construction				9 (5)	1 (1)	10 (6)
製 造 業 Manufacturing	食料品・飲料 たばこ・飼料 Food / Beverage Products Cigaret / Animal food	1				1
	化学工業 石油・石炭製品 Chemical Petroleum / Coal Products	1	4 (3)		2 (2)	7 (5)
	紙・繊維加工 Paper/Fiber Processing	4	1			5
	鉄鋼業・非鉄金属 金属製品 Steel Industry/Non-iron Metal Products	1	1	5 (2)		7 (2)
	電気機械器具 Electrical Machinery	2	5	2 (1)	1	11 (2)
	輸送機械器具 Transpotation Machinery				1 (1)	1 (1)
	その他 Others	2	2	7 (3)	1	12 (3)
電気・ガス 熱供給・水道業 Electric / Gas Heat / Water Supply		1		6 (3)	6 (5)	13 (8)
情報通信業 Informations		3		1	4 (4)	8 (4)
運輸業・郵便業 Transpotation / Communications	1	1				2
学術研究 専門技術サービス業 Academic Study etc	1	2		1	3 (3)	7 (3)
その他のサービス業 Other Service		2		1 (1)		3 (1)
計 total	13	18	18 (9)	20 (9)	18 (17)	87 (35)

●大学等編入学状況（国公立） Students Continuing Education at National, Public, and Private Universities ()内は女子内数 ()means the Number of the Female Students

卒業年度 Graduation Year			平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021
大学名 University							
国 公 立 大 学	小樽商科大学 Otaru University of Commerce					1	
	北海道大学 Hokkaido University					1	
	弘前大学 Hirosaki University						1
	岩手大学 Iwate University			1		1 (1)	
	東北大学 Tohoku University	1	4 (2)	3	3	3	
	秋田大学 Akita University					1	1
	山形大学 Yamagata University			1	1		2
	福島大学 Fukushima University	3 (1)	2 (1)	2	3	1	
	茨城大学 Ibaraki University	4 (1)	4 (1)	4	5	4 (2)	
	宇都宮大学 Utsunomiya University	3	3	4 (2)	5 (3)	1	
	群馬大学 Gunma University			1 (1)	1		
	千葉大学 Chiba University	3 (1)	2		6 (2)	3	
	横浜国立大学 Yokohama National University	1			1	1	
	山梨大学 University of Yamanashi	1 (1)	1				
	信州大学 Shinshu University	1	1	1	1		
	新潟大学 Niigata University	2 (2)	6 (1)	2 (2)	2 (1)	4 (1)	
	筑波大学 University of Tsukuba	1	1 (1)	2 (1)	5 (4)	5 (2)	
	長岡技術科学大学 Nagaoka University of Technology	7	9 (2)	8 (1)	7	11 (2)	
	お茶の水女子大学 Ochanomizu University	1 (1)	1 (1)	1 (1)		2 (2)	
	電気通信大学 The University of Electro-Communications	1			2	1	
	東京工業大学 Tokyo Institute of Technology	3	1	2	1 (1)	1	
	東京農工大学 Tokyo University of Agriculture and Technology	4 (1)	3 (2)	8 (2)	3	2 (1)	
	東京海洋大学 Tokyo University of Marine Science and Technology		1		1 (1)		
	岐阜大学 Gifu University	2	4 (1)	1 (1)		1	
	静岡大学 Shizuoka University		1				
	名古屋大学 Nagoya University				1 (1)		
	豊橋技術科学大学 Toyohashi University of Technology	4	3 (1)	2	5	3	
	滋賀大学 Shiga University	1 (1)	1 (1)		1 (1)		
	神戸大学 Kobe University		1			2 (2)	
	奈良女子大学 Nara Women's University	1 (1)					
	和歌山大学 Wakayama University				1 (1)		
	広島大学 Hiroshima University					1	
	愛媛大学 Ehime University				1		
	高知大学 Kochi University					1 (1)	
	九州大学 Kyushu University				2 (2)	2 (1)	
	琉球大学 University of the Ryukyus					1	
	長野大学 Nagano University				1 (1)		
	東京都立大学 Tokyo Metropolitan University	1			1	2	
	福岡県立大学 Fukuoka Prefectural University				1 (1)		
私 立 大 学	東北芸術工科大学 Tohoku University of Art & Design					1 (1)	
	千葉工業大学 Chiba Institute of Technology		1	1		1	
	千葉商科大学 Chiba University of Commerce				1 (1)		
	上智大学 Sophia University		1				
	専修大学 Senshu University			1 (1)			
	多摩美術大学 Tama Art University			1			
	中央大学 Chuo University					1	
	東京都市大学 Tokyo City University					2 (1)	
	明治学院大学 Meiji Gakuin University				1		
	早稲田大学 Waseda University	1					
	学習院女子大学 Gakushuin Women's College	1 (1)	1 (1)				
専 攻 科	関西外国語大学 Kansai Gaidai University				1 (1)		
	福島高専専攻科 Fukushima National College of Technology	24 (6)	35 (6)	43 (15)	26 (6)	26 (10)	
計 Total			71 (17)	89 (21)	88 (27)	93 (28)	87 (26)

●専攻科修了生の進路（令和3年度修了）

（ ）内は女子内数（ ）means the Number of the Female Students

Place of employment / Graduate school : Advanced Course graduates (Certificate of Graduation from Advanced Course, March 2021)

区 分 Classification	産業技術システム工学専攻 Industrial Technology System Engineering Course	ビジネスコミュニケーション学専攻 Business Communicology Course	計 Total
修了者数 Number Completion	39 (10)	5 (5)	44 (15)
進学者数 Number Continuing Education	11 (4)	1 (1)	12 (5)
就職者数 Number Employed	27 (6)	4(4)	31 (10)
各種学校その他 Special Training School etc.	1	0	1

●就職者の産業別分野 Employment by industry

産業別分野 Field of industry	産業技術システム工学専攻 Industrial Technology System Engineering Course	ビジネスコミュニケーション学専攻 Business Communicology Course	計 Total
建 設 業 Construction	5 (3)		5 (3)
製 造 業 Manufacturing	化学工業 Chemical		2
	石油・石炭製品 Petroleum / Coal Products		2
	鉄鋼業・非鉄金属 Steel Industry/Non-iron Meta lproducts		1
	金属製品 Metal Products		1
	電気機械器具 Electrical Machinery	1 (1)	2 (1)
その他 Others	6		6
電気・ガス・熱供給・水道業 Electricity/Gas/heat supply water services	3 (1)		3 (1)
情報通信業 Informations	2	1 (1)	3 (1)
運輸業・郵便業 Transpotation/Communications	1		1
学術研究 専門技術サービス業 Academic Study etc	3 (2)	1 (1)	4 (3)
公 務 Public Service	3		3
地方事務 Local Civil Servant			
その他のサービス業 Others service		1 (1)	1 (1)
計 total	27 (6)	4 (4)	31 (10)

●進学状況 Entrance into Graduate Schools

（ ）内は女子内数（ ）means the Number of the Female Students

修了年度 Completion Year	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	計 Total
大学院・大学 Graduate School, University						
東北大学大学院 Graduate School of Tohoku University	2	2	1		3 (1)	8 (1)
山形大学大学院 Graduate School of Yamagata University				1		1
福島大学大学院 Graduate School of Fukushima University		1 (1)			1 (1)	2 (2)
茨城大学大学院 Graduate School of Ibaraki University		1	2			3
宇都宮大学大学院 Graduate School of Utsunomiya University	1				1 (1)	2 (1)
横浜国立大学大学院 Graduate School of Yokohama University				1	1 (1)	2 (1)
新潟大学大学院 Graduate School of Niigata University					3 (1)	3 (1)
長岡技術科学大学大学院 Graduate School of Nagaoka University	1	1				2
東京工業大学大学院 Graduate School of Tokyo Institute of Technology	1	2				3
東京農工大学大学院 Graduate School of Tokyo Agriculture and Technology University	1					1
北陸先端科学技術大学院大学 Japan Advanced Institute of Science and Technology		1	1		1	3
京都大学大学院 Graduate School of Kyoto University					1	1
京都工芸繊維大学大学院 Graduate School of Kyoto Institute of Technology		1 (1)				1 (1)
山口大学大学院 Graduate School of Yamaguchi University		1 (1)				1 (1)
高知大学大学院 Graduate School of Kochi University				1		1
東京都立大学大学院 Graduate School of Tokyo Metropolitan University		1				1
慶應義塾大学大学院 Graduate School of Keio University					1	1
計 Total	6	11 (3)	4	3	12 (5)	36 (8)

■収入支出決算額（令和3年度） Finances (2021)

令和4年3月31日現在 As of March 31, 2022

●収入決算額 Revenue (千円) (shown in thousand yen)

区 分 Classification	決算額 Settled Accounts
運営費交付金 Grants-in-Aid for Operating Expenses	137, 843
授 業 料 Tuition Fee	249, 259
入学・検定料 Entrance Fee	24, 905
財産貸付料 Property Rental Charge	4, 197
その他収入 Others	22, 749
施設整備費 Grants-in-Aid for Facility Improvement Expenses	714, 580
合 計 Total	1, 153, 533

※科学研究費補助金及び外部資金を除く

●支出決算額 Expenditure (千円) (shown in thousand yen)

区 分 Classification	決算額 Settled Accounts
人 件 費 Personal Expenses	41, 058
教育研究経費 Education Research Expenses	319, 136
教育研究支援経費 Education Research support Expenses	26, 779
一般管理経費 General Management Expenses	55, 777
施設整備費 Facility Improvement Expenses	714, 580
合 計 Total	1, 157, 330

※科学研究費補助金及び外部資金を除く

■科学研究費助成事業及び外部資金の受入状況 Grant-in-Aid for Scientific Research and Acceptance of External Funds

(千円) (shown in thousand yen)

科学研究費助成事業 Grants-in-Aid for Scientific Researches	27	29, 205
共 同 研 究 Joint Research	16	20, 871
受 託 研 究 Commissioned Research	7	34, 121
受 託 事 業	7	46, 523
補 助 金	7	49, 781
寄 附 金 Endowments	19	11, 180
そ の 他 の 助 成 金 Other Endowments	10	10, 144

■土地・建物 School Grounds, Buildings and Facilities

●土地 School Grounds

令和4年4月1日現在 As of April 1, 2022

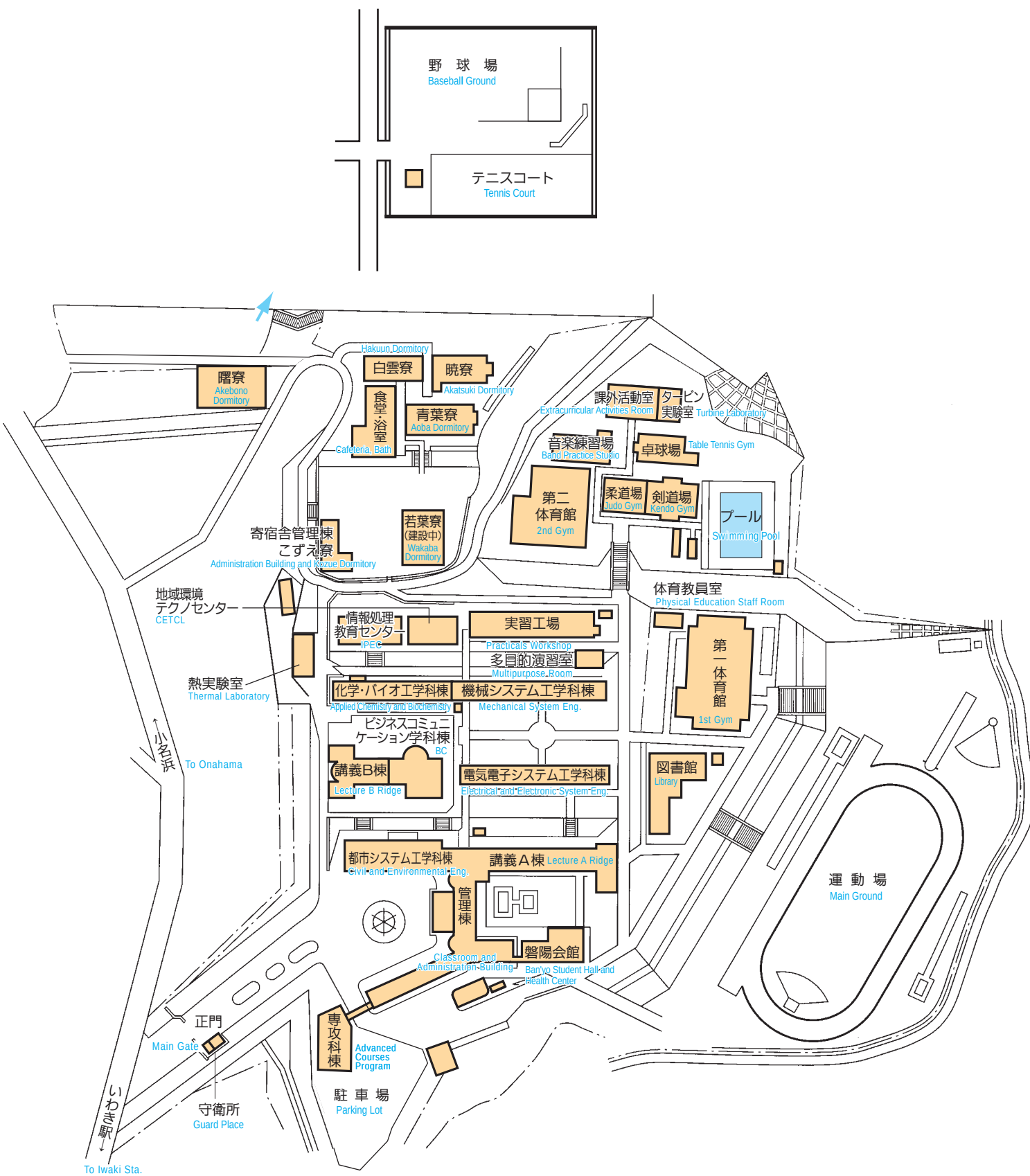
校舎・ 管理施設敷地 Building and Facility Site	屋外運動場 Area of Athletic Fields		寄宿舎敷地 Dormitory Site	その他法地、 湿地 Slope/Damp Ground	小 計 Subtotal	職員宿舎敷地 Official Residence Site	合 計 Total
	陸上競技場300mトラック Track and Field	第二運動場、野球場、テニスコート Baseball Ground, Tennis Court					
48, 096㎡	15, 515㎡	18, 874㎡	13, 399㎡	9, 725㎡	105, 609㎡	5, 729㎡	111, 338㎡

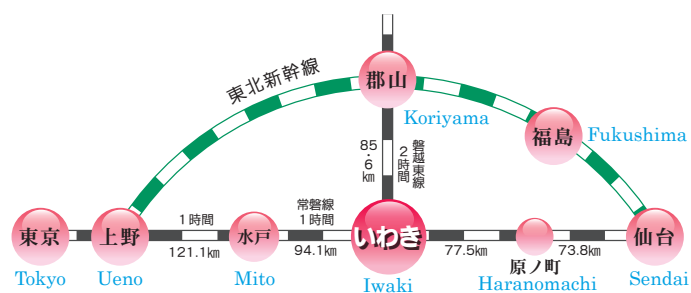
●建物 Buildings

令和4年4月1日現在 As of April 1, 2022

区 分	建物名 Building	延 べ 面積㎡
校 舎 管理部 管理施設等	管理棟・講義A棟 Classroom and Administration Building・Lecture A Ridge	5, 133
	機械システム工学科棟 Department of Mechanical System Engineering	1, 765
	電気電子システム工学科棟 Department of Electrical and Electronic System Engineering	1, 736
	講義B棟 Lecture B Ridge	1, 990
	化学・バイオ工学科棟 Department of Applied Chemistry and Biochemistry	1, 472
	都市システム工学科棟 Department of Civil and Environmental Engineering	1, 734
	ビジネスコミュニケーション学科棟 Department of Business Communication	1, 851
	専攻科棟 Advanced Courses Program	1, 160
	機械実習工場 Machine Practicals Workshop	636
	熱実験室 Thermal Laboratory	136
	タービン実験室 Turbine Laboratory	108
	情報処理教育センター Information Processing and Education Center	313
	地域環境テクノセンター Center for Environmental Technology and Community Liaison	420
	体育教員室 Physical Education Staff Room	41
	多目的演習室 Multipurpose Room	93
	その他 Others	787
小 計	Subtotal	19, 375
図書館	図書館 Library	1, 689
屋 内 運動場	第一体育館 1st Gym	1, 193
	第二体育館 2nd Gym	882
	剣道場 Kendo Gym	450
	柔道場 Judo Gym	242
	卓球場 Table Tennis Gym	268
	小 計 Subtotal	3, 035
屋 外 運動場 附属施設	体育器具庫(3棟) Warehouse	134
	プール更衣室(2棟) Pool Locker Room	82
	その他 Others	56
小 計	Subtotal	272
福利厚生 施設等	磐陽会館 Ban'yo Student Hall and Health Center	698
	音楽練習場 Band Practice Studio	180
	課外活動室 Extracurricular Activities Room	168
小 計	Subtotal	1, 046
寄宿舎	寄宿舎管理棟・こずえ寮 Administration Building and Kozue Dormitory	524
	若葉寮 Wakaba Dormitory	1, 507
	青葉寮 Aoba Dormitory	863
	暁寮 Akatsuki Dormitory	745
	白雲寮 Hakuun Dormitory	1, 057
	食堂・浴室 Cafeteria, Bath	671
	曙寮 Akebono Dormitory	1, 510
小 計	Subtotal	6, 877
職員宿舎	職員宿舎 Official Residence	2, 270
合 計	Total	34, 564

■建物配置図 Campus Map





【JRの場合】最寄りの駅はJR常磐線いわき駅です

※東京駅から特急ひたちで約2時間25分

※郡山駅から磐越東線で約2時間

※仙台駅から特急ひたちで約2時間10分

※JR常磐線いわき駅からタクシーで約5分

※JR常磐線いわき駅前から新常磐交通バスで約10分

(⑥番のりば鹿島経由小名浜行き又は医療創生大経由ラパークいわき行きで高専前で下車)

【自動車の場合】高速道路利用

※常磐自動車道、磐越自動車道ともいわき中央I.C.から車で約15分

福島工業高等専門学校要覧

2022年5月発行

編集発行 福島工業高等専門学校

〒970-8034 福島県いわき市上荒川字長尾30

TEL. 0246-46-0700 (代表) FAX. 0246-46-0713 (総務課)

URL <https://www.fukushima-nct.ac.jp>

